

詳查スヘシ

第八十六條 在監人ヨリ發スル信書ハ必ス書信紙ヲ用ルシメ典獄之ヲ緘シ封皮ニ其受領スヘキ者ノ住所氏名ヲ書シ某監獄署ト記シ之ヲ遞送ス但郵便稅ハ自辨セシム

第四章 接見

第八十七條 在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄先ツ之ニ面接シテ其氏名族籍營業等ヲ訊ヒ其緣由ヲ詳悉シ已ムヲ得サルノ事狀アリテ形跡ノ疑フヘキトキハ之ヲ許シ看守長看守並ニ面會セシム但密室ニ在ル者ハ接見ヲ許サズ
面會ノ時間ハ三十分時ヲ過ルヲ得ス若シ面會ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲナシタルトキハ直ニ之ヲ停止ス

第八十八條 死刑ノ執行及ヒ徒刑流刑禁獄ノ刑ヲ受マル囚徒ヲ集治監ニ押送ノ以前親屬故舊其因徒ニ面會セント請フトキハ前條第一項ノ例ニ依テ之ヲ許ス但面會ノ時間ハ五十分時ヲ過ルヲ得ス

第五章 差入品

第八十九條 未決者及ヒ懲治人ニ其親屬故舊ヨリ書籍用紙衣服臥具又ハ飲食物炊煮ヲ要セサルモノニ關シテ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但酒又ハ煙草其他衛生ニ害アルモノハ此限ニ在ラス

第九十條 已決囚ニハ書籍用紙ノ外一切差入品ヲ許サズ

第九十一條 假出獄免幽閉ヲ受マル徒刑流刑ノ者親屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第四編

第一章 教誨

第九十二條 已決囚及ヒ懲治人教誨ノ爲メ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ諭セシム

第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日ノ午後ニ於テ其講席ヲ閉クモノトス

第九十四條 懲治人ニハ毎日三四時間讀書習字算術度量圖畫等ノ科目中ニ就キ之ヲ教フヘキモノトス

學科ハ懲治場ノ教場ニ於テ之ヲ研究セシメ其學業ノ進歩ヲ表スル爲メ就學ノ年月卒業ノ科目學業ノ優劣及ヒ行狀ノ良否氏名年齢等ヲ簿冊ニ記載シ巡閱官吏ノ檢閱ニ供シ又ハ其尊屬親ニ示スコトアルヘシ

第九十五條 各監房內ニ左ノ諸款ヲ揭示シ傍觀覽シテ解シ易カラシムヘシ若シ文字ヲ識ラサル者アレハ入監ノ時ヨリ二十四時內ニ於テ之ヲ讀ミ聽スヘシ

揭示

- 一 在監人ハ常ニ禁令ヲ遵守スヘシ
- 一 平日互ニ和順ヲ主トシ教誨講席ノ席ニ就クトキハ憤テ容止ヲ正フスヘシ未決監ニハ此款ヲ除ク
- 一 毎朝父母若クハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜スヘシ
- 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ檢査ヲ受ケ及ヒ席壁周圍等ヲ掃除スヘシ
- 一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ハ唾キ貯水ヲ濫用スルヲ禁ス
- 一 監外ニ出タル時其途上ニ於テ全往ノ者ト交談シ及ヒ手ヲ交ヘ或ハ路人ニ聲語スルヲ禁ス
- 一 夜間ハ最も鎮靜ヲ主トシ說話或ハ發聲又ハ濫リニ起步スルヲ禁ス但晝間ト雖モ放歌喧嘩又ハ高聲ニ誦讀スルヲ禁ス
- 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ競ヒ若クハ賭博類似ノ惡戯ヲナシ或ハ同房ノ者ニ

汚辱ヲ被ラシメ糞穢ニ涉ルカ如キ所爲アルヲ禁ス

一 服役中共作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩ノ時間部外ノ工場ニ至ルヲ禁ス 未決監ニハ此款ヲ除ク

一 許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルヲ禁ス

一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラス直ニ看守所ニ通報スヘシ

一 日没後ハ疾病スルモ其症急劇ナルニ非レハ翌朝ニ至テ醫療ヲ乞フヘキモノトス若シ劇症ナルトキハ直ニ看守所ニ通報スヘシ

一 獨居ノ者卒カニ病ヲ發シタルトキハ監房ヨリ看守所ニ架スル所ノ鐵器繩ヲ引キ以テ之ヲ報スヘシ

一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保ニカヲ致スヘキハ勿論其看病人ヲラシムル者ハ切實ニ之ヲ看病スヘシ

一 水火風震等ノ際解放ニ遭フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時内ニ監獄署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ

右ノ諸款ニ違フ者及ヒ違フ者アルヲ知テ告ケサル者又ハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ舉ケケル者ハ其情狀ヲ量リ處分スヘキモノナリ

年 月 日

某 監 獄 署

第二章 賞與

第九十六條 已決囚獄則ヲ遵守シ且改悛ノ行爲著キ者ト典獄ニ於テ確認スルキハ之ヲ賞與スヘシ

第九十七條 賞與セシ者ニハ賞與セシ毎ニ之ヲ表スル爲メ獄衣ノ左袖ノ裏面ニ方二寸曲ノ淺藍色ノ布ヲ縫着スヘシ

第九十八條 賞與ハ假出獄免圍閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲スヲ得

第九十九條 賞與ヲ得タル者ニハ二月ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ通信スルヲ許ス

第一百條 已決囚若シ在監人ノ逃走ヲ密告又ハ捕得シ或ハ監獄ニ係ル水火災ヲ防禦シ人命ヲ救援シタル者アレハ金二十五錢以下ヲ賞與シ其賞金ハ監署ニ領置シ木入ノ請ニ由リ必用品又ハ食物ヲ購求スヘシ但第九十七條ノ賞與ヲ與フルノ限ニ在ラス

第一百一條 未決監ニ在ル者前條ノ勞動アルトキハ之ヲ録シテ檢察官及ヒ裁判官ノ參考ニ供スヘシ

第一百二條 總治人第百條ニ適シタル勞動アルトキハ金二十五錢以下ヲ以テ適宜物品ヲ購ヒ之ヲ與フヘシ

第三章 懲罰

第一百三條 已決囚獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 絶信 親屬故舊ト書信接見ヲ絶ス

二 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時限表ニ照シテ座作ノ役ヲ科ス

三 減食 常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

第一百四條 關室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

減食關室七晝夜ニ滿ルモ改悛ノ狀ナキトキハ一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ科スルコトヲ得

第一百五條 總治人及ヒ十六歳未滿ノ已決囚獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨居 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 常食ノ半以內ヲ減ス但菜ヲ減スルノ限ニ在ラス

第一百六條 獨居ハ七晝夜以內減食ハ三日以內トス

乳提	乳提 △男或ハ女 △或監ノ時何處何ケ月 △明治何年月日午 後 何時入監 △何罪ヲ犯ス	身	身長何寸何分何厘何毫 △長何尺何寸何分何厘何毫	容	面額眉目耳鼻口ノ形容面色ノ黒白四肢ノ姿態其他痘瘡癩癧瘰癧風天 △髪髮ヲ詳記ス可シ △髪髮ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス △文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ書ク讀書ヲナス △何宗或ハ宗門不詳	教育及ヒ宗門	入監中ノ行狀	借借ノ贈答 △明治何年月日何國郡町住居屬若クハ朋友ニ書信發 △贈答ノ月日答	常該官ノ氏名	保釋 貴付 △明治何年月日保釋若クハ貴付 △明治何年月日病死或ハ變死或ハ脱監 △明治何年月日放免若クハ刑ノ宣書執行又ハ他處押送	事	結	已決囚名籍 主檢 書記 △氏名印	典獄(檢印)	△某管下國郡町番地住又ハ何某子弟妻女 △族籍 △何 某 △某年 月 日生 △明治何年月日何年月	水出山氏 △何國郡町産 △某管下國郡町番地住又ハ何某子弟妻女 △族籍 △何 某 △某年 月 日生 △明治何年月日何年月	生	△男若クハ女 △父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無 △最監ノ時何處何ケ月 △父母ニ先チテ出監シ或ハ死去シタルトキハ之ヲ詳記ス
----	--	---	----------------------------	---	--	--------	--------	---	--------	--	---	---	------------------	--------	---	---	---	--

刑名及ヒ管管ノ月	△明治何年 月 日 △明治何年 月 日何處何所ニ於テ宣書	收監ノ年月日	△明治何年 月 日午 後 何時入監 △明治何年月日午 後 何時入監	犯山ノ大略	△材物ヲ竊取シ或ハ入ヲ竊傷スル等犯罪ノ大略ヲ記ス △若シ再三犯ナレハ往年何罪ヲ犯シ其裁判所ニ於テ何刑ニ處セラル	身	身長何寸何分何厘何毫 △長何尺何寸何分何厘何毫	容	面額眉目耳鼻口ノ形容面色ノ黒白四肢ノ姿態其他痘瘡癩癧瘰癧風天 △髪髮ヲ詳記ス可シ △髪髮ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス △文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ書ク讀書ヲナス △何宗或ハ宗門不詳	教育及ヒ宗門	入監中ノ行狀	借借ノ贈答 △明治何年月日何國郡町住居屬若クハ朋友ニ書信發 △贈答ノ月日答	常該官ノ氏名	保釋 貴付 △明治何年月日保釋若クハ貴付 △明治何年月日病死或ハ變死或ハ脱監 △明治何年月日放免若クハ刑ノ宣書執行又ハ他處押送	事	結	已決囚名籍 主檢 書記 △氏名印	典獄(檢印)	△某管下國郡町番地住又ハ何某子弟妻女 △族籍 △何 某 △某年 月 日生 △明治何年月日何年月	水出山氏 △何國郡町産 △某管下國郡町番地住又ハ何某子弟妻女 △族籍 △何 某 △某年 月 日生 △明治何年月日何年月	生	△男若クハ女 △父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無 △最監ノ時何處何ケ月 △父母ニ先チテ出監シ或ハ死去シタルトキハ之ヲ詳記ス
----------	---------------------------------	--------	--------------------------------------	-------	--	---	----------------------------	---	--	--------	--------	---	--------	--	---	---	------------------	--------	---	---	---	--

十七年大政官第三十二號

二十三年法律第六號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

○第八十五號 (九月二十七日 輪廊附)

本年八月第七十五號津大藏省租稅局松江出張所收稅區畫中へ鳥取縣ヲ追加候條此旨相達候事

○第八十六號 (十月四日 輪廊附)

治罪法實施ニ付テハ大審院其他各裁判所公庭取締ノ使用ニ供スルタメ其院長所長ノ照會ニ應シ一名又ハ數名ノ巡查爲相請又拘留被告人審問中ハ其護送ノ巡查或ハ押丁ヲシテ守卒トシテ公庭ニ入リ看護セシムヘン此旨相達候事

○第八十七號 (十月十日 輪廊附)

官省院使廳府縣

明治十年月 第九十一號 達神宮并官國警社職員中左ノ通追加候條此旨相達候事

等外出仕 定員ナシ

但各社ノ便宜ニ依リ内務省へ稟議ノ上之ヲ置ク其係給ハ内務卿適宜之ヲ定ム

○第八十八號 (十月二十一日)

官省院使廳府縣

大政官中法制會計軍事内務司法外務ノ六部被廢候條此旨相達候事

○第八十九號 (十月二十一日 輪廊附)

官省院使廳府縣

大政官中參事院ヲ被置職制章程左ノ通被定候條此旨相達候事

參事院職制

議長	一人	相當 一等
副議長	一人	同
議員	無定員	同 一等ヨリ 三等ニ至ル
議員補	無定員	同 四等ヨリ 七等ニ至ル
員外議員補	無定員	同

各省書記官ノ中ヲ以テ兼テ之ニ充ツ相當木官ニ依ル

書記官 無定員

議員補ノ中ヲ以テ兼テ之ニ充ツ相當木官ニ依ル

書記生 無定員

相當十七等ヨリ 至ル

參事院章程

第一條 參事院ハ大政官ニ屬シ内閣ノ命ニ依リ法律規則ノ草定審査ニ參預スルノ所トス

第二條 參事院ノ職員ハ議長一人副議長一人議員及議員補員外議員補トス

第三條 議員ノ中議長ノ命ヲ以テ部長六人ヲ置キ各部ノ事務ヲ提理ス

第四條 議員補ハ各部ニ分屬シ議案ヲ造リ及會議ニ列シ木案ノ趣旨ヲ辨明ス

第五條 員外議員補ハ各省書記官ノ中ヲ以テ兼テ之ニ充ツ木職主任ノ件ニ限リ臨時議事ニ列席ス

第六條 書記官ハ議員補ノ中ヲ以テ之ニ充テ議長内局ノ事ヲ幹ス

第七條 參事院ノ事務左ノ如シ

第一 木院ノ發議ヲ以テシ又ハ内閣ノ命ニ因リ法律規則案ヲ起草シ理由ヲ具ヘテ内閣ニ上申ス

第二 各省ヨリ上稟スル所ノ法律規則案ヲ審査シ意見ヲ具ヘ或ハ修正ヲ加ヘ内閣ニ上申ス

第三 元老院ニ於テ議決スル所ノ法案ヲ審査シ時宜ニ依リ意見書ヲ具ヘテ内閣ノ命ヲ請ヒ元老院ノ再議ヲ求ムルコトヲ得或ハ内閣ノ命ニ依リ木院ノ委員ヲ差シ元老院ト叶議スルコトヲ得

第四 院省使廳府縣ヨリ上稟シタル諸般ノ文書ヲ内閣ヨリ下付スルトキハ意見ヲ具ヘテ上申ス

第五 各省ノ年報及諸般ノ報告ヲ勘査ス

第八條 前條ノ外參事院ハ仍ホ左ノ二件ノ事務ヲ行フ

第一 行政官ト司法官トノ際ノ權限ノ爭若クハ地方議會ト地方官トノ間ニ起ル所ノ法律上又ハ

十七年大政官第三十二號

二十三年法律第六號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

十五年大政官第五十號

權限ノ爭ヲ審理ス

第二 法律規則ノ疑義ニ付省使廳府縣ノ質問ニ答ヘ説明ヲ與フ

第九條 時宜ニ依リ特旨ヲ以テ議官ヲ内閣ニ召シ各別ニ意見ヲ上陳セシムルコトアルヘシ

第十條 議官ハ内閣ノ命ニ因リ内閣委員トナリテ元老院ニ出頭シ議案ヲ辨明スルコトアルヘシ

第十一條 木院中左ノ事務ヲ分掌スル爲メニ内局及六部ヲ置ク

内局 院中ノ庶務及圖書ノ事

外務部 外交ノ事

内務部 内治勸業工業教育ノ事

軍務部 陸海軍ノ事

世務部 歲出歳入及國債貨幣租稅ノ事

司法部 恩赦特典及裁判ノ章程權限并行政裁判ノ事

法制部 民法訴訟法商法刑法治罪法ノ事

第十二條 木院ノ議事ハ分テ部會議總會議ノ二類トス部會議ハ一部ノ議官議官補會議シ若シ兩部以上關係アル議案ニ就イテハ兩部以上ノ議官議官補聯合會議スル者トス總會議ハ六部ノ議官議官補共同會議スル者トス

第十三條 法律及外國條約案ニ係リ又ハ第八條第二項ノ件ニ係ル者ハ總會議ヲ用フヘシ其他議長ニ於テ重要事件ト思惟スル者ハ總テ之ニ準スヘシ

第十四條 部會議ノ成案ニ就キ議長ニ於テ異見アルトキハ更ニ總會議ニ付スヘシ

第十五條 總會議ニ於テ議長事故アリテ關席スルトキハ副議長上席スヘシ議長辭職長共ニ事故アリテ關席スルトキハ議長ノ撰ヲ以テ假ニ上席人ヲ定ムヘシ

二十二勅令第九十三號ニ依リ消滅

十八年太政官第七十一號
二十三年法律第三十五號令第九十一號ニ依リ消滅
十八年内閣第七十八號令第一號
法律中議事院議長ヲ法制局長官ト改メテ法制局ト改メ

第十六條 部會議ニ於テ部長事故アリテ關席スルトキハ該部長ノ撰ヲ以テ假ニ上席人ヲ定ムヘシ

第十七條 凡ソ會議ニ上席スル者ハ議事可否共ニ多數ヲ得サル時ニ當リ判決ノ權ヲ有ス

第十八條 内閣員ハ臨時ニ總會議又ハ部會議ニ臨席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第十九條 議案ノ總會議ヲ經タルモノハ議長ノ名ヲ以テ内閣ニ上申スヘシ其總會議ニ付セサル者ハ部議ヲ經ルノ後内局ニ送り議長之ヲ審署シ其名ヲ以テ内閣ニ上申スヘシ

第二十條 凡ソ文案稽失スル者アレハ内局ニ於テハ書記官各部ニ於テハ部長共責ニ任スヘシ

○第九十號(十月二十四日 檢閱附)

官省院使廳府縣

監獄則第五十一條中左ノ通追加條此旨相違候事

十分シテ下(重罪囚ニハ)ノ五字其一分ノ下(輕罪囚ニハ共二分)ノ八字未決者ノ下(并ニ第九條第一款ニ記載シタル懲治人)ノ十八字ヲ加フ

○第九十一號(十月二十八日 檢閱附)

官省院使廳府縣

今般參事院ヲ被置候ニ付本年第二號達審理局ヲ被廢事務手續左ノ通被定候條此旨相違候事

但本文ノ儀ハ府縣會ニ達シ置クヘシ

第一條 本年第四號布告府縣會規則第九條追加ニ依リ府知事縣令及ヒ府縣會ヨリ裁定ヲ請フノ具

狀書ハ府知事縣令ニ於テ之ヲ取懸メ參事院議長ニ當テ差出スヘシ

第二條 裁定ヲ要スル事件具狀書ヲ以テ悉サハルコトアルトキハ府知事縣令若クハ其代理人及ヒ府縣會總代自ラ參事院ニ出頭シテ之ヲ辯明シ又ハ參事院ヨリ之ヲ召喚シテ尋問スルコトアルヘシ

但府縣會總代ハ其議員タル者ニ限ル

第三條 裁定書ハ其議決ノ理由ヲ詳記シ審理委員連署シテ之ヲ發付スヘシ

○第九十二號 (十月三十一日 檢附)
官省院使廳府縣
明治十年六月第四十七號遠大審院裁判所屬ヲ廢シ更ニ大審院裁判所書記ヲ置キ月俸左表ノ通相定候
條此旨相達候事

大審院書記	判	任
月五拾圓	月四拾五圓	月四拾圓
月四拾五圓	月四拾圓	月三拾五圓
月三拾五圓	月三拾圓	月二拾五圓
月二拾五圓	月二拾圓	月一拾五圓
月一拾五圓	月一拾圓	月五圓

○第九十三號 (十一月五日 檢附)
官省 內務大藏工 院使廳府縣
今般日本鐵道會社ノ創設ヲ許可シ別紙ノ通特許條約書相定候條爲心得此旨相達候事
(別紙)

東京ヨリ青森ニ至ル鐵道特許條約書

日本鐵道會社ノ創立定款ヲ認可シ政府ノ名ヲ以テ左ノ條項ヲ命約ス

明治十四年 月

工部卿某

第一條 日本鐵道會社ニ於テ東京ヨリ高崎ヲ經テ前橋ニ至リ夫ヨリ白河仙臺盛岡ヲ經テ青森ニ至
ル鐵道ヲ建築シ運輸ノ業ヲ營ムコトヲ特許ス

第二條 官有ノ土地ニシテ鐵道ノ線路ニ當ル地所及ヒ鐵道ニ必要ナル倉庫停車場建築ノ用ニ供ス
ヘキ地所ハ無償ニテ之ヲ會社ニ貸付スヘシ同上ノ用ニ供シ或ハ取除クヘキ官有ノ家屋ハ政府ノ
都合ニ因リ或ハ無償ニテ之ヲ貸付シ或ハ相當代價ヲ以テ拂下クヘシ

第三條 民有ノ土地家屋ニシテ前條ノ用ニ供スヘキ者ハ公用土地買上規則ニ據テ政府ニ買上ケ之
ヲ會社ニ拂下クヘシ

第四條 鐵道ニ屬スル一切ノ土地ハ國稅ヲ免除スヘシ

第五條 會社ノ總金募集ノ上ハ每區建築落成迄ハ其總金拂込ノ翌月ヨリ起算シ一ケ年八分ノ利子
ヲ下付シ每區運輸開始ノ後其收入ノ純益一ケ年八分ニ上ラサルキハ東京ヨリ仙臺迄ノ間ハ每區
十ヶ年間仙臺ヨリ青森迄ハ每區十五ヶ年間政府ヨリ其不足ヲ補給スヘシ

第六條 會社總收入ヨリ營業ニ關スル經費ヲ引去リ自餘ノ金額ヲ以テ純益ト爲スヘシ
但シ興業費ト營業費ハ工部省ニ於テ定メタル會計規則ニ從ツテ區別スヘシ

第七條 鐵道敷地ノ幅員鐵軌ノ重量器械車ノ製方橋梁ノ架設停車場ノ位地及ヒ建築ノ方法等ハ精
密ナル圖面及ヒ仕様書ヲ以テ工部卿ノ認可ヲ請ケテ建築ニ著手シ若シクハ變更スヘキモノトス

第八條 東京ヨリ前橋ニ至ル迄ノ諸工事ハ日本鐵道會社ノ願ニ依リ工部省鐵道局ニ於テ一切之ヲ
執行シ其方法位地等ハ鐵道局ト會社トノ協議ヲ以テ決定シ工部卿ノ認可ヲ請クヘキモノトス

第九條 工部卿ハ凡ソ鐵道ニ關スル事務總明ニ係ルモノニシテ公衆ノ安全若クハ便益上ニ於テ要
用アリト認ムルモノハ日本鐵道會社ニ向テ其設備若クハ修正ヲ命スルコトヲ得ヘシ

第十條 第一條ニ掲グルル鐵道全線路ノ工事ハ本書下付ノ月ヨリ六ヶ月以内ニ著手シ滿七ヶ年間ニ
落成スヘキモノトス

第十一條 全線路落成ニ至ラスト雖モ漸次落成シタル部分ハ工部卿ノ許可ヲ請ケ運輸ノ業ヲ開始
スルヲ得ヘシ

第十二條 政府ハ第一鐵道監査官ヲ命シ兼テ工部卿ノ認可シタル圖面及ヒ仕様書ニ準據シテ工事
ノ實況ヲ監査シ且常ニ線路諸機械等ヲ巡視シテ危險ノ箇所アルトハ會社ニ命令シテ之ヲ修理セ
シメ其他諸工事及ヒ運輸上等ニ付法律規則及ヒ政府ヨリ會社ニ命約シタル條件ノ施行實踐ヲ督
促セシム第二日本鐵道會社會計監査官ヲ命シ會社一切ノ會計ヲ監査セシムヘシ但前第五條利益

請合ノ期限後會計ノ監査ハ廢止タルヘシ

第十三條 日本鐵道會社ニ於テ前條鐵道監査官ノ命令督促ヲ聽カサルカ若クハ正當ノ事故ナク監査官ノ指定シタル期限内ニ其命令督促ニ係ル事項ヲ執行ヲ怠ルカ若クハ監査官ノ指定シタル方法ニ違フハ政府ニ於テ直チニ其事業ヲ執行シ會社ヲシテ其費用ヲ支辨セシムヘシ

第十四條 鐵道建築ノ爲メ舊來ノ道路橋梁溝渠運河等ヲ他所ニ移設シ或ハ一時他所ニ假設スルヲ要スルハ所管地方廳ノ許可ヲ請ケテ之ニ著手シ其費用ハ會社ヨリ支辨スヘシ但是ノ移設假設ノ爲メ公私所有ノ土地家屋ニ關シテハ第二條第三條ノ例ニ依ルヲ得ヘシ

第十五條 會社ハ線路ノ安全ヲ保持センカ爲メニ線路ニ沿テ完全ノ堤防若クハ柵欄ヲ設ケ守衛ノ番人ヲ置キ充分ノ警備ヲ爲スヘシ

第十六條 旅客及ヒ荷物ノ運送賃及ヒ走車ノ速度機車ノ度數時間ハ工部卿ノ許可ヲ得テ之ヲ定ムヘシ

第十七條 會社ハ毎月ノ旅客及ヒ荷物ノ運送高ト其會計ノ精算及方法等ヲ翌月初旬中ニ工部卿ニ報告スヘシ又一期毎ニ其一期中ノ報告書ヲ作り一期ノ過了ル後二ヶ月以内ニ同卿ニ差出スヘシ

第十八條 鐵道敷地内ニ於テ線路ニ沿ヒ政府ハ電線ヲ架設スルヲ得又會社ハ無料ニテ政府ノ設備セル架柱ノ一部分ヲ使用シ鐵道用ノ電信ヲ架スルヲ得

第十九條 停車場内若クハ鐵道敷地内ニ於テ會社ハ電信郵便兩局ノ需ニ應ヒ土地或ハ家屋ノ一部分ヲ無料ニテ兩局ニ貸與スヘシ

第二十條 郵便信書及ヒ其運送ニ關スル人員ハ無料ニテ之ヲ輸送シ郵便繁多ニシテ驛遞總監ノ要メアルハ二輛以下ノ運送車ヲ定期列車ト與ニ發スヘシ若シ二輛以上ヲ要スルハ定價ノ半額

ヲ受領スルヲ得ヘシ

第二十一條 鐵道事務ニ關シテ往復スル車員ハ無料乗車ヲ許ルヘシ但是等ノ車員ハ各自所屬ノ官衙ト會社トノ間ニ於テ預約シタル常乘切手ヲ帶ル者ニ限ルヘシ

第二十二條 公務ヲ以テ往來スル陸海軍人軍屬軍馬其他軍用品並ニ警察官ハ總テ其半價ヲ以テ乗車輸送ヲ爲スヘシ但シ其公務タルヲ証スヘキ通券ヲ帶ル者ニ限ル

第二十三條 會社ハ政府ノ命令ニ因リ機車ヲ通常ノ列車ト與ニ無料ニテ輸送シ及ヒ警固車員ノ無料乗車ヲ許スヘシ但シ該機車ハ官費ヲ以テ製造シ會社之ヲ保管スヘシ

第二十四條 非常ノ事變兵亂等ノ時ニ當テハ會社ハ政府ノ命令ニ應ヒ政府ニ鐵道ヲ自由ニ使用セシムルノ義務アル者トス

第二十五條 凶賊ニ於テ賠償非常ニ騰貴スルハ政府ノ命令スル時日ノ間ハ指名スル穀類ニ限リ其運賃ヲ半價ニ低下スヘシ

第二十六條 政府ヨリ他日該鐵道ニ枝線ヲ附シ若クハ之ヲ橫斷シ若クハ其近傍ニ道路溝渠運河ヲ設クルヲ允許スルハ會社ニ於テ之ヲ沮拒スルヲ得ス

第二十七條 此特許條約ノ期限ハ明治十五年一月ヨリ向九十九ヶ年トス但滿五十年經過ノ後ハ政府ニ於テ何時ニテモ鐵道及ヒ第三十條ニ掲グル附屬物ヲ買上ルノ權アルモノトス

第二十八條 第二十七條ノ場合ニ於テハ日本鐵道會社ニ於テ興業ノ爲メ發行セシ株券ノ總金額ヲ以テ買上ケノ價格ト爲スヘシ

第二十九條 期限最終ノ年ヨリ前五ヶ年間ニ於テ諸般ノ修理ヲ怠ルコトアラハ政府ハ會社ニ之ヲ修理セシメ引渡ノ時ニ於テ完全ノ有様ヲ望ムノ權アリ若シ會社ニ於テ政府ヨリ指定スル修理ヲ怠リ或ハ其方法ニ違フ時ハ政府自ら之ヲ修理シテ會社ノ收入金ヨリ其經費ヲ支辨セシムヘシ

第二百二號通リ以テ
總金額ヲ一時價相
當トシテ
第二百二號通リ以テ
期限最終ノ年ヨリ
引渡ノ時ニ於テ
完全ノ有様ヲ望ム
ノ權アリ

十九年勅令第二號
ニ依リ消滅

第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テハ鐵道倉庫停車場及ヒ之ニ屬スル土地其他鐵道ノ營業ニ必要ナル鐵道附屬ノ家屋諸器具ハ鐵道ト共ニ一切之ヲ引渡スヘキモノトス

第三十一條 日本鐵道會社ニ於テ本特許條約書中ノ條件及ヒ日本鐵道會社創立定款中ノ條件ニ違背スルカ若クハ之ヲ遵守スルヲ怠リ鐵道ノ公益ヲ妨害スルハ政府ニ於テ該會社株主中若クハ他人ヲ以テ特別ノ委員ニ命ジ一時會社ノ事業ヲ管理セシメ若クハ本條約ノ期限ニ拘ラス鐵道及ヒ鐵道ノ營業上ニ必要ナル附屬ノ家屋諸器具ヲ公賣ニ附シ他人ヲシテ建築並ニ運輸ノ業ヲ繼續セシムルコトヲ得但シ本條ノ場合ニ於テ損益ハ猶ホ會社ニ於テ負擔スヘキモノトス

第三十二條 本特許條約及ヒ日本鐵道會社創立定款ニ依リ施行ノ際當該官吏ト會社トノ間ニ異見ノ生シタルハ工部卿之ヲ判定スヘシ

○第九十四號 (十一月十日 輪廓附)

各省從前ノ事務章程ヲ廢シ今般諸省事務章程通則別紙ノ通被定候條此旨相違候事
(別紙)

諸省事務章程通則

第一條 各省卿ハ各省ノ行政事務ヲ總理ス

第二條 各省卿ハ該省所部ノ官屬ヲ統率シ及ヒ監督シ奏任官ノ進退ヲ具狀シ其八等官以下ハ之ヲ判任ス

第三條 各省卿ハ主管ノ事務ニ付法律規則ヲ制定シ又ハ之ヲ廢止改正スルヲ要スルコトアルトキハ奏ヲ具ヘテ上奏シ裁ヲ請フヘシ

第四條 凡法律規則布達ノ共主管ノ事務ニ屬スルモノハ各省卿之ニ副署シ其執行ノ責ニ任スヘシ若シ兩省以上ニ關涉スルモノハ關涉ノ省卿均シク之ニ連署シ其責ニ任スヘシ

十七年大政官第十
四號ヲ以テ第十
條改正

第五條 各省卿ハ所部ノ官屬ニ指令又ハ訓條ヲ下付スルコトヲ得

第六條 各省卿ハ主管ノ事務ニ付地方官ヲ監督スヘシ若シ地方官ノ處分法律規則ヲ犯シ若クハ權限ヲ侵スルコトアルハ之ヲ取消スコトヲ得

第七條 各省卿ハ主管ノ事務ニ付毎年一月前年ノ功程ヲ具ヘ報告書ヲ奏上ス

第八條 府縣并所部官屬ノ報告各省卿處分ニ屬スルモノ共事休重大ナルハ仍ホ處分シテ後ニ奏上スヘシ

第九條 各省ノ事務臨時ニ定額豫算外ノ費用ヲ要スルトキハ上奏シテ裁ヲ請フヘシ

第十條 各省卿事故アルトキハ臨時命ヲ受ケテ他ノ省卿共代理ニ任スヘシ

第十一條 各省卿官ハ卿ノ職ヲ輔ケ卿ノ命ヲ以テ各省内部ノ事務ヲ代理スルコトヲ得

○第九十五號 (十一月十日 輪廓附)

官省院使廳府縣

今般諸省事務章程通則第九拾四號違ノ通被定候ニ付テハ管掌事務ノ區分ハ總テ從前執行スル所ニ依ルヘシ此旨相違候事

十九年官內省第十
五號第十十六號違
ニ依リ消滅

○第九十六號 (十一月四日 輪廓附)

官省院使廳府縣

勅奏判任官ノ區別アツテ等級ヲ設ケサル諸官員大禮服ノ儀ハ明治五年十一月第三百三拾九號布告大禮服章圖式中等級標條ヲ除キ其餘ノ圖式并同十年九月第六拾五號違ノ通調製可致且儀式上ニ在テハ他ノ有等官ト各別席ニ列スヘキ儀ト可心得此旨相違候事

但判任官席次ハ本年五月第四拾六號違ノ通心得ヘシ

十九年勅令第五號
ニ依リ消滅

○第九十七號 (十一月二十六日 輪廓附)

官省院使廳府縣

外務省中領事官等左ノ通改定候條此旨相違候事
但總領事副領事官等ハ從前ノ通

領事

相留 五等ヨリ 七等ニ至ル

○第九十八號 (十一月二十六日 輪廊附)

府縣官中警部長ヲ置キ官等俸給左ノ通相定候條此旨相達候事

警部長 俸任 八等相當

但月俸八拾圓七拾圓六拾圓ニ區別ス

○第九十九號 (十一月二十六日 輪廊附)

府縣官職制中左ノ通相補候條此旨相達候事

大少書記官ノ下第二項ノ次ハ

警部長 一八

第一 警部長ハ事ヲ府知事縣令ニ承ケ其府縣警察上一切ノ事務ヲ調理ス

第二 警部長ハ國事警察ニ付テハ直ニ内務卿ノ命令ヲ奉シ又ハ直ニ其事情ヲ具狀スルコトヲ

ルヘシ

○第一百號 (十一月二十九日 輪廊附)

監獄看守長及ヒ看守ハ禮服用ノ節モ其制服相用フヘシ此旨相達候事

○第一百號 (十一月三日 輪廊附)

本年十一月九拾四號ヲ以テ諸省事務章程通則相達候ニ付テハ法律規則ハ布告ヲ以テ發行シ從前諸

省限リ布達セル條規ノ類ハ自今總テ大政官ヨリ布達ヲ以テ發行候條此旨相達候事

但大政官及ヒ諸省ヨリ一時公布スルニ止ルモノハ告示ヲ以テ發行シ諸省卿ヨリ府縣長官ヘ達ノ

備ハ從前ノ通

十八年大政官第六
十五號通達第九
九號令第五十四號
ニ依リ消滅

十九年勅令第五十
四號ニ依リ消滅

十九年内務省令第
二十號消滅

十九年勅令第一號
ニ依リ但書ノ外消
滅

○第一百號 (十一月五日 輪廊附)

本年十一月九拾三號連日日本鐵道會社特許條約書中左ノ通改正候條爲心得此旨相達候事

第二十八條中

(總金額)ヲ時價相當ト改ム

第二十九條中

(期限最終ノ年ヨリ)ヲ前條買上ケノ場合ニハト改ム

○第一百三號 (十二月七日 輪廊附)

今般第六拾三號ヲ以テ衰章條例布告候ニ付取扱手續左ノ通相定候條此旨相達候事

但明治八年七月第百貳拾壹號連日右條例施行ノ日ヨリ廢止候事

第一條 凡ソ衰章ヲ賜フヘキ者アルトキハ其管轄長官ヨリ内務卿又ハ農商務卿ニ具申シ内務卿又

ハ農商務卿ハ其當否ヲ審査スヘシ

但官吏職務上ニ於テ人命ヲ救助シ又ハ公益ヲ興シタルハ衰章ヲ賜フノ限リニアラス

第二條 内務卿又ハ農商務卿ニ於テ衰章ヲ賜フヘキモノト思量スルトキハ之ヲ賞勳局總裁ニ申牒

スヘシ賞勳局總裁ハ其申牒ニ據リ勅委任官并ニ從六位以上及ヒ勳六等以上ノ者及ヒ華族ノ戶主

ニハ衰章ヲ直接シ其他ノ者ハ内務卿又ハ農商務卿ヲ經由シ其管轄長官ヲシテ之ヲ傳達セシムヘ

シ

但外國人ニ危難救助ノ衰章ヲ賜フヘキトキハ外務卿ヨリ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ授與ノトキ

モ亦同卿ヲ經由シテ之ヲ傳達セシムヘシ其公私備ニ係ル者ハ本條ニ同シ

第三條 衰狀ハ管轄長官ヨリ與フルモノトス然レモ勅委任官并ニ從六位以上及ヒ勳六等以上ノ者

及ヒ華族ノ戶主ハ内務卿又ハ農商務卿ニ具申スヘシ内務卿又ハ農商務卿ハ之ヲ大政官ニ上申シ

シ

明治十四年十一月 大政官達 第一百號 第一號

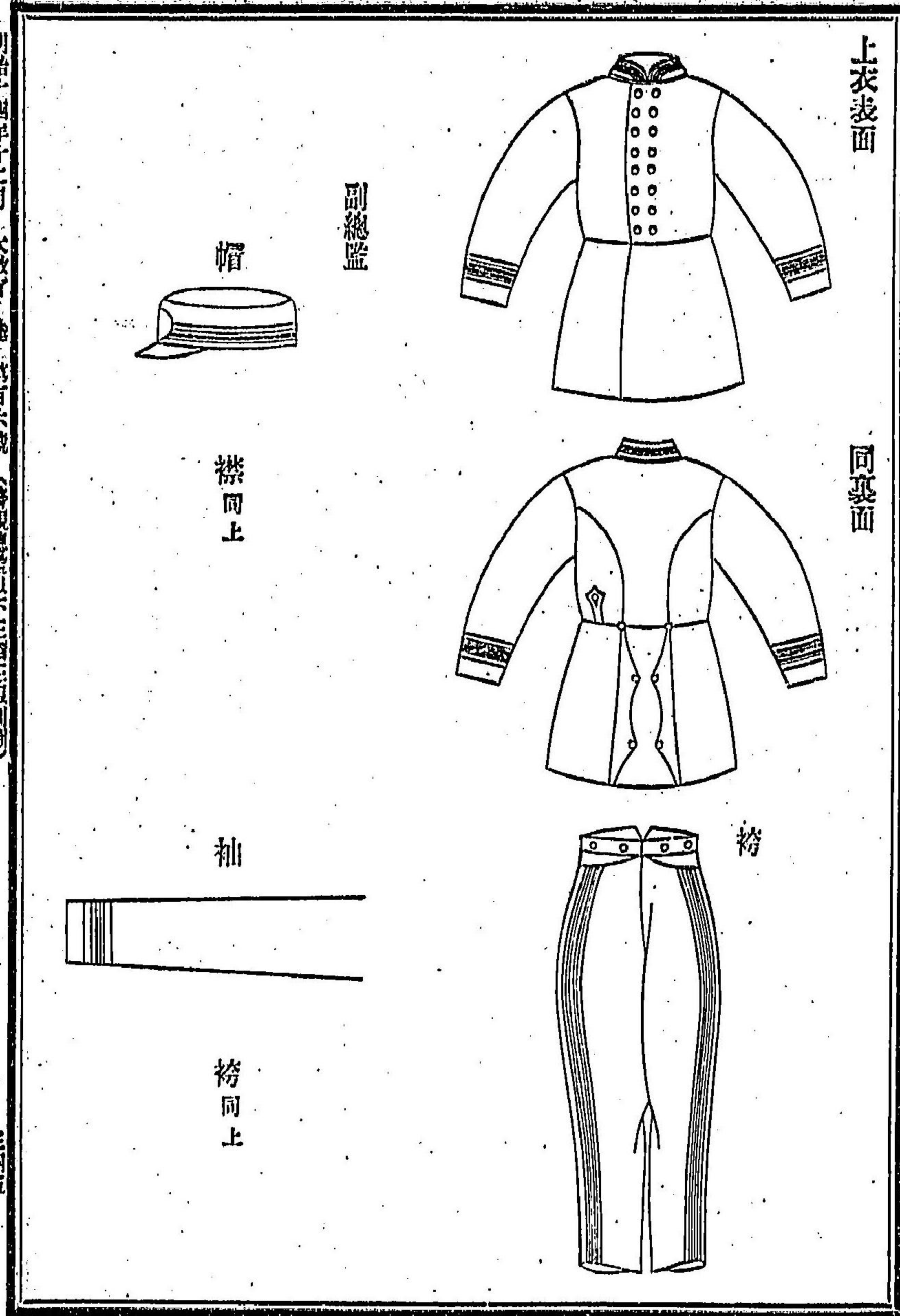
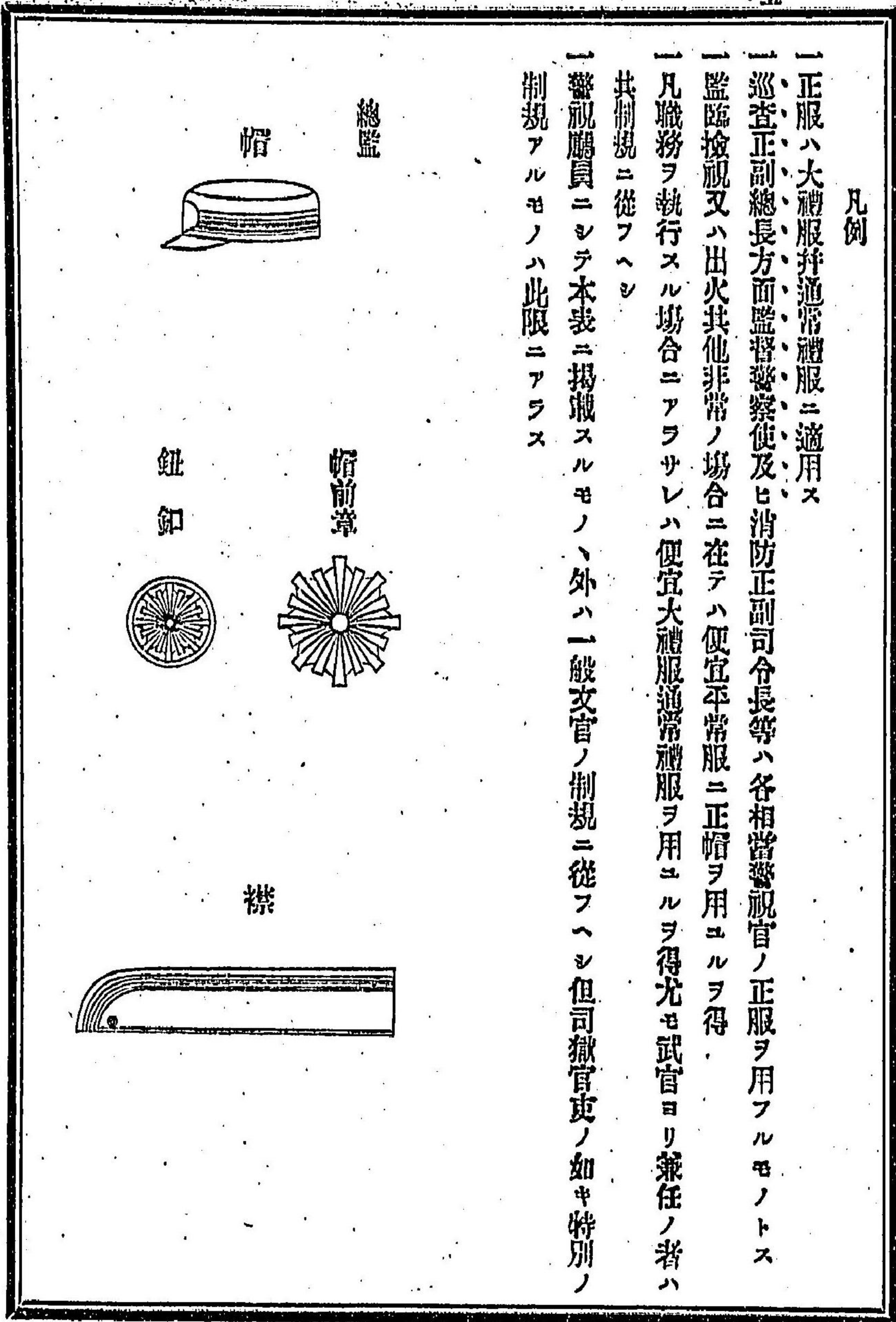
明治十四年十一月 大政官達 第一百號 第一號

十六年大政官第十
七號連日依リ第三
號消滅

凡例

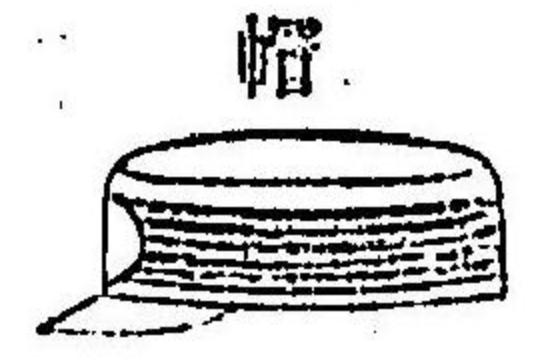
- 一 正服ハ大禮服并通常禮服ニ適用ス
- 一 巡査正副總長方面監督警務使及ヒ消防正副司令長等ハ各相當警視官ノ正服ヲ用フルモノトス
- 一 監臨檢視又ハ出火其他非常ノ場合ニ在テハ便宜平常服ニ正帽ヲ用ユルヲ得
- 一 凡職務ヲ執行スル場合ニアラサレハ便宜大禮服通常禮服ヲ用ユルヲ得尤モ武官ヨリ兼任ノ者ハ其制規ニ從フヘシ
- 一 警視廳員ニシテ本表ニ掲載スルモノ、外ハ一般文官ノ制規ニ從フヘシ但司獄官吏ノ如キ特別ノ制規アルモノハ此限ニアラス

十八年大政官第五十八號ニ依リ、
點ノ條消滅

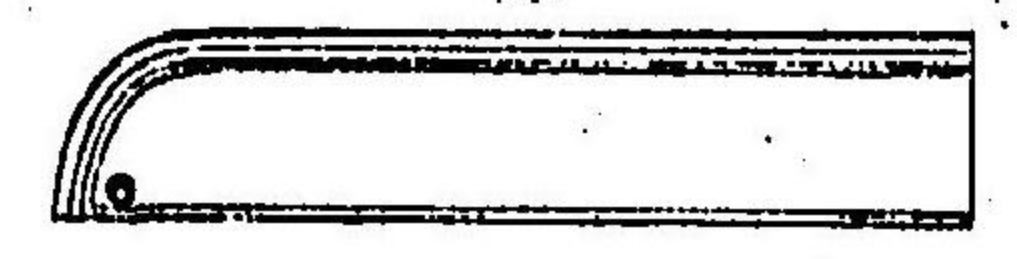


明治十四年十二月 太政官 達 第百六號 (警視總監以下正帽正服制圖)

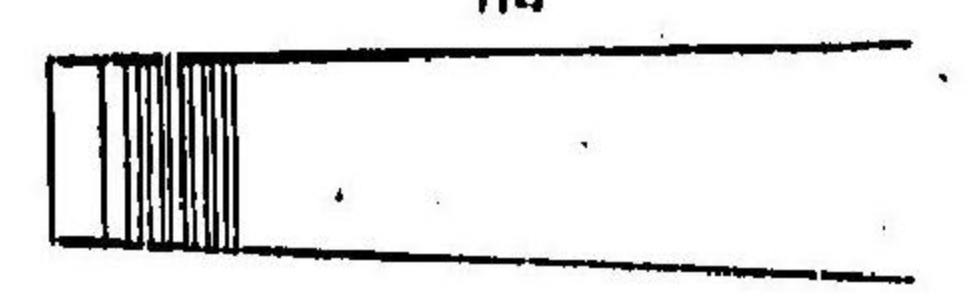
一等警視



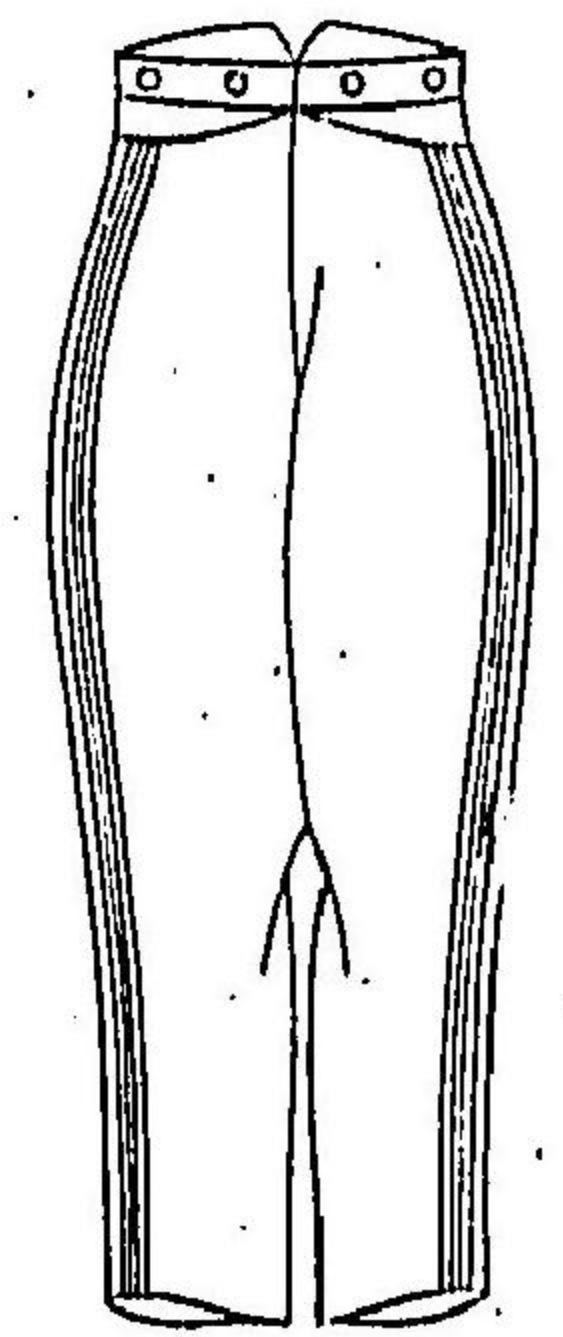
襟



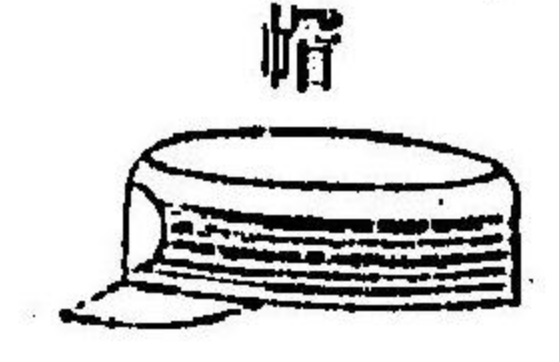
袖



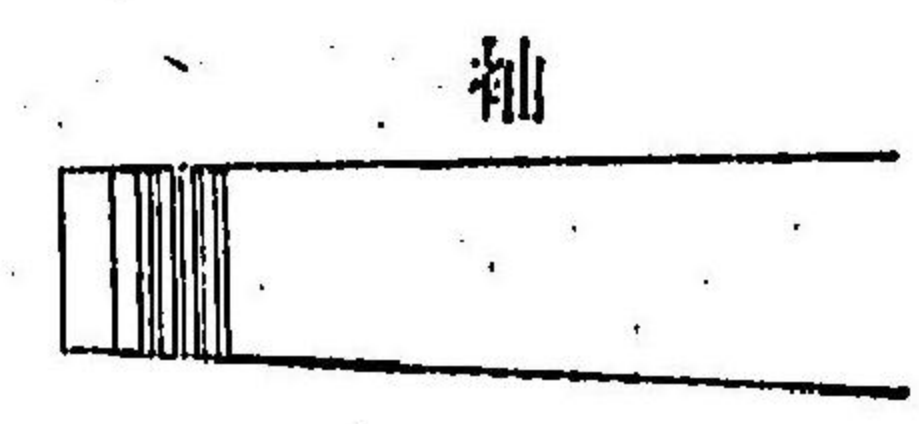
袴



二等警視

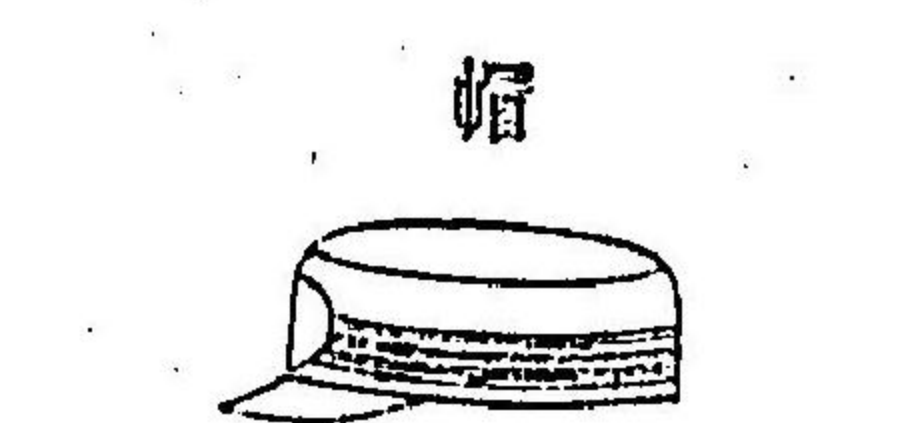


襟同上



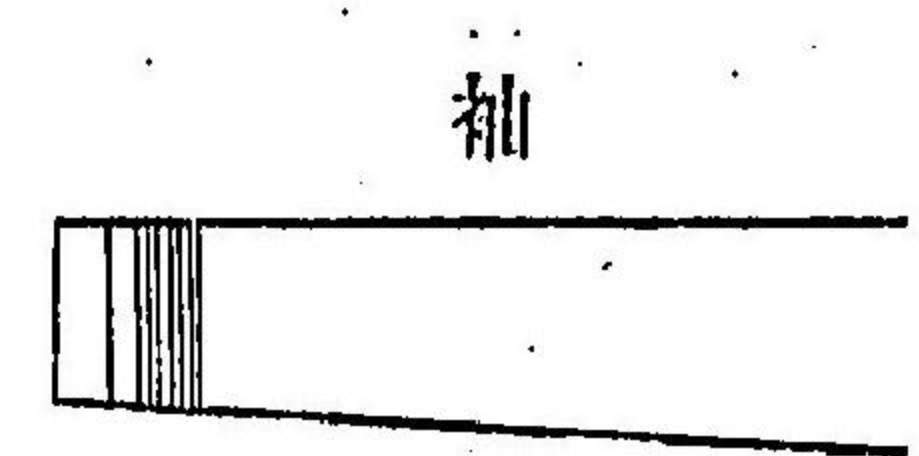
袖

袴同上



帽

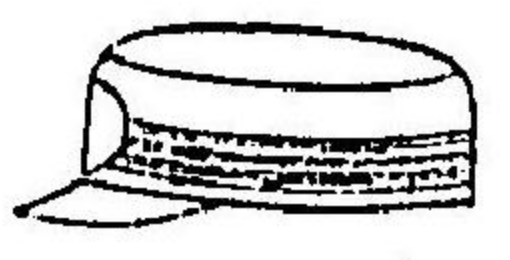
襟同上



袖

袴同上

三等警視



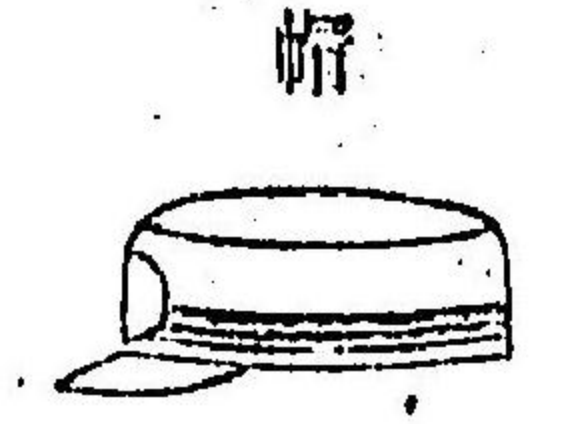
襟同上



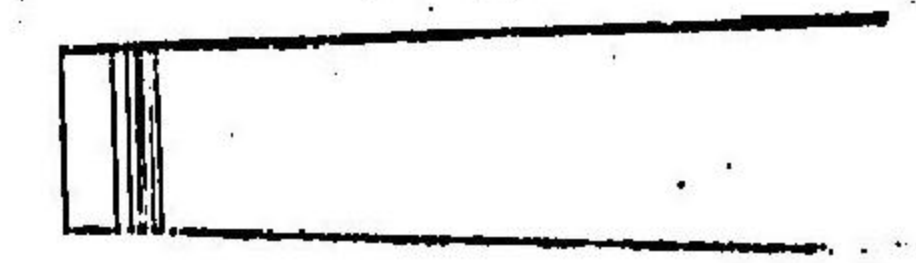
袖

袴同上

四等警視



襟同上



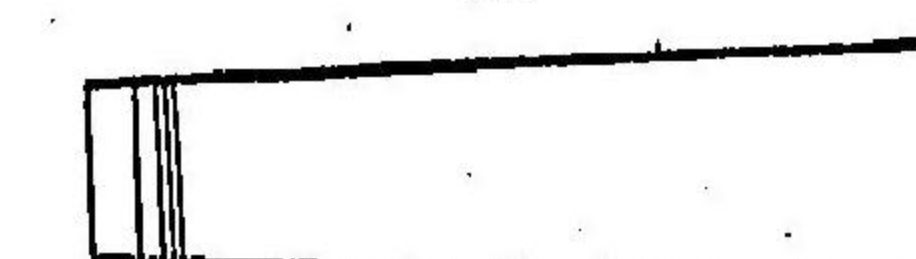
袖

袴同上

帽



襟同上

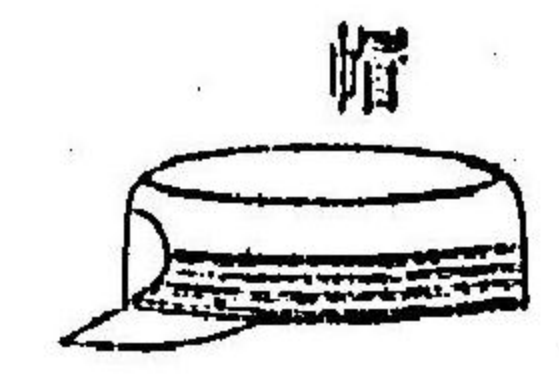


袖

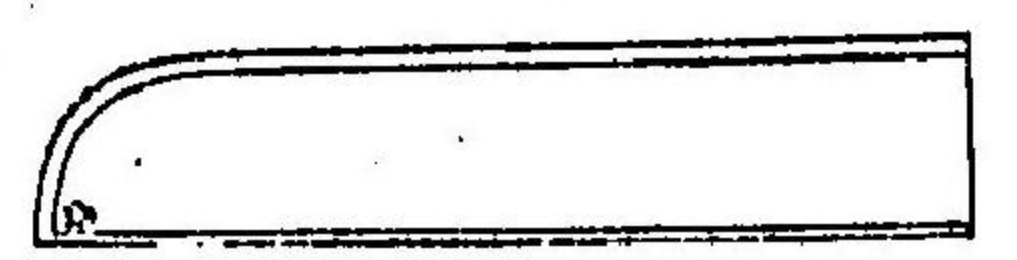
袴同上

五等警視

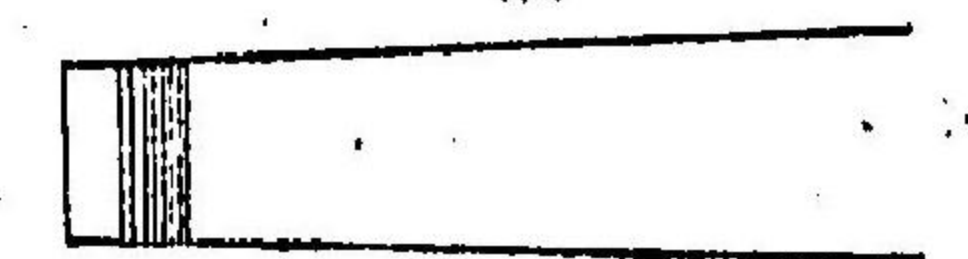
巡查長、
消防大司令、
警察副使



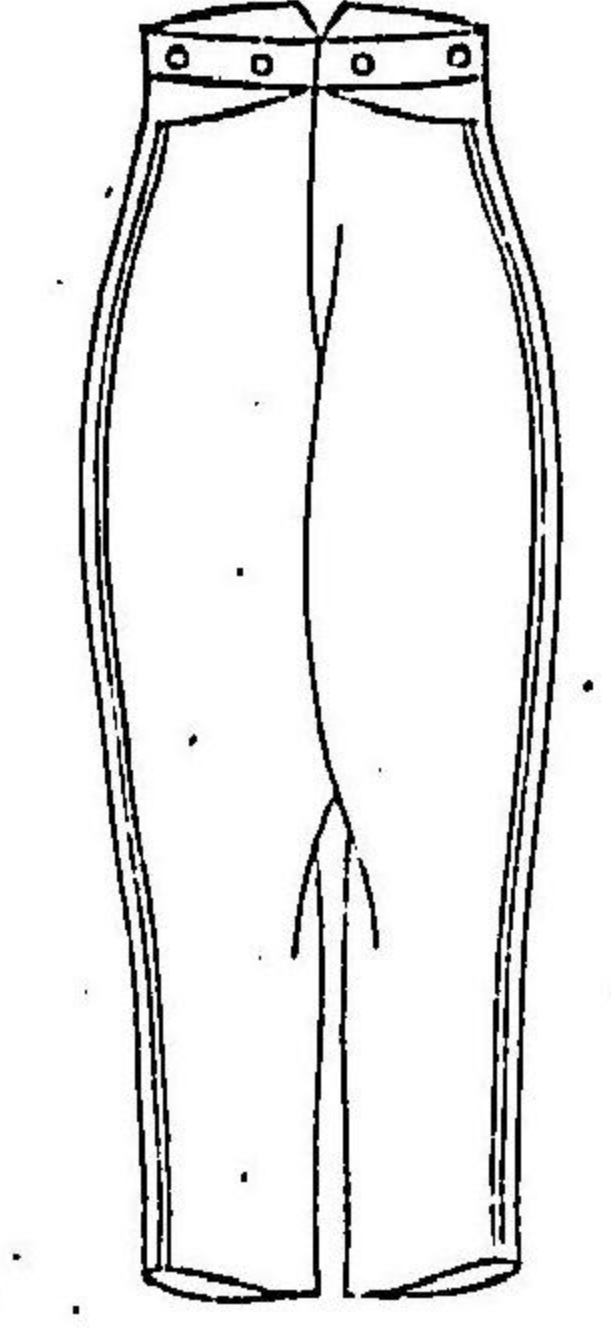
襟



袖



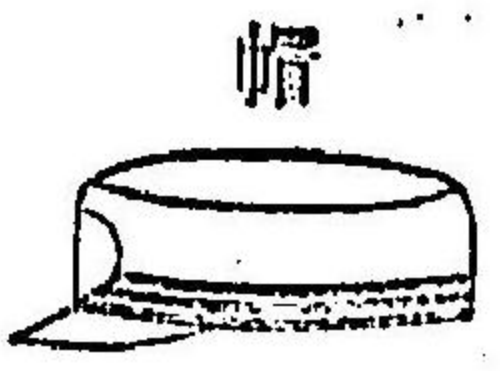
袴



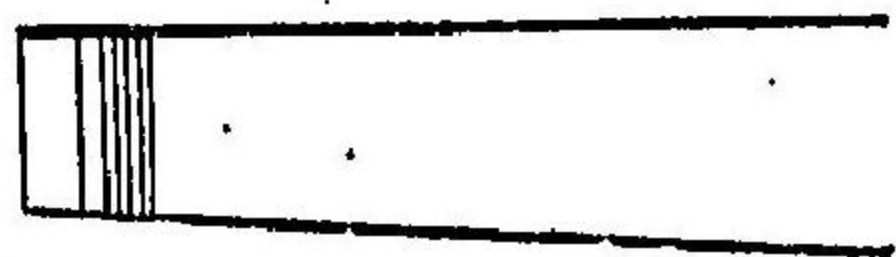
明治十四年十二月 太政官 達 第百六號 (警視總監以下正帽正服制圖)

巡查部長
消防中司令

巡查部長
消防少司令



襟同上
袖

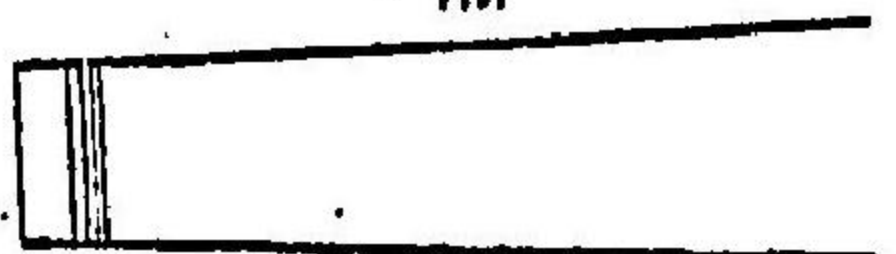


袴同上

帽



襟同上
袖



袴同上

○第百七號 (十二月十七日 檢附)

明治十二年十一月第五拾六號 逕達 巡查制帽制服表中 鈕ノ義ハ夏冬兩服トモ 兵餘日章ニ改正候條此旨相違候事

官省院使廳府縣

十九年内閣第二號
達ニ依リ消滅

○第百八號 (十二月二十二日 檢附)

修史館職制并俸給左ノ通改正候條此旨相違候事
但一等掌記以下従前ノ通

官省院使廳府縣

修史館職制

總裁 一員 大臣之ヲ兼任ス

修史ノ大体ヲ裁定シ其是非統制事至重ニ沙ル者ハ上奏取裁ス兼テ職員ノ進退ヲ總掌シ秘關ヲ管ス

十六年大政官第六
十四號達ヲ以テ副
總裁ノ一項追加

編修長官 一員

編修ノ事ヲ主理シ史志ヲ撰定シ編修官結撰スル所ヲ取捨刪定スルヲ掌ル

編修副長官 一員

職掌長官ニ同シ

監事

編修ヲ監シ功課ヲ督シ檢討ヲ任シ兼テ庶務ヲ辨理シ判任官ノ進退ニ關與スルヲ掌ル

副監事

職掌監事ニ同シ

一等編修官

二等編修官

三等編修官

四等編修官

掌記采輯スル所ヲ受テ之ヲ編次シ其文辭ヲ結撰スルヲ掌ル

官等年俸

編修長官

三年俸三千五百圓

編修副長官

四年俸 同 三千圓

監事

同 貳千五百圓

一等編修官

同 貳千五百圓

副監事

同 貳千圓

二等編修官

同 貳千圓

明治十四年十二月 大政官 達 第百八號

二十年間令第十二號ニ依リ消滅

十九年內閣第十三號ニ依リ但世道

十九年勅令第五十四號第五十五號ニ依リ、職ノ階消滅

三等編修官 六等官 同 千五百圓
 四等編修官 七等官 同 千圓

○第百九號 (十二月二十二日 勅諭附)

太政官中大舎八廢止候條此旨相達候事

○第百十號 (十二月二十四日 勅諭附)

明治九年六月第六拾四號遠征費定則外國ノ部第一章ヘ左ノ通追加候條此旨相達候事

第四項 在勤又ハ出張先ニ於テ死去ノ節ハ該地ヨリ内地開港場マテハ第二章ニ照シ陸路旅費及船

客料ノ額夫ヨリ郷里マテハ內國ノ部第七章ニ準シ手當トシテ之ヲ給ス

○第百十一號 (十二月二十八日 勅諭附)

警部巡查ノ等級ヲ廢シ體給左ノ通相定候條此旨相達候事
 (但巡查奉職滿九年以上十二年以下ハ月給拾貳圓滿十二年以上ハ月給拾五圓ヲ給スルコトヲ得)

府 縣 東京府
 府 縣 除ク

判	部	任	等	外
月	給	月	給	月
五拾圓	四拾圓	四拾圓	拾五圓	拾四圓
四拾圓	三拾圓	三拾圓	拾四圓	拾三圓
三拾圓	二拾圓	二拾圓	拾三圓	拾二圓
二拾圓	一拾圓	一拾圓	拾二圓	拾一圓
一拾圓	八圓	八圓	拾一圓	十圓
八圓	七圓	七圓	十圓	九圓
七圓	六圓	六圓	九圓	八圓
六圓	五圓	五圓	八圓	七圓
五圓	四圓	四圓	七圓	六圓
四圓	三圓	三圓	六圓	五圓
三圓	二圓	二圓	五圓	四圓
二圓	一圓	一圓	四圓	三圓
一圓	〇圓	〇圓	三圓	二圓
〇圓	〇圓	〇圓	二圓	一圓
〇圓	〇圓	〇圓	一圓	〇圓

○一月六日 來ル八日陸軍始ニ付太政官休暇候條此旨相達候事
 官省院使東京府

○二月二十四日 來ル三月一日內國勸業博覽會ヘ臨御開場式被爲行候條此旨相達候事
 官省院使東京府

○二月二十六日 來ル三月一日內國勸業博覽會開場式被爲行候ニ付當日休暇候條此旨相達候事
 官省院使東京府

○四月二十五日 實美湯治御暇中左大臣熾仁親王ヘ代理被仰付候條此旨相達候事
 官省院使關府縣

○五月七日 免兼海軍卿 海軍中將兼海軍卿 隨定官榎木武揚
 四月七日分

○五月十七日 右宣下相成候條此旨相達候事
 官省院使關府縣

○五月三十一日 實美歸京本日ヨリ出仕候條此旨相達候事
 官省院使關府縣

○六月四日 來ル六月十日內國勸業博覽會ヘ臨幸褒賞授與式被爲行候條此旨相達候事
 官省院使關府縣

○六月九日 參謀本部長山縣有朋出張中參謀本部長兼勳被仰付候事 陸軍中將兼參議西郷從道
 五月二十四日分 官省院使關府縣

○六月十四日 明十日內國勸業博覽會褒賞授與式被爲行候ニ付休暇候條此旨相達候事
 官省院使關府縣 沿道府縣

明治十四年一月二月四月五月六月 太政官 第九號 第一百號 第一百一號

會計検査院

○第一號 (八月三十日)

府 縣

本年第六十九號ヲ以テ會計規程御達相成候ニ就テハ別紙書式ニ照準調製可致此旨爲心得相違候事

(別紙)

凡例

- 一 會計規程ハ各職收支ノ豫算出納及決算等ノ事務ニ關スル一切ノ順序ヲ詳記スルモノトス
- 一 會計規程ハ收支豫算、金錢出納、收支決算、物品出納、及財産管理ノ五部ニ大別シ其部内ニ編輯シ難キ事項ハ別ニ雜例ノ部ヲ設ケ之ヲ列記スヘシ
- 一 金錢ノ出納及物品ノ出納部内ニ於テハ其記載方長官ト會計主務官吏トノ責任區分ヲシテ判明ナラシムルヲ要ス

何應會計規程

第一章 收支ノ豫算

- 豫算ノ調製 第何條
- 豫算額ノ記載 第何條
- 收入ノ増減 第何條
- 經費ノ増減ノ派用 第何條

何々

第何條

第二章 金錢ノ出納

- 記簿ノ順序 第何條
- 現金ノ出納 第何條
- 現金ノ管理 第何條
- 出納助定帳 第何條
- 出納ノ閉鎖 第何條
- 何々 第何條
- 決算ノ順序 第何條
- 決算報告 第何條

第三章 收支ノ決算

明治十四年八月 會計検査院 第一號

三五五

何々	第何條
記簿ノ順序	第何條
物品ノ出入	第何條
物品ノ管理	第何條
計費表	第何條
記簿ノ順序	第何條
財産ノ處分	第何條
計算表	第何條

第四章 物品ノ出納

第五章 官有財産ノ管理

十九年勅令第四十九號ニ依リ消滅

同上

十六年外務省達第三號達ヲ以テ削除
十八年七月八日太政官達ニ依リ消滅

外務省 (外務省達中一般取布セザルモノハ概テ之ヲ指シテ)

○第二十七號 (二月二十四日)

費用條例第六號表中副領事一等書記生日給二行ニ表出セルハ八等官上等級下等級ヲ區別候義ト可相心得此旨相達候事

在朝鮮國 公使領事

○第二十八號 (七月十四日)

朝鮮國公使費用條例中改正増補令達相成候間別紙寫添此段相達候也

(別紙) 令第八號

外務省

公使領事費用條例第一號表改正朝鮮國公使費用條例中別紙之通改正増補候條十四年度ヨリ施行可致此旨相達候事

太政大臣三條實美

明治十四年七月十二日

朝鮮國公使費用條例

第十條 各館ノ公費ニ立ヘキ各件ノ内廳費ノ部ヘ左ノ一件ヲ加フ

履給

第一號官員年俸ノ内總領事俸給左ノ通改正

總領事	京	城	新	開	二	港	釜	山	浦			
	金	四	千	五	百	四	金	四	千	貳	百	四

明治十四年一月七月 外務省 達第二十七號 第二十八號

公使領事費用條例中別紙ノ通更正追加候條此旨相違候事

但公費金及年俸ノ遞送ヲ四期ニ相改候ニ付テハ勘定帳差出期限ノ義モ右ニ準シ取計フヘシ
明治十四年八月二十日 太政大臣三條實美印

(別紙)

公使領事費用條例

第一條

二款木文但書トモ左ノ通改ム

一本邦ニテ新拜命ノ官員ハ出發前在京ノ日數ニ拘ハラヌ第八號表面ノ俸給紙幣ヲ以テ賜フ妻携帶ノ許可ヲ得ル者ハ同號中妻女携帶ノ俸給ヲ支給スヘシ

但シ出發前滯京日數概略六十日ト定メ此期限内ニ於テ任所替ヲ命セラレタル者ハ第八號表中ノ金員ヲ六十日ニ割前任後任ヲ區分シ支給ス此日數ヲ超越シ御用有之出發延期スルモノハ第二十一條病氣ニテ延期スルモノハ第二十二條ニ準シ日給ヲ賜フ出發前任所未定官員ハ第十八條ニ準ス

三款木文前件ノ下(六十日分)ノ四字ヲ(ノ俸給)ノ三字ニ改ム

同款但書中(病死スルトモ)ノ下(第二十條)ノ四字ヲ挿入ス

四款木文ノ内(妻翌日ヨリ妻携帶)ノ下(年俸ニ改ム)ノ五字ヲ(ノ俸給ヲ給ス)ノ六字ニ改ム

同款但書中(妻不携帶)ノ四字ヲ(獨行)ノ二字ニ改ム

五款木文但書トモ削ル

第三條

本文在勤年俸(半々年)ヲ(三ヶ月)ト改ム

第五條

四款トシテ左ノ通追加

一 公使領事館附屬書記外國人公用ニテ在留國內外及ロ公使兼轄國へ旅行候ハ妻從者ノ旅費ハ支給セサルヘシ

第七條

五款トシテ左ノ通追加

一 歐洲在勤ノ公使兼任國へ滯留スル時ハ旅行雜費ノ外臨時交際費トシテ一ヶ年英貨三百六拾五磅日割ヲ以其滯留日數ニ應シ支給ス

第八條

三款木文左ノ通更ム

一 公使領事交代スルカ或ハ臨時代理ヲ任シ任所出發スル者ハ交代ノ公使領事任地到着ノ日或ハ歸朝ノ辭令到達ノ日ヨリ一週間内ニ事務引繼ヘシ此引繼タル日ヨリ二週間内ニ任所發程スヘシ書記官書記生等發程期日モ右ニ準シ此二週間迄ハ年俸全額日割ヲ以テ給ス

同款但書中(本文ノ通給ス)ノ下左ノ通改ム

政府ヨリ出發延期ヲ命スル者ノ外公使領事館ノ公務ニ寄り出發延期スル者ハ其事故詳細ニ申出外務卿於テ之ヲ至當ト認ル時ハ猶一週間延期スルコトアルヘシ此延期内公使領事ハ年俸半高書記官以下年俸三分ノ二支給ス此一週間ヲ超越シ或ハ病氣其他事故有之出發延期セシ時公使領事ハ年俸三分ノ一書記官以下半高何レモ日割ヲ以テ支給ス

第九條

初款木文(任所へ歸着ノ日迄)ノ下(左ノ割註ヲ加フ

十八年三月十六日
太政官達ヲ以テ文中改正

十五年外務省達第
二號(明治十八年三月
月十六日太政官達
ヲ以テ文中改正)

同款本文(證明シタルモノヲ添ヘシ)ノ下ヘ左ノ十四字ヲ加フ

尤其日歸リノ旅行ニハ賜ハラス

第十條

本文左ノ通改ム

一 公費金并年俸共四季ニ割一月ヨリ三月迄ノ分前年十月中ニ四月ヨリ六月迄ノ分其年一月中ニ七月ヨリ九月迄ノ分同四月中ニ十月十二月迄ノ同七月中ニ外務省ヨリ送送スヘシ

第十一條

三款トシ左ノ通追加

一 各公館ヨリ外務省ヘ宛テ取組ミタル爲換金ハ其金庫前以何濟ニ係ルモノ、外外務省ニ於テ一切引受サルヘシ

第十二條

二 款本文(以テ辨ス)ノ下ヘ左ノ二十四字ヲ加フ

若シ此重複登ケ月余ニ渉ル時ハ公使領事ノ自費タルヘシ

三款トシ左ノ通追加

一 各公館移轉ノ際手數料或ハ謝金其他新館窓掛敷物等渾テ轉居ニ係ル費用公館經費定額内ヲ以テ流用支辨スル能ハス移轉ノ爲定額外ノ費用ヲ要スル時ハ其事由詳細ニ具狀シ費用支出ノ許可ヲ得テ移轉スヘシ若シ此許可ヲ得ズ移轉ノ爲定額超過スル時ハ官費タルヲ許サス

第十八條

本文但書共削ル

十七年五月七日六
政官達ヲ以テ第一
八條ヘ但書追加

第十九條初款ヲ第十八條トシ左ノ但書ヲ加フ

但在勸被免歸朝スル者モ本文ニ準ス

第二十六條

科目

需用費ノ内

公使館備夫被服料但書左ノ通改ム

但歐米公使館ハ俄長駁者馬車附添門番公務所小使共五名清國公使館ハ橋夫八名ヲ加ヘ拾三名
公使館備夫給料但書中(拾三名)ノ下ヘ左ノ十八字ヲ加フ
分ノ給料ニシテ食料ハ公使ノ自費タルヘシ

第二號

外國行航費定額 但船客荷物運賃船中諸費共

佛	從 級 級 至	一 等 一 人 分	二 等 一 人 分
佛	從 級 級 至	銀貨九 拾 八 圓	銀貨七 拾 陸 圓 貳 拾 五 錢
新 嘉 坡	柴 帆	同 貳 百 〇 九 圓 五 拾 錢	同 百 五 拾 七 圓 五 拾 五 錢
巴 達 維 亞	新 嘉 坡	同 貳 百 四 拾 八 圓 六 拾 錢	同 百 九 拾 五 圓 四 拾 五 錢
巴 達 維 亞	巴 達 維 亞	同 三 百 〇 貳 圓 四 拾 五 錢	同 貳 百 三 拾 七 圓 五 拾 五 錢
巴 達 維 亞	巴 達 維 亞	同 三 百 拾 六 圓 三 拾 五 錢	同 貳 百 四 拾 六 圓 九 拾 錢
巴 達 維 亞	巴 達 維 亞	同 貳 百 八 拾 貳 圓 九 拾 錢	同 貳 百 貳 拾 三 圓 拾 錢

十六年外務省達第
六號(明治十七年九月
十九日)本政官達ヲ以
テ第一八條中改正追加

船 便 郵 英		船 便	
マドラス	同 貳百八拾貳圓九拾錢	錫 蘭	同 貳百貳拾三圓拾錢
暹 丁	同 貳百七拾七圓拾錢	暹 丁	同 貳百〇貳圓貳拾五錢
蘇 四	同 貳百七拾三圓五拾五錢	蘇 四	同 貳百拾五圓四拾五錢
イスマリヤ	同 三百八拾九圓九拾錢	イスマリヤ	同 三百〇壹圓六拾錢
ガルサイド	同 三百九拾七圓五拾五錢	ガルサイド	同 三百〇六圓七拾錢
那 不 留	同 四百〇五圓貳拾錢	那 不 留	同 三百拾五圓五拾錢
馬 耳 塞	同 四百貳拾九圓	馬 耳 塞	同 三百三拾貳圓五拾錢
ポインツドケル	同 四百貳拾九圓	ポインツドケル	同 三百三拾貳圓五拾錢
メルボルン	同 貳百三拾三圓	メルボルン	同 百九拾六圓
プリンデシ	同 三百四拾九圓	プリンデシ	同 百六拾九圓六拾錢
ウエニース	同 四百貳拾六圓	ウエニース	同 三百〇三圓五拾錢
シロネー	同 四百貳拾六圓	シロネー	同 三百〇三圓五拾錢
サツアンブト	同 三百六拾八圓	サツアンブト	同 貳百八拾四拾錢
但英佛郵船ニテ渡航スル者ハ東京橫濱間 汽車賃ハ一般旅費定期ニ照ラシテ支給ス	同 四百四拾六圓	但英佛郵船ニテ渡航スル者ハ東京橫濱間 汽車賃ハ一般旅費定期ニ照ラシテ支給ス	同 三百三拾八圓七拾五錢
米國郵船行	銀貨三百〇三圓	米國郵船行	銀貨貳百四拾貳圓
從米國至英國	同 百六拾三圓	從米國至英國	同 百
清國上海行	同 八拾圓	清國上海行	同 四拾五圓
從上海至香港	同 九拾圓	從上海至香港	同 四拾五圓

從香港至廈門	同 四拾七圓	從香港至廈門	同 貳拾三圓
從上海至廈門	同 六拾圓	從上海至廈門	同 三拾圓
從上海至天津	同 六拾圓	從上海至天津	同 三拾圓
從瑞典マルモ至丁林コペンハーゲン	同 六拾圓	從瑞典マルモ至丁林コペンハーゲン	同 五拾圓
從丁林コペンハーゲン至獨逸キール	同 四圓六拾錢	從丁林コペンハーゲン至獨逸キール	同 四圓八拾錢
從獨逸キール至瑞典ストックホルム	同 拾四圓貳拾錢	從獨逸キール至瑞典ストックホルム	同 九圓貳拾錢
同陸路旅費定額 但汽車賃及荷物運賃一入 分ノ算計ナリ	上 等	同陸路旅費定額 但汽車賃及荷物運賃一入 分ノ算計ナリ	中 等
從佛國馬耳塞至同國リオン	銀貨貳拾壹圓	從佛國馬耳塞至同國リオン	銀貨拾六圓
同 至同國巴里府	同 三拾五圓	同 至同國巴里府	同 貳拾七圓
從佛國リオン至同國巴里府	同 拾四圓	從佛國リオン至同國巴里府	同 拾壹圓
從佛國巴里府至英國倫敦府	同 貳拾五圓	從佛國巴里府至英國倫敦府	同 拾九圓
同 至和蘭海牙府	同 貳拾圓	同 至和蘭海牙府	同 拾五圓
同 至澳洲悉尼府	同 五拾九圓	同 至澳洲悉尼府	同 四拾三圓
同 至澳洲トリエント	同 五拾五圓	同 至澳洲トリエント	同 四拾三圓
同 至伊國羅馬府	同 六拾六圓	同 至伊國羅馬府	同 四拾九圓
同 至伊國ミラン	同 四拾圓	同 至伊國ミラン	同 三拾圓
同 至伊國ヴェニス	同 五拾貳圓	同 至伊國ヴェニス	同 三拾九圓
同 至伊國ブリンジ	同 七拾六圓	同 至伊國ブリンジ	同 五拾四圓

同	至伊國ワロンヌ	同五拾三圓	同三拾八圓
同	至伊國ナイアール	同七拾七圓	同五拾五圓
同	至伊國サエリン	同三拾三圓	同貳拾五圓
同	至伊國セーメア	同四拾圓	同貳拾九圓
同	至瑞西國ベルメ府	同貳拾三圓	同拾七圓
同	至瑞西國チエーリヒ	同貳拾四圓	同拾八圓
同	至瑞西國セネーウ	同拾圓	同七圓
同	至瑞典ストックホルム	同七拾圓	同五拾四圓
同	至丁録コペンハーゲン	同四拾五圓	同三拾七圓
同	至白耳義ブリュッセル府	同拾三圓	同拾圓
同	至白耳義ワステンド	同拾四圓	同拾圓
同	至西班牙マドリッド府	同五拾八圓	同四拾四圓
同	至葡國リスボン府	同八拾八圓	同六拾六圓
同	至那威クリスタアニーヤ	同七拾八圓	同五拾五圓
同	至獨國伯林府	同四拾圓	同三拾四圓
同	至獨國バーデン	同貳拾三圓	同拾七圓
同	至獨國コロニエ	同拾九圓	同拾四圓
同	至獨國フランクホルト	同貳拾七圓	同貳拾圓
同	至獨國ドレスド	同四拾四圓	同三拾三圓

同	至獨國ハンブルク	同三拾七圓	同貳拾七圓
同	至獨國ムニッッ	同三拾七圓	同貳拾七圓
同	至獨國ストラスブルク	同貳拾圓	同拾五圓
同	至獨國ライプツッ	同三拾九圓	同貳拾九圓
同	至澳英利プーダベスト	同七拾貳圓	同五拾五圓
同	至土耳吉コンスタンチノーブル	同百四拾五圓	同百圓
同	至露國モスコウ	同百拾貳圓	同八拾圓
同	至露國ワテツサ	同百貳拾三圓	同九拾壹圓
同	至露國彼得堡府	同九拾四圓	同七拾四圓
同	從露國彼得堡府至同國モスコウ	同拾九圓	同拾三圓
同	至同國リマヤヤ	同六拾七圓	同三拾九圓
同	至同國ワレンブルク	同六拾四圓	同四拾六圓
同	至同國ウラジカフカズ	同七拾六圓	同五拾六圓
同	至同國ワテツサ	同五拾六圓	同四拾五圓
同	至同國アギー港	同貳拾壹圓	同拾四圓
同	至同國ヘルシンヅフォルス	同拾圓	同七圓
同	至同國レウモル	同拾圓	同八圓
同	至同國クラスクモ、セロ	同八拾錢	同六拾錢
同	至同國ツアルスコエ、セロ	同八拾錢	同六拾錢

同 至同國ヘナルホフ	同八拾	錢	同六拾	錢
同 至同國クロナスタット	同壹拾三拾	錢	同壹拾	錢
同 至同國クワコウイ	同四拾貳	圓	同三拾貳	圓
同 至同國エドクレーネン	同貳拾六	圓	同貳拾	圓
從獨國エドクレーネン至同國伯林府	同貳拾八	圓	同貳拾	圓
從獨國キール至同國ハンブルク	同四	圓	同三	圓
從獨國ハンブルク至同國伯林府	同拾	圓	同七	圓
從獨國伯林府至同國維也納府	同貳拾四	圓	同拾八	圓
同 至白耳莖ブリュッセル	同三拾五	圓	同貳拾六	圓
同 至英國倫敦府	同五拾八	圓	同五拾	圓
同 至和蘭アムステルダム	同貳拾六	圓	同貳拾	圓
從和蘭アムステルダム至同國海牙	同壹拾貳拾	錢	同七拾	錢
從伊國ナポリ至同國羅馬府	同九	圓	同六	圓
從伊國羅馬府至同國ウヰニース	同貳拾四	圓	同拾八	圓
同 至同國ミラン	同貳拾六	圓	同拾九	圓
從伊國ウヰニース至同國ミラン	同拾九	圓	同拾四	圓
同 至同國維也納府	同拾九	圓	同拾四	圓
從獨國トリエント至伊國ウヰニース	同九	圓	同七	圓
同 至同國維也納府	同拾九	圓	同拾四	圓

從獨國クワコウイ至同國維也納府	同拾三	圓	同拾	圓
從瑞典ストックホルム至同國マルモ	同貳拾	圓	同拾五	圓
從下棟コペンハーゲン至同國コペンヘン	同四	圓	同三	圓
從英國サウサンプトン至同國倫敦	同七	圓	同五	圓
從英國倫敦府至同國リッブル	同拾五	圓	同拾壹	圓
從東國香港至同國維也納府	同百八拾	圓	同百五拾	圓
從清國天津至同國北京府	同四拾	圓	同三拾	圓

但此表而ニ掲出セラル旅行ハ英壹重ニ付銀七錢ヲ一等トシ同五錢ヲ二等トシ支給ス
亞細亞其他鐵道ナキ地方ハ現場仕掛精算スヘシ

第八號表

公使領事以下官員出發前ノ下(年俸)ヲ(俸給)ト改ム

乙號書式

但書中年俸ノ下(上或ハ下半年)ノ七字ヲ(何月ヨリ何月迄三ヶ月)ノ十字ニ改ム

○達第三十一號 (九月三日)

各公使領事
但シ朝鮮國ヲ除ク

今般一等書記官以下三等書記官ヲ廢セラレ更ニ書記官生ヲ被置候ニ付本年七月一日ヨリ以降右御
達書任所到達之前日迄舊官俸給之儀ハ太政官令第八號公達費用條例第壹號改正表ニ照ラシ官等相
當之最多額ヲ以支給候備ト可被相心得候事

天津	× 三千五百圓	× 三千五百圓	× 三千五百圓	× 三千五百圓	× 三千五百圓	× 三千五百圓	× 三千五百圓
汕頭	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓
福州	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓
廈門	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓
汕頭	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓
福州	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓
廈門	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓
汕頭	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓	× 三千三百圓

○五月四日

朝鮮國駐留領事

明治十一年三月二十二日附朝鮮國へ渡來ノ者ニ限リ旅券願手数料當分ノ内金五拾錢相納スヘキ旨相達候處自今海外旅券規則第三條ニ依リ手数料金貳圓相納メサセ可申此旨更ニ相達候事

内務省 布達

二十二年勅令第七十七號ニ依リ消滅

○甲第一號 (二月二十九日 檢附) 出版版權許可ノ圖書刻成前定價ヲ豫定シ免許料上納候向モ有之候處自今刻成ノ上上納可致此旨布達候事

農商務省甲第二號 布達ニ依リ消滅

○甲第二號 (三月二十二日 檢附) 但明治九年當省甲第四十一號布達ハ取消候事
○甲第三號 (五月十日 檢附) 來明治十五年二月一日ヨリ三月三十日迄東京ニ於テ穀物類葉煙草菜種共進會開設之儀ニ付昨十三年甲第三號ヲ以相達置候處該會場ニ於テ山林共進會開設候條此旨布達候事
但出品手續開場規則審査規則并開設場所等ハ追テ布達可致事

二十三年法律第三十五號ニ依リ消滅

○甲第四號 (七月四日 檢附) 明治十三年七月ヨリ同九月ニ至ルマテ版權授與并返納別冊之通候條此旨布達候事(別冊略ス)
府縣會規則第十一條ニ據リ議員改選之上其就職交替ノ手續ハ豫メ府縣會ニ於テ議定セシメ府知事縣令認可ノ上施行可致此旨布達候事
但常置委員之儀モ本文同様可取計事

○甲第五號 (七月十五日 檢附) 明治十三年十月ヨリ同十二月マテ版權授與并返納別冊之通候條此旨布達候事(別冊略ス)
○甲第六號 (七月二十二日)

明治十四年一月三月五月七月 内務省 布達 甲第一號 甲第二號 甲第三號 甲第四號 甲第五號 甲第六號 三七五

今般長崎司藥場相廢候條此旨布達候事

○甲第七號 (八月四日 輪原附)

戊辰二號達書者

明治十四年一月ヨリ同三月マテ版權授與並返納別冊之通候條此旨布達候事(別冊略ス)

○甲第八號 (八月十五日 輪原附)

明治五年十一月 致部省第廿五號達書倍托鉢禁止之儀相廢候條此旨布達候事

但托鉢者ハ管長ノ免許證ヲ携帶スヘシ

十七年第七號布告ニ依リ消滅

○甲第九號 (九月十九日 輪原附)

明治十年第八號布告第四條但書之趣モ有之候處該地現今河身トナリ舟楫ノ航路トナレル場所ニ於テハ本條ニヨリ無代價ノ券狀請求スルヲ得ルト雖モ杭打進ネ籠欄ヲ取設ケ共航路ヲ遮斷シ又ハ他人ノ漁魚採藻等ヲ拒ムヲ得サル義ニ有之候條此旨布達候事

○甲第十號 (十月三日 輪原附)

明治十四年四月ヨリ同六月ニ至ル版權授與并返納別冊之通リ候條此旨布達候事(別冊略ス)

達

乙第十八號達書以テ廢止

○乙第一號 (二月十四日 輪原附)

警察諸備等懲罰金之儀ハ明治九年ニ當省乙第二十一號達ニ照準取扱ヘシ此旨相達候事

○乙第二號 (二月二十日 輪原附)

水産ノ盛殖ヲ謀ルハ國家經濟ノ要務ニ候處置縣以降往々舊慣ヲ變易シテ捕魚其宜ヲ失シ爲之水族ノ蕃殖ヲ妨ケ巨多ノ障礙ヲ生シ候類不少哉ニ相聞候ニ付篤ト實地取調ノ上一層漁業ヲ保護シ水産ノ盛殖ニ注意可致此旨相達候事

太政官第六十三號 達書第十八号同第 十三號達ニ依リ消 滅

○乙第三號 (二月二十四日 輪原附)

各廳史誌編輯費ノ内地誌ニ係ル仕拂金額事業上參査ノ都合有之候條元拂勘定書十三年度以降別紙 雛形ニ準シ調製毎年度勘定決算ノ期ヨリ十日以内ニ申報スヘシ此旨相達候事

但明治七年ヨリ同十二年度迄ノ分各年度決算勘定科目ニヨリ本文雛形ニ準シ調製來ル三月十日 ヲ限リ取束テ差出スヘシ

(別紙)

明治何年度史誌編輯費元拂報告書

何 縣府

高金 明治何年度史誌編輯費元拂報告書

内金

一金

内課

金

金

金

金

金

史誌編輯費元 前年度受入高 本年年度受入高

地誌編輯費仕拂高

屬官俸給

等外俸給

備員俸給

諸手當

地所貸下ケ料 (山林原野其他一切ノ)
 土石堀取拂下ケ代 (明治十年當省甲第二十ニ)
 堤塘使用料 (明治十一年當省乙第五十)
 植物拂下ケ代 (運根松茸菜類下草等ノ類
 年季ヲ以拂下ルモノヲ云)
 動物拂下ケ代 (池沼生産ノ動物等ノ類
 ヲ以拂下ルモノヲ云)

已上ノ代料上半期分ハ一月三十一日下半期分ハ七月三十一日迄ニ徴收シ日數十日已内ニ大藏
 省へ送納取稅委員又ハ出納局へ納ムル 尤貸下ケ期限ニヨリ三ヶ月又ハ一時限リ許可ノ類並運
 根松茸等季節ニヨリ一時ニ收獲スル類ノ如キハ右代料一時ニ徴收送納スヘシ

一 共時限リ徴收シ上納スル概目左ノ如シ
 山林地 水竹石等ノ拂下ケ代
 官有地 粘指障磚盜伐等ノ木竹拂下ケ代及口進徴金ノ類
 下草水草運根松茸菜類露腐竹皮等拂下ケ代ノ類

一 開港
 一 開港場官地貸下ケ料ハ定約期限ニヨリ之ヲ徴收スヘシト雖モ該月分ハ翌月十日迄ニ取束上納
 スヘシ

總計表調製要目及口進運期限

一 總計表ハ該年度ノ上納皆濟ヲ報告スル者ニシテ左ノ三種ニ區分離形ニ準ヒ調製シ毎年八月十五
 日ヲ限リ附屬表取揃へ進達スヘシ

第一種 (森林ニ關スル諸收入ヲ類聚ス)
 第二種 (官地貸下ケ料堤塘使用料各種ノ拂代等
 運下草水草運根松茸菜類露腐竹皮等類聚ス)

第三種 (開港場官地貸下ケ料外國人ヨリ徴收ニ係ルモノヲ類聚ス)
 一 貸下ケ料使用料及口進運拂代ハ相當年度へ編入スヘシト雖モ一時限リ拂下ケルモノ、如キハ共
 經伺ノ上處分スルモノハ許可ノ年月府縣限リ處分スルモノハ其屆出ノ年月ヲ以テ年度ノ分界ヲ
 立ツヘシ

但年度末季ニ際シ實際七月ニ至リ木八へ許可セシモノ及ヒ六月中ノ處分ヲ七月ニ至リ屆出ル
 如キハ各實際處分ノ年度へ編入スヘシ

(用紙西ノ内)

表 第一種
 何國明治何年度森林收入總計表
 何縣府

何國明治何年度森林收入總計表

(前々許可年季中ハ本年度應納額計ヲ引キ全クノ借入額ヲ掲ク
 (本年度許可)ノ該年度新々ニ許可シタル收入額ヲ掲ク)

類目	品地	前々許可年季中		本年度		合計
		金(反別(地所數量))	料	金(反別(地所數量))	料	
料下貸林森	樹林					
	竹林					
林 森	砾石					
	築石					

入 雜				官 有 物 臨 時 拂 下 代																	
計	道 微 金	道 伐 木	道 場 用 料	道 費 下 地 料	計	小 計	何 々	遊 根	水 草 雜 草	楮 (桑) 實	楮 (桑) 葉	石	粘 根 木 (竹)	立 木 (竹)	小 計	地 代 金 庫 賦	草 生 地	荒 蕪 地	宅 地 (市 街 料)		

明治十四年二月 內務省 達 乙第廿一號 (官有地收入總計表)

官 有 物 經 常 拂 下 代													貸 下 少 料								
田 (租)	計	小 計	鳥 魚	水 草 (雜 根)	雜 草	楮 (桑) 實	楮 (桑) 葉	小 計	瓦 土	築 石	計	堤 防 用 料	小 計	何 々 地	何 々 地	株 場 地	芝 地	草 生 地			

明治十四年二月 內務省 達 乙第廿一號 (官有地收入總計表)

指令及 年月日	何年何月何日	地 字何々	何國何郡何村 何々外何箇所	地 名	地 目	年 季	地 下 料 額 (反別)	本年 度 額	本年 度 止 ノ 額	人 名
(但品目ニ應已上ハ内課ヲ提出スヘシ)										
明治何年度官有地收入總計表附屬本年度許可内課										
官有地新規貸下ケノ部										
(但該年一時限貸下ケハ別項ニ爲スヘシ)										
△年額金										
△外金										
△本年度月割收入セサル分										
△本年度年季増										
△本年度月割收入セサル分										
計								金		
内								金		
宅								金		
地								金		
反								金		
別								金		
計								金		
内								金		
宅								金		
地								金		
反								金		
別								金		
計								金		
内								金		
宅								金		
地								金		
反								金		
別								金		

指令及 年月日	何年何月何日	地 字何々	何國何郡何村 何々外何箇所	地 名	地 目	年 季	地 下 料 額 (反別)	本年 度 額	本年 度 止 ノ 額	人 名
(但品目ニ應已上ハ内課ヲ提出スヘシ)										
一堤塘使用料ハ前表ニ準ス但(貸下)ケヲ(使用)トナスヘシ										
官有物經常拂下ノ内土石ノ部										
△年額金										
△外金										
△本年度月割收入セサル分										
△本年度年季増										
△本年度月割收入セサル分										
計								金		
内								金		
宅								金		
地								金		
反								金		
別								金		
計								金		
内								金		
宅								金		
地								金		
反								金		
別								金		

何港明治何年度官地貸下料收入總計表											
紙 表 第三種											
何港明治何年度官地貸下料收入總計表											
何 縣府											
但(兼元代及ヒ拂代ノ如キ地料ニアラスト雖モ地ノ所貸下ヨリ生スル收入ハ皆之ヲ併掲スヘシ)											
類目	公使館			居留地			雜居地			前々ヨリ貸下ク一水年度貸下ク(一時收入)	
	紙幣	銀貨	金貨	紙幣	銀貨	金貨	紙幣	銀貨	金貨	紙幣	銀貨
料											
地											
坪											
料											
合											
金											
地											
計											
坪											

右者當縣管下何港明治何年度官地貸下料收入總計表書面ノ通候也											
明治何年何月何日											
内務卿宛											
官苗字名印											
何港明治何年度官地貸下料收入比較増減表											
類目	公使館			居留地			雜居地			前々ヨリ貸下ク一水年度貸下ク(一時收入)	
	紙幣	銀貨	金貨	紙幣	銀貨	金貨	紙幣	銀貨	金貨	紙幣	銀貨
水											
年											
度											
前											
年											
度											
比											
増											
減											

十九年内務省令第一一號ニ依リ消滅

明治十四年二月三日 内務省 令 乙第十二號 乙第十三號 乙第十四號 乙第十五號
○乙第十二號 (二月二十六日 輪船附) 府 縣 東京府 縣 除ク
明治十年十月當省乙第九拾三號達警部巡查給與規則第拾三條左之通改正増補シ來ル三月一日ヨリ施行候條此旨相達候事

第十三條 警部ノ旅費ハ一般ノ定規ニ依ル其區内出張及ヒ巡回ハ一日金壹圓同滞在日當ハ一日金五拾錢トシ右支給方ハ一般ノ定規ニ依ル可シ
但各廳ニ於テ適宜減省候儀告シカラズ

○乙第十三號 (三月十日 大藏省附) 府 縣
本年第五號公布ヲ以地方稅規則第七條改正相成候ニ付十二年度地方稅精算之儀モ右ニ據リ本年通常會ニ報告シ然ル後兩卿ニ報告スヘシ爲心得此旨相達候事

但已ニ進達濟ノ分ハ此限ニ非ス

○乙第十四號 (三月十四日 輪船附) 府 縣
今般第拾貳號公布之趣モ有之候就テハ自今素氣ハ拾噸風帆ハ貳拾噸以下及湖川港灣ヲ限リ運用スル船舶ハ船名噸數馬力汽船ヲハ 等六月三十日ノ現在數ヲ記シ毎年八月三十一日限可届出此旨相達候事

○乙第十五號 (三月三十日 輪船附) 警視廳 府縣 東京府 縣 除ク
監署雜則竝ニ書記看守長以下分掌例及ヒ傭人分課例別紙之通相定候條此旨相達候事

(別紙) 雜則

第一條 官吏傭人ヲ問ハス漫リニ在監人ト談言シ又ハ其購得可キ所ニ於テ檢束上ニ係ルコトヲ辯論シ若クハ雜話等ヲ爲スヲ禁ス

十九年内務省令第四十二號第五十四號第二十二號内務省訓令第二十九號ニ依リ消滅之

二十二年内務省令第八號

第二條 授業手及ヒ押丁ヲ傭フニハ必ス保人ノ押印ヲ具シタル證書ヲ納レンムヘシ但證書ニハ監署ノ規則ヲ遵奉シ特ニ在監人ノ囑託ヲ受ケ他人ニ通信シ或ハ物件ノ贈答ニ媒介セサルコトヲ詳記セシムヘシ

第三條 官廳若クハ人民ヨリ服役ノ囚徒ヲ工事ニ傭役セント求ムルコトアルトキハ便否得失ヲ考ヘ條約ヲナシテ其求ニ應スヘシ

第四條 在監人死亡シ假葬シタル遺骸ヲ改葬セント監署ニ請フ者アルトキハ之ヲ許可シ其旨ヲ警察官ニ通告スヘシ

書記 書記看守長以下分掌例

一 在監人ノ名稱ヲ調理シ囚徒ノ携有物ヲ檢收シ工業ニ關スル應用ヲ辨シ簿計其他ノ事務ヲ分掌ス

看守長

一 看守授業手押丁ノ勤惰ヲ監督シ囚徒ノ出入増減病故及ヒ其犯則ノ有無ヲ稽查シ監房内外ノ洒掃ヲ査問シ飲食ノ配與器具ノ點檢等ニ隨監ス

一 服役ノ囚ニ課スル工業ノ科程ヲ典獄ニ稟議シ其作業ヲ督勵ス

看守

一 晝夜交替シテ受持場ヲ巡警シ及ヒ監門ヲ守リ監外ニ押發ノ囚徒ヲ戒護シ病囚ノ醫治ニ立會ヒ日々監中ノ器具ヲ點檢ス

一 服役ノ囚徒作業ニ關セサル他事ヲ交談シ或ハ路人ニ聲語シ或ハ漫リニ部外ノ工場ニ入り或ハ押丁等ヲシテ囚徒ト相狃ルハノ狀ナカラシムルヲ要ス若シ犯ス者アルトキハ看守長ニ具

明治十四年二月三日 内務省 令 乙第十二號

四〇二

狀スヘシ

三文字ヲ書スル能ハサル囚徒ノ爲メニ願訴ノ書面ヲ代書ス
備入分課例

教誨師

一 改過遷善ノ道ヲ講説シテ囚徒ヲ教誨ス

醫師

一 囚徒ノ疾病ヲ診察治療シ其癘篤疾若クハ重病急症ニ至レハ診斷書ニ處方箋ヲ添ヘ典獄ニ致スヘシ

二 病囚ノ氏名病性徵候治否及ヒ處方ハ調治簿ニ詳記スヘシ

三 毎朝一次各監ヲ巡リ囚徒ノ飲食衣類ヲ看視シ健康ニ害アリト認ル事アルトキハ改良ノ意見ヲ典獄ニ具狀スヘシ

四 診察手術ヲ施ストキハ病者ニ向テ誕生ノ方法ヲ示スヘシ

授業手

一 服役ノ囚徒ニ農業工藝等ヲ教ヘシム

押丁

一 囚徒監房出入ノ際其身體衣服ヲ搜檢シ服役者ヲ督使シ控繩戒護等ニ從事ス

女監取締

一 女監ヲ監視シ婦女入監ノ際ハ典獄ノ臨監ヲ得テ其身體衣服ヲ搜檢ス

二 飲食ヲ配與シ及ヒ女囚ノ作業ヲ督勵ス

十九年勅令第四十二號第五十四號第七十七號參照

〇乙第十六號 三月三十日 給附

警 視 廳
府 縣 東 京 府
集 治 監

今般第拾四號第拾五號ヲ以テ司獄官吏名稱被定候ニ付該官吏及ヒ備入ノ儀ハ別紙程度ニ照シ設置候儀ト心得ヘク此旨相達候事

(別紙)

司獄官吏備入設置程度

判任官 在監人二百人以下五名ヲ置ク以上八百五十人毎ニ壹名ヲ増ス

看守 在監人十五人ニ壹名ヲ置ク

教誨師 人員俸金適宜

醫師 人員俸金適宜

授業手 人員俸金適宜

押丁 在監人八十人ニ壹名ヲ置キ俸金ハ八圓以下ヲ以テ月給又ハ日給トナス

女監取締 行狀善良ニシテ四十歳以上若クハ司獄官吏ノ婦女ヲ選ミ在監人二十人ニ壹名ヲ置キ俸金ハ拾五圓以下ヲ以テ月給又ハ日給トナス

〇乙第十七號 三月三十日 給附

警 視 廳
府 縣 東 京 府
集 治 監

監獄署押丁給與品左之通相定候條此旨相達候事

押丁給與品

明治十四年三月 内務省 達 乙第十六號 乙第十七號

- 一笠 縫頭 共晴雨
- 一筒袖法被 色紺地 質木綿
- 一股引 同上
- 一雨衣 同上
- 一縛繩 色桐油
- 一手帖
- 一呼子笛

○乙第十八號 (四月十一日 輪原附)

府縣 東京府

巡查並警察諸備等懲罰金巡查還納被服類及警察本分署不用品賣却代處分方之義ニ付明治九年當省乙第二十一號同年乙第九十五號同年乙第百八號本年乙第一號ヲ以テ相違候處右ハ相廢シ候條以來該金ハ地方稅一般ノ費途ヘ可仕拂此旨相違候事

但十三年當省乙第四十六號達中賣淫罰金ノ項ヲ除ノ外ハ總テ廢止ト心得ヘシ

○乙第十九號 (四月十四日 輪原附)

府縣

明治八年教部省第三十九號達自今廢止候條此旨相違候事
但明治十二年當省乙第三十三號達社寺員數表中合併欄内存名廢名ノ區別ハ削除候儀ト可相心得事

○乙第二十號 (四月十五日 輪原附)

府縣

府縣會議員選舉被選舉權ヲ有スル人員及ヒ區町村協議費區町村會及ヒ水利土功會ニ於テモ左之書式ニ準シ取調每年十二月限り指出スヘシ此旨相違候事
但シ人員ハ三月ノ現員協議費ハ前年度ノ分タルヘシ

十九年内務省令第
十六號ニ依リ但
清減

十九年内務省令第
十七號ニ依リ乙第
三十三號達清減

二十一年法律第一
三十五號發布

乙第六十號達ヲ以
テ書式改正

府縣會議員選舉被選舉權ヲ有スル者取調

(△印ハ朱書)

管内本籍ノ者人口總計若干ノ内

一 撰舉權ヲ有スル者 何名 (被選舉權ヲ有スル者モ此人員中ニ算入ス但毎年三月ノ調査ニ遊ルヘシ)

但總人口何分ノ幾ハクニ當ル

内 職士族 何名 農 何名 工 何名 商 何名 農工商ノ内ニ算入スヘシ

管内本籍ノ者人口總計若干ノ内

一 被撰舉權ヲ有スル者 何名

但總人口何分ノ幾ハクニ當ル

内 職士族 何名 農 何名 工 何名 商 何名 農工商ノ内ニ算入スヘシ

右者明治十四年乙第二十號御達ニ隨ヒ本年選舉被選舉權ヲ有スル者取調進達仕候也

縣府 知事

區町村協議費取調書

一金若干

管内幾區幾町村協議費決算額

内譯

土木費

金

内

金

水利土功會ニ
テ決斷ノ分

金

衛生及病院費

金

教育費

金

戶長役場新築修繕又ハ借家料

明治十四年四月 内務省 達 乙第二十號

金 戸長役場諸費
金 教育費
金 何々費

右ハ明治十四年乙第二十號御達ニ隨ヒ何年度管内協議費取調進仕候也

府知事 令

警視廳 府縣 東京府 府縣 東京府

○乙第二十一號 (四月十五日 輪原附)
本年第十七號第十八號ヲ以テ看守被服及ヒ帶劍之義御達相成候ニ付テハ被服ハ適宜保存期限ヲ定メ給與シ帶劍ハ貸與候義ト可相心得此旨相達候事

○乙第二十二號 (四月十八日 輪原附)
銀行又ハ諸會社又ハ町村協議或ハ人民一己ヨリ其費用ヲ納メ巡查ノ配置ヲ請願スル者ハ自今開屆請願ノ場所へ配置不苦候條該費收支方ハ國庫下渡金地方稅等ニ連帶ヒス別ニ其帳簿ヲ調製シ毎年地方稅收出精算書ト同時ニ報告スヘシ此旨相達候事

警視廳 府縣 東京府 府縣 東京府

但本文配置ノ巡查ハ一般ノ成規ニ從ヒ異同無之様取計フ可シ

○乙第二十三號 (四月十九日 輪原附)
本年第十六號公布第一條第二條ニ屬スル國庫ヨリ下渡金高取調ノ都合有之ニ付十四年度以降警察費ノ内地方稅ヨリ支出スヘキ豫算金額其府會ニ於テ議決認可次第左ノ書式ニ照準至急當省へ可届出此旨相達候事

(用紙通幣界紙ヲ以テ通)

何年度警察費ノ内地方稅ヨリ支出スヘキ豫算金額御届

一金

十九年内務省乙第
十七號達

十五年内務省乙第
五十六號達

十五年内務省乙第
六十九號達

是ハ何年度警察費ノ内地方稅ヨリ支出スヘキ豫算額ニシテ本年當府會議決高
右ノ通ニ有之候也

年 月 日

内務 卿 宛

府知事 氏名印

○乙第二十四號 (四月二十三日 輪原附)

警視廳 府縣 集治監

明治十二年三月當省乙第十二號國事犯滿期放免ノ者復籍送還方達但書増補及ヒ賄料支拂方共左之通可心得此旨相達候事

但本人他ノ地方へ寄留轉籍ヲ願フ者(及ヒ縁故アル者ノ引取シ上歸郷スル者)ハ自費タルヘシ

一 遞送途中ノ賄料ハ各地最下等ノ費額ヲ以テ其沿道地方廳ニ於テ支拂フ可シ

但草鞋代及ヒ船賃橋錢等ノ雜費ハ別ニ給與スヘシ

一 遞送中ニ若シ疾病事故等ニ係ル諸費モ沿道地方廳ニ於テ支拂フヘシ

但最寄戸長ノ證書ニ依ル可シ

一 便宜ニ由リ海路遞送スルトキハ船待滞留中ノ賄料並ニ船賃ハ發船ノ地及ヒ船繼スル每地方廳ニ於テ支拂フヘシ

○乙第二十五號 (四月三十日 輪原附) 府 縣

本年四月太政官第三十二號公布相成候ニ付テハ明治十年三月當省乙第三十二號違賣藥取扱手續中請賣鑑札料及ヒ行商鑑札料之廉并行商鑑札製作費云々ノ一項削除候條更ニ左ノ條項ニ照準シ取扱可申此旨相達候事

明治十四年四月 内務省 達 乙第二十四號 乙第二十五號

一 賣藥請賣及ヒ行商ニ地方稅ヲ賦課スルキハ本年府縣會於テ其稅額ヲ議定シ十四年度ヨリ徵收スヘシ

一 請賣鑑札料紙ハ自今大藏省ヨリ配賦不致候條各管轄廳ニ於テ從前離形ノ通製造スヘシ

但大藏省ヨリ下附セシ鑑札所持ノモノハ別段引替ニ及ハス且ツ本年分豫算ヲ以テ受取候料紙未用ノ分ハ同省ヘ返納スヘシ

一 請賣者ニテ其賣藥ヲ調製候儀ハ無之者ニハ候得共或ハ營業者ノ藥方分量ヲ傳ハリ調製候向モ有之候ハ、改正規則第二十三條ノ罰則ニ相當ルヘキモノニ付速ニ調製相止メ更ニ賣藥營業爲願出候様取計フヘシ

〇乙第二十六號 (五月二日 輪傳附)

警 祝 廳
府 縣 東 京 府
集 治 監

國事犯及ニ常事犯及ヒ陸軍裁判所ヨリ發配シタル準流徒刑等ニシテ現今監獄ニ在ル者ノ名數別紙第一第二書式ニ照シ取調往復ヲ除クノ外日數十五日限リ當省ヘ可差出此旨相達候事

但國事犯ニ係ル懲役禁獄及ニ陸軍裁判所ヨリ發配シタル準流徒刑ノ者放免死亡又ハ減等ヲ受タル者有之節ハ今後必ス其時々届出ヘシ

(別紙)

第一號 書式 明治何年月日現在
國事犯ニテ現ニ處刑中ノ者

何 府 族 籍

何 年 某 齡

明治何年月日申渡
鹿兒島又ハ熊本佐賀山口等ニ於テ
何ノ暴罪ニ與シ何々ノ科ニ依リ

乙第六十五號達ニ
依リ但書消滅

懲役何年

若シ特典減等ノ處分ヲ經シ者ハ何年月日何
等ノ減シ何年ニ處セリシノ者ハ何年月日何

何 府 族 籍

何 年 某 齡

明治何年月日申渡
何某ト限リ何々ノ企ヲ爲シタル等ノ科ニ依リ

懲役何年

若シ特典減等ノ處分ヲ經
シ者ハ前同様記入スヘシ

何 府 族 籍

何 年 某 齡

明治何年月日申渡
鹿兒島又ハ熊本佐賀山口等ニ於テ
何ノ暴罪ニ與シ何々ノ科ニ依リ

禁獄何年

若シ特典減等ノ處分ヲ經
シ者ハ前同様記入スヘシ

何 府 族 籍

何 年 某 齡

明治何年月日申渡
何某ト限リ何々ノ企ヲ爲シタル等ノ科ニ依リ

禁獄何年

若シ特典減等ノ處分ヲ經
シ者ハ前同様記入スヘシ

何 府 族 籍

何 年 某 齡

新聞條例其他ノ罪ニ依リ禁獄ニ處セラレ現ニ處刑中ノ者

明治何年月日申渡
新聞條例第何條ニ依リ

禁獄何年

明治十四年五月 内務省 達 乙第二十六號

常律ニ依リ處刑ヲ受ケ現ニ懲役ニ在ル者

一 懲役一年以上

何人

一同 五年以上

何人

一同 終身

何人

總計何人

第二號 書式 明治何年月日現在

陸軍裁判所ニ於テ處刑ヲ受ケ發配セラレ現ニ獄ニ在ル者

明治何年月日申渡

何府族籍

準流何年

何

若シ特典減等ノ處分ヲ經シ者ハ何年月日何等ヲ減シ何年ニ處セラレシコトヲ記入ス可シ

年 某

明治何年月日申渡

何府族籍

何

徒刑何年

年 某

若シ特典減等ノ處分ヲ經シ者ハ前同様記入スヘシ

○乙第二十七號 (五月五日 陸軍附 大藏卿連署)

府縣 沖繩縣

明治十三年乙第九號内務大藏兩省達地方稅徵收及地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算精算順序並書式等別冊之通改正候條此旨相達候事

十五年內務省乙第七十四號達ヲ以テ

(別冊)

地方稅豫算及精算順序

第一條 明治十二年第十六號第十七號布告ニ基キ内務大藏兩卿ニ差出スヘキ地方稅徵收及該稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及精算報告書ハ下條ノ順序ニ遵ヒ調製ス可シ

第二條 國庫下渡金ト地方稅ト連帶支辨スル費項ハ警察費(本年第十六號布告第三條)ニ限ル可シ

第三條 國庫下渡金ハ本年第十六號布告ノ制限ニ基キ從前ノ交付期程ニ據リ大藏省ヨリ下渡ス可シ

第四條 豫算調製順序ヲ示ス左ノ如シ

第一節 第一號書式ニ據リ本年度收入支出ノ豫算額ヲ表出シ前年度豫算ニ對比シ其多寡増減アルモノハ各科目ニ就キ稅目ノ取捨事業ノ興廢等詳細ニ其事由ヲ説明シ之ニ添フルニ豫算金額ノ仕譯書ヲ以テス可シ

第二節 前々年度ニ於テ殘餘金アレハ之ヲ本年度ノ收入トナシテ以テ一科目(即チ前々年度ヲ揭クヘシ)若シ又前年度ニ於テ前々年度ニ於テ前々年度ニ於テ繰入金アレハ該金額ヲ償戻スルカ爲メ本年度ノ支出ニ一費項(即チ前々年度)ヲ設ク可シ

第三節 各種稅ノ内賦課ノ都合ニ因リ支出總額ニ對シ計算上自然剩餘ヲ生スルコトアレハ之ヲ豫備費ニ併算ス可シ

第四節 通常豫算確定ノ後非常ノ費用ヲ要スルコトアルトキハ第壹號書式ノ内金額仕譯書ニ準シ其費用及賦課ノ稅目等ヲ詳記シ更ニ報告ノ順序ヲナス可シ

第五節 政府ノ許可ヲ得テ特別ニ課稅スルモノハ他ノ書式ニ倣ヒ特別課稅ノ目ヲ設ケ採滿稅ノ

次キへ編入ス可シ

第六節 雜收入ノ目ニ於テハ郡區吏員巡查看守等ノ酬俸及監獄ノ規則ニ依リ沒收シタル貨物又ハ枯損木代(官林ヲ)或ハ學校ノ授業料診察料不用品并ニ地券用紙ノ故紙賣却代價役人傭工錢(滿期付典金ヲ引去)等ヲ編入シ一般ノ地方費ニ支出ス可シ

第七節 毎歲豫算報告ニ際シ會議ニ付シタル議案及修正ノ説明書ヲ副へ差出ス可シ

第五條 精算順序ヲ示ス左ノ如シ
第一節 第二號書式ニ據リ本年度支出ノ精算額及豫算額ヲ表出シ精算ヲ以テ豫算ニ對比シ其多寡増減アルモノハ各科目ニ就キ詳細其事由ヲ説明シ之ニ添フルニ精算金額ノ仕譯書ヲ以テス可シ

第二節 精算比較ノ豫算額ハ前條第四節ノ追加アルモ最初ノ儘據置キ報告書中ニ於テ其増加セシ事由ヲ陳辨ス可シ

第三節 甲年度ノ精算ニ於テ殘餘(即チ翌々年)アルトキハ假ニ乙年度ニ預ケ之ヲ丙年度ノ收入トナス可シ

第四節 前節ニ反シ甲年度ノ實費ニ不足ヲ生スルトキハ乙年度ヨリ繰替(即チ翌年度)精算ヲ了ス可シ而テ右繰替ノ金額ハ丙年度ニ於テ乙年度ニ償還スヘキモノトス

第五節 豫備費ハ支出スル所ノ各費目へ編入スヘキカ故ニ精算ニ至テハ木科目ニ金員ノ掲出ナキヲ則トス

地方費科目

一 警察費

俸給
諸費

一 土木費

治水費
道路費
橋梁費
區町村土木補助費

一 府(縣)會議諸費

通常會議諸費
常置委員諸費

一 衛生及病院費

衛生費
病院費

一 教育費

師範學校費
女子師範學校費
中學校費
何學校費
區町村立學校補助費
一郡(區)廳舍建築修繕費

- 新營費
- 修繕費
- 一 郡(區)吏員給料旅費及廳中諸費
- 一 教育費
- 一 浦役場及雜破船諸費
- 一 管内限諸違書及揭示諸費
- 一 勸業費
 - 農業費
 - 工業費
 - 商業費
 - 博物費
- 一 戶長以下給料及戶長職務取扱諸費
- 一 府(縣)廳舍建築修繕費
 - 新營費
 - 修繕費
- 一 府(縣)監獄費
 - 獄署諸費
 - 未決人諸費
 - 已決人諸費
- 一 府(縣)監獄建築修繕費

- 新營費
- 修繕費
- 一 地方稅取扱費
- 一 豫備費
- (費途ノ有無實際ニ就テ取捨ス可シ)

△用紙美濃野紙

(△印ハ朱世)

自明治何年七月
至同 何年六月
明治何年度地方稅豫算報告書
何府(縣)

△(第壹號)

明治何年度地方稅收出豫算報告書

收入ノ部

本年度豫算ノ收入總額ハ若干圓ニシテ前年度ノ豫算總額ニ對比スレハ若干圓ヲ超過(減少)セリ因
テ兩年度各科目ノ金額ヲ表出シテ其増減ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ

收入ノ部	科目	本年	前年	度	増比	減比
地租三才一以内	稅					
營業	稅					

内ニ通スル 支出ニ係ルモノノ一編及郡區兩經濟ニ係ルモノノ各一編共ニ三部ニ編成列記シ末項ニ於テ部三 合計ノ金額及其内譯(大科目)ヲ掲出ス可シ之ニ從テ以下皆

一金	支出ノ部	警 察 費
△金	内	△地 方 稅
△金	内譯	△國 庫 下 渡 金
一金	内譯	體 給
一金	内譯	土 諸 費
一金	内譯	治 水 費
一金	内譯	道 路 費
一金	内譯	橋 梁 費
一金	内譯	區町村土木補助費
一金	内譯	府(縣)會議諸費
一金	内譯	通常會議諸費

一金	常置委員諸費
一金	衛生及病院費
一金	衛 生 費
一金	病 院 費
一金	教 育 費
一金	師範學校費
一金	女子師範學校費
一金	中 學 校 費
一金	何 學 校 費
一金	區町村立學校補助費
一金	郡(區)廳舍建築修繕費
一金	新 營 費
一金	修 繕 費
一金	豫 備 費
一金	前々年度へ補充金
一金	合計金

本年七月乙第三十四號内務大藏兩卿達中第一項第二行ノ挿註(懲役人)ノ下へ(監取給給師醫師女
守押丁助料被服費)ノ三十五字ヲ追加候條此旨更ニ相達候事

○乙第四十三號 (九月八日 輪原附) 府 縣

明治十一年當省乙第七拾號達賣藥取扱手續未項刪除候條此旨相達候事
但十二年乙第五拾五號達衛生課事務條項第六條中賣藥之件ハ從前之通可心得事

○乙第四十四號 (九月十四日 輪原附) 府 縣

濟貧恤窮施行濟居方書式之儀客年乙第四拾三號ヲ以相達置候處別紙之通改正候條此旨相達候事
但死亡其他ノ事故ニヨリ救助差止候モノハ以後不及届出候事

(別紙)

濟貧恤窮施行濟居

事	由	米	額	米	價	人	員
癩	疾	何	石	何	圓	何人	男何人 女何人
幼	弱	同	同	同	同	同	同
老	衰	同	同	同	同	同	同
疾	病	同	同	同	同	同	同
通	計	同	同	同	同	同	同
死亡其他事故ニヨリ救助差止タルモノ							同 内本年度分何人 前年度分引續施行分何人
現在人員							何人 男何人 女何人

右ハ客年七月ヨリ本年六月マテ濟貧恤窮施行濟ノ分云々
年 月 日

何府知事令名印 府 縣

○乙第四十五號 (九月二十八日 輪原附)

難破船舶費用償還方ノ儀別紙ノ通米利堅合衆國政府ト結約批准相成候條此旨相達候事
(別紙)

日本帝國ト米利堅合衆國ト俱ニ約ヲ締ヒ以テ此國ノ船彼邦ノ海岸ニ於テ難破ノ際ニ當リテ支出ス
可キ一定ノ費用償還ノ法ヲ設ケン事ヲ欲シ仍テ之カ爲メニ特約ヲ結フコトニ決意シ其全權委員トシ
テ日本國

皇帝陛下ハ外務卿正四位勳一等井上馨ヲ之ニ任シ米利堅合衆國

大統領ハ閣下ニ駐劄セル合衆國特命全權公使ジョン・モートン・ボンハムヲ之ニ任シ互ニ共委任狀ヲ相
示シ其式ノ善良適切ナルヲ認メテ訂約スルコト左列ノ如シ

凡ソ風波ノ難ニ罹レル日本ノ船民ヲ救ヒ之ニ衣食シ之ニ旅費ヲ給シ若クハ溺者ノ遺骸ヲ收得シ病
者傷者ノ醫料ヲ償フノ力ナキハ之ニ醫藥ノ資ヲ給シ若クハ死者埋葬等ノ爲メ合衆國政府ニ於テ支
出シタル諸費ハ宜シク日本政府ヨリ之ヲ償還スヘシ又合衆國市民ノ難破ニ遭遇シ日本政府ヨリ扶
助ヲ受クル者アル時ニハ合衆國政府宜シク上ト同様ノ手續ニ遵フヘシ然レトモ日本政府ニ於テモ
將タ合衆國政府ニ於テモ難破船乃至其船中ノ貨財ヲ收回保存スルニ方リテ支出シタル費用ニ至ラ
ハ之ヲ償還スルノ責任ナカルヘシ凡テ這樣ノ費用ハ其拾得シタル貨財ニ課シコレニ關係アル輩ヲ
シテ該貨財引取ノ上償還セシムル者トス

日本政府ニ於テモ將タ合衆國政府ニ於テモ其難破ノ地ニ出張セシムル政府ノ官吏警察吏或ハ地方

更ノ手當又ハ難民ヲ護送スル吏員ノ旅費若クハ公信往復ノ費用ハ之ヲ取立サルヘシ此類ノ費用ハ右官吏警察吏地方吏所屬ノ國ノ政府ニ於テ負擔スルモノトス
此約書ハ正當ノ法式ニ從ヒ各自政府ニ於テ之ヲ批准シ其批准ハ可成速ニ之ヲ華盛頓府ニ於テ交換シ右交換後三十日ヲ越ヘ之ヲ各自ノ國中ニ實施スル者トス
此約書ハ日本文及ロ英文各二本ヲ作り右ノ證據トシテ茲ニ兩國ノ全權委員各其名ヲ記シ印ヲ鈐ス東京ニ於テ

明治十三年五月十七日
西曆千八百八十年五月十七日

(印ハ朱)

井 上 馨 印

シヨウ、エー、ロシ、ハム、印

府 縣 沖繩縣

二十年內務省令第
三號二十一年同訓
令第十七號

○乙第四十六號 (九月二十八日 輪船附)
堤塘使用料之儀ニ就テハ明治十一年九月乙第五十八號及本年九月乙第三十五號ヲ以テ相違候次第モ有之候處十四年度以降地盤ノ官民有ニ拘ラス使用地ノ修繕地方稅負擔ニ係ル者ハ本年乙第三十五號達ノ通相心得協議費負擔ニ係ル者ハ協議費支出ノ町村(下渡堤塘修繕費ニ充シムヘシ尤運帶支辨ニ係ル者ハ其主擔ノ方ヘ可屬此旨相違候事

府 縣

十九年內務省甲第
二號達ヲ以テ改正

○乙第四十七號 (九月二十九日 輪船附)
河港道路橋梁工費一村限金高帳總計帳勘定帳書式ノ義去十年二月乙第十三號ヲ以相違候處去十三年第四十八號ヲ以官費下渡金被廢止候ニ付更ニ別冊書式ノ通改正候條第十四年度以降七月以後右書式ニ照準シ工費金高及總計報告書共一週歲毎年度ニ整理シ其年十二月三十一日迄ニ當省ヘ可差出此旨相違候事(別冊書式略ス)

十五年內務省第
三十一號
和書ニ依リ消滅

但各開港及外國人居留地修築工費其他官費支給有之分ハ落成ノ時々達正算候議ト可相心得事
○乙第四十八號 (十月三十一日)
別紙第三號之通神道總裁(各管長)ヘ相違候條此旨爲心得相違候事(別紙ハ下ニ載ス)
府 縣
○乙第四十九號 (十月十日 輪船附)
警視廳 府縣
昨明治十三年太政官第三十四號公布傳染病豫防規則第十三條船舶検査之儀ハ左ノ手續書ニ據リ可取扱此旨相違候事

傳染病豫防規則第十三條船舶検査手續

一 虎列刺有病地方ヨリ來ル船舶ハ之ヲ検査シ船中ニ該病者死者ナキモノハ乘客積荷共直チハ上陸ヲ許スヘシ

一 虎列刺病者死者アル船舶ハ陸上ニ離レタル場所ニ停置キ先ツ其病者死者ニ消毒法ヲ行ヒテ之ヲ處置シ次ニ乘客ニ消毒法ヲ行ヒテ上陸セシメ終リニ積荷船舶ノ消毒法ヲ行ハシムヘシ而シテ全ク其消毒ヲ終リタルハ何時ニテモ他港ニ向ケ出帆シ又ハ他ノ船舶ニ交通スルヲ得ヘシ

○乙第五十號 (十月十四日 輪船附)

府 縣

明治十二年當省乙第三十三號達中寺院佛堂并住職員數表境外佛堂ノ下ヘ境内佛堂ノ一欄ヲ增加シ取調方心得第一項但書并第五項左ノ通改正候條此旨相違候事

一 寺院并佛堂ハ云々
但掛所遺墟堪室等ノ如キ住職ヲ置カス只佛像ヲ安置シテ衆庶ニ參拜セシムル者ハ名稱ノ何タルニ拘ハラス都テ佛堂トス

一 移轉欄内云々 境内ヘ轉スル者ハ境外ノ滅欄ト境内ノ増欄トニ記シ境内ヨリ境外ヘ轉スル者ハ境内ノ滅欄ト境外ノ増欄トニ記スヘシ

明治十四年十月 内務省 達 乙第五十一號 乙第五十二號 乙第五十三號

十九年内務省令第
十一號第二十三號
ニ依リ消滅

二十二年勅令第四
十三號若

○乙第五十一號 (十月二十五日 輪原附)

府縣監獄看守月俸給與規則及ヒ旅費支給方ハ適宜相定メ當省へ可届出此旨相達候事
但今後變更ノ都度可届出事

○乙第五十二號 (十月二十五日 輪原附)

憲兵職掌中行政警察事務ノ備別紙ノ通及達示候條爲心得此旨相達候事
(別紙)

行政警察ニ關スル事務別紙規程ノ通相心得執行可致此旨相達候事
憲兵本部

明治十四年十月廿二日

内務卿 山田顯義

行政警察事務規程

第一條 行政警察ハ人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ其事務ヲ大別シテ左ノ四項トス

一 人民ノ妨害ヲ防護スルコト

二 法章ノ遵奉ヲ視察スルコト

三 健康ヲ看護スルコト

四 國事ニ關スル犯罪ヲ未萌ニ搜索警防スルコト

第二條 行政警察事務執行ノ際司法警察事務ニ牽連スル事アリト雖モ其事務ヲ混同ス可カラズ

第三條 行政警察ノ事務ヲ執行スルニ當リ他ノ警察事務官吏其場ニ臨ミタルハ其處分ヲ專務

官吏ニ讓ルヘシ

○乙第五十三號 (十月二十九日 輪原附)

十五年度以降在府縣獄囚徒費(集治院ニ入ルヘキ囚徒ニシテ豫算帳別紙書式ニ據リ調整シ前年度十一

十八年太政官第十
一號達ニ依リ消滅

警視廳 府縣 東京府及神

府縣 東京府及神

府縣 東京府及神

月二十日マテニ其地ヲ發シ(警視廳ハ同三)可差出此旨相達候事
(別紙)

何年度
何々豫算帳

應 名

在府縣獄囚徒費

(△印ハ未也)

△何年度費(前々年度)

△何年度費(前年度ノ豫算決定)

△何年度費(前年度ノ豫算決定)

一金(小科目ノ金員ハ四拾五入ノ法ニ依リ圓位ニ止ムヘシ尤金額ニ制限アリテ切)何々(小科目)

内金 切上ケノ分

外金 切捨ノ分

△何年度費(前年度ノ豫算決定)

△何年度費(前年度ノ豫算決定)

△何年度費(前年度ノ豫算決定)

△何年度費(前年度ノ豫算決定)

△何年度費(前年度ノ豫算決定)

△何年度費(前年度ノ豫算決定)

備工錢ヲ以可仕拂分

明治十四年十月 内務省 達 乙第五十三號

四四五

十五年内務省乙第
五十六號達ヲ以テ
廢止

ヲ粘附シタル損木ノ如キハ木頂ニ含留セサル儘ト可心得此旨相違候事
○乙第五十六號 (十一月十六日 輪附)
府 縣 沖繩縣
本年第三拾三號公達會計法第二章第九條ニ依リ豫算調並ノ都合有之ニ付毎年三月ニ於テ開ク可キ
通常府縣會議按ノ内警察費ノ一項ニ限リ豫算原接ノ金額左ノ書式ニ照準前年十一月廿日迄 本年ニ
十月迄 取調同日其地發還當省へ可届出此旨相違候事
(用紙通常界紙ヲ以テ通)

何年度警察費豫算原接額御届

一金

内課

金

警察費
地方税
國庫下渡金

右ハ何年度地方警察費豫算原接額前書ノ通相違無之候也

年月日

府知事 氏名 印

内務卿宛

府 縣

○乙第五十七號 (十一月二十一日 輪附)
明治十年十月 當省乙第九拾三號達警部巡查給與規則へ左ノ通追加候條本年十二月一日ヨリ施行可致
此旨相違候事

警部巡查辨當料ノ事

第十六條 外勤警部巡查夜警ノ辨當料一度金三錢五厘以内ヲ以適宜其給否ヲ定ムルヲ得
○乙第五十八號 (十一月二十一日 輪附 附 大藏卿達)

十五年内務省乙第
七十四號達ニ依リ
廢止

府 縣

二十三年法律第三
十五號

本年内務省乙第三十五號ヲ以テ堤塘使用料及並木敷賃渡料之儀相違候處該料收支之儀ハ本年内務
大藏兩省乙第二十七號達第一號第二號仕譯書中收入ハ雜收入之内課ニ堤塘使用及並木敷賃渡料之
名目ヲ掲ケ支出ハ警察費國庫下渡金ニ倣ヒ土木費中同様記載スヘシ此旨相違候事
○乙第五十九號 (十一月二十二日)
府 縣
今般東京府士族加藤弘之著述同人藏版真政大意并國休新論ト題スル兩書記載ノ主意ハ隠見ナルコ
ヲ知了シ後生ヲ誤ルノ恐アルヲ以テ絶版届出候ニ付右兩書ハ自今販賣差止候條其旨可相心得此旨
相違候事

○乙第六十號 (十一月九日)

府 縣 沖繩縣

本年乙第二十號達書中届出ノ書式左之通改正候條最前達置タル手續ニ據リ調査候儀ト心得ヘシ此
旨更ニ相違候事

府縣會議選舉被選舉權ヲ有スル者取調

(△印ハ朱書)

管内本籍ノ者人口總計若干ノ内

何名 (被選舉權ヲ有スル者ハ此人員中ニ算
入ス但毎年三月ノ調査ニ據ルヘシ)

一 選舉權ヲ有スル者
但總人口何分ノ幾ハクニ當ル
内 郡士族 何名 農 何名 (農工商ト指名シ難キ營業ノ
者ハ内ノ内ニ算入スヘシ)

内 區 (東京ノ如キ一市街ニシテ數區ア
ルモノハ之ヲ合シテ記載スヘシ)

何區 選舉權ヲ有スル者 何名

内 郡士族 何名 農 何名

内 工 何名 商 何名

管内本籍ノ者人口總計若干ノ内

明治十四年十一月 内務省 達 乙第五十九號 乙第六十號

一 被選舉權ヲ有スル者 何名
 但總人口何分ノ幾ハクニ當ル
 内 農士族 何名 農 何名 農工商ノ指名ノ種キ營業ノ
 者ハ商ノ内ニ算入スヘシ
 内 何區 △(東京ノ如キ一市街ニシテ數區アリ) △(農工商云々前ニ同シ)
 被選舉權ヲ有スル者 何名
 内 農士族 何名 農 何名 △(農工商云々前ニ同シ)
 一 議員 何名
 右者明治十四年乙第二十號御達ニ隨ヒ本年選舉被選舉權ヲ有スル者并議員ノ員數トモ取調進達仕
 候也

縣府 知事

十八年内務省甲第
二十九號達ヲ以テ
改正

區町村協議費取調書

管内幾區幾町村協議費決算額

内 金	治 水 費
内 金	道 路 修 築 費
内 金	橋 梁 修 築 費
内 金	水 利 土 功 分 會

内 金

内 金	治 水 費
内 金	道 路 修 築 費
内 金	橋 梁 修 築 費
内 金	衛 生 及 病 院 費
内 金	救 育 費
内 金	戸 長 役 場 諸 費
内 金	救 育 費
内 金	何 ヲ 費

右ハ明治十四年乙第二十號御達ニ隨ヒ何年度管内協議費取調進達仕候也

○乙第六十一號 (十二月十二日 檢附)
 本年十一月二十九日第八號公達警部長ニ屬スル俸給及雜給ハ從前警部給與ノ内ヲ以テ支辨スル儀ト可心得此旨相達候事

○乙第六十二號 (十二月二十日 檢附)
 人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及其私費開整之道路等憲兵巡行之節ハ單騎獨歩ト雖モ制服着用之節ニ限リ其實錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡船及開路願人共ハ無洩可相達候此旨相達候事

○乙第六十三號 (十二月二十二日 檢附)
 監獄則第十七條ノ襪面巾及ヒ第九條ノ用具左ノ圖式ニ倣ヒ調製スヘシ此旨相達候事

府 縣

府 縣 知 事

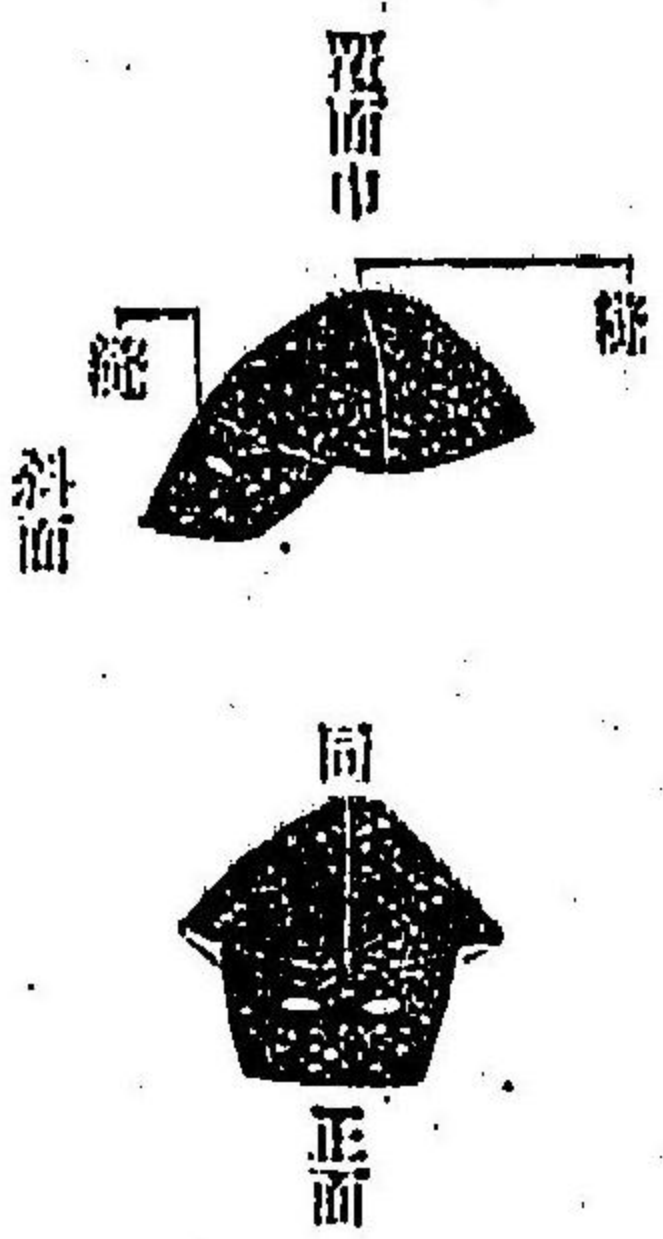
府 縣 知 事

府 縣 知 事

二十二年勅令第九
十三號ヲ以テ監獄
則改正

明治十四年十二月 内務省 達 乙第六十一號 乙第六十二號 乙第六十三號

要犯種別ニ係ル者ニ
面巾ヲ施ラシメタル
圖



無期袖刑ノ囚又犯罪シ
テ懲罰ヲ施サレタル
囚



二十二年勅令第九
十三號ニ依リ消滅

十六年内務省乙第
四十八號達ヲ以テ
變更

〇第六十四號 (十二月二十三日 諭旨)

監獄則第五十一條ニ重罪輕罪ノ囚徒ニ與フル工錢ノ區別有之候處現行律ニ依リ處刑セラレタル者
ハ懲役七年以上ノ者ニ工錢ノ十分一ヲ給シ五年以下ノ者ニ十分ノ二ヲ給スヘシ此旨相違候事
〇第六十五號 (十二月二十六日 諭旨)

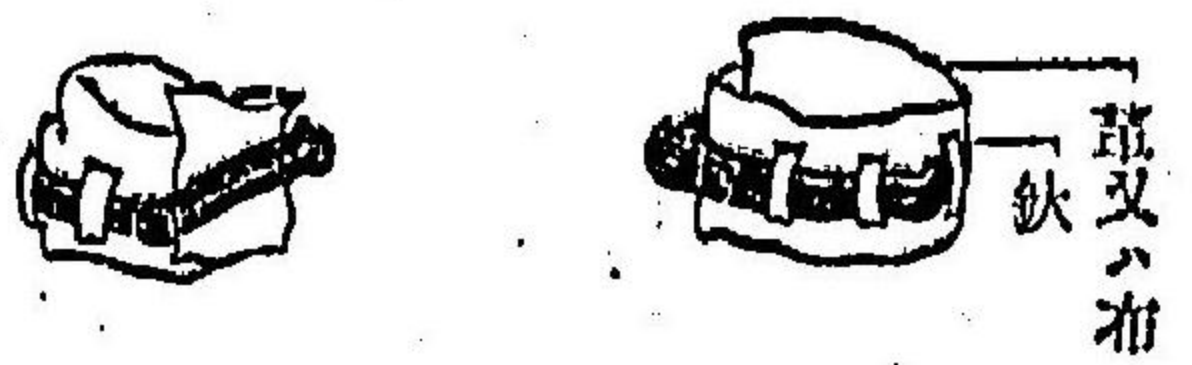
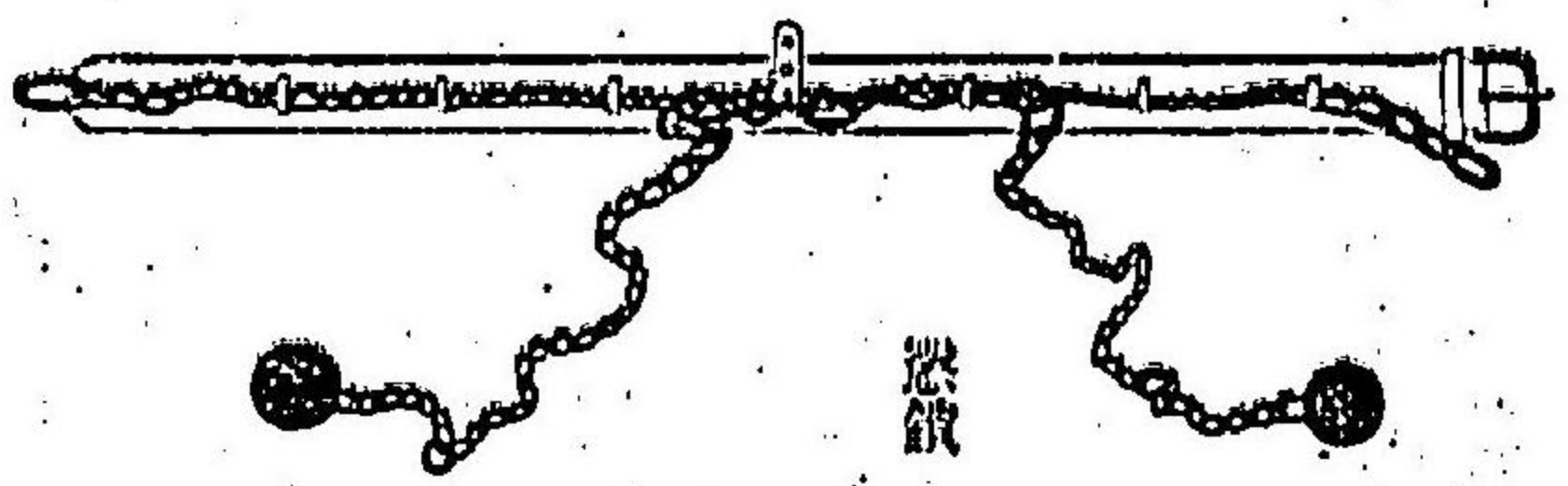
警視廳 府縣 東京府 集治監

警視廳 府縣 東京府 集治監

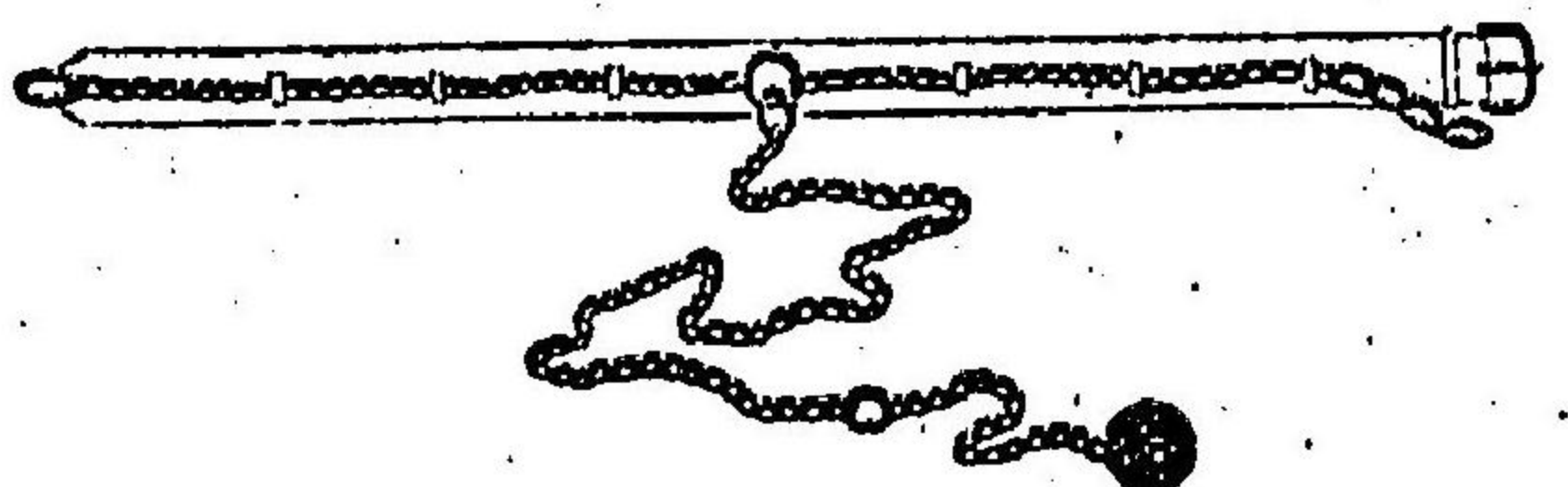
明治十四年十二月 内務省 達 乙第百六十四號 乙第百六十五號

四五三

鐵帶
ニ鐵
鎖ヲ
屬シ
タル
圖



脚
ニ施
スヘ
キ鐵
ノ圖



獄事計表別冊様本之通改定係條來十五年一月一日以後右様本ニ倣ヒ調製スヘシ此旨相違候事

(別冊)

監獄經理諸表申報及記載例

- 一各屬ニ於テ申報スヘキ監獄事務ノ諸件ハ月報并ニ雜報及ヒ雜報附錄等ノ様本ニ照レ正副二通ヲ調製スヘシ
- 一月報ハ每整月十五日以内ニ其地ヲ發シ雜報及ヒ雜報附錄ハ一月ヨリ六月迄ヲ前期トシ七月ヨリ十二月迄ヲ後期トシ前期分ハ七月中後期分ハ翌年一月中其地ヲ發シ申報スヘシ
- 一絶島又ハ遠隔ノ地ニ支署アリテ期限内ニ調製シ得ヘカラサル事アルトキハ先ツ編製シ得ヘキ分ヲ申報シ其餘ハ追次申報スヘシ 本文ノ場合ニ於テハ其事由ヲ具シテ申出ヘシ
- 一凡ソ表記ノ文字ハ縦線横線ノ用ニ供スルヲ例トス其人員金員等ノ記入ハ数字ヲ用フヘシ
- 一金員ハ職位ニ止メ職位ニ滿サルモノハ四捨五入ノ法ニ依ルヘシ其算位ノ標印ニハ千位ト百位ノ間ト圓位ト錢位トノ間ニハ點ヲ附スルヲ例トス
- 一凡ソ数字ニ零位アルトキハ小圈〇ヲ記スヘシ例ハ一〇〇金壹圓四角五分ハ一〇〇金壹圓四角五分ノ類ナリ
- 一表面各種目ヘ記入スヘキ件ナキトキハ每區圓〇ヲ填入シ其誤脱ニ非ルヲ表スヘシ
- 一署及ヒ監獄ノ數ハ附屬建物又ハ監舎ノ棟數ニ關セス單ニ場名ヲ以テ其數ト爲シ毎月盡日ノ現數ヲ掲グヘシ
- 一官吏ノ界内ニハ監獄ノ署務ニ從事スル官吏ノ本官兼官トモ毎月盡日ノ現員ヲ掲グヘシ但シ屬警部等ヨリノ兼任又ハ備等ヨリノ兼務ハ兼官ノ區ニ掲グ書記ノ看守長ヲ兼任シ看守長ノ書記ヲ兼任スル者ハ本官ノ區ノミニ掲グヘシ

一准判任ニ非ル御川掛ハ總テ備ノ區ニ掲グヘシ

一看守押丁賞罰ノ界内ニハ其人ノミヲ掲グヘシ其人ノハ每賞罰ニ各一人トナスヲ例トス

一未已決監懲治場及ヒ拘留留置并ニ乳兒ノ各界内現員ノ區ニハ總テ毎月盡日ノ現員ヲ掲グ出入出監逃走死亡賞罰等ハ其月中ノ員數ヲ掲グヘシ

一本月中罹病ノ區ニハ其月中病ニ罹リタル人員ヲ掲グヘシ但一人ニシテ數日ニ滿ル病ニ罹ルハ止メ一人トシ其病愈テ他日又病ニ罹ル者ハ又一人トナスヲ例トス

一已決監界内役事ノ區ニハ其月中ノ延人員ヲ掲グ免役ノ目ニハ大祭祝日并ニ父母ノ喪ニ遭ヒ免役セラレン者休役ノ目ニハ裁判所召喚及ヒ開室減食ノ處罰中又ハ疾病其他ノ事故ニ依リ休役セシ延人員ヲ掲グヘシ

一懲治場界内教科ノ區ニハ其月中ノ延人員ヲ掲グ休力作ノ目ニハ大祭祝日其他事故ニ依リ休業セシ延人員ヲ掲グヘシ

一懲罰ノ區ニハ其月中ニ懲罰セシ現員ヲ掲グ若シ罰期滿ルモ改換ノ狀ナク一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ科スル如キハ一人ニ算セシ一月中ニ再ヒ犯則シテ懲罰セラレシモノハ各一人トナスヘシ

一主刑ノ罰金ヨリ換ル禁錮モ輕禁錮ノ區ニ掲グヘシ

一科料ヨリ換ル拘留モ拘留ノ區ニ掲グヘシ

一諸罰則違犯ノ界内ニハ都テ刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ依テ入場セシ者ヲ掲グヘシ

一人員多寡ノ界内最多最寡ノ區ニハ其月中最多モ多人數ナル日ノ現員ト最少モ少人數ナル日ノ現員ヲ掲グ在監延人員ノ區ニハ毎月一日ヨリ盡日マテ日々ノ在監人員 刑餘留置區及ヒ乳兒ヲ除キ ヲ一ヶ月分積算シタルモノヲ掲グヘシ

一 役事界内延人員ノ區ニハ毎月一日ヨリ盡日マテ日々役外役ニ服セシ人員ヲ積算シテ之ヲ掲ケ工
錢收入高同給與高ノ區ニハ共月中收入及ヒ給與セシ金額ヲ掲ケヘシ

一 雜報及ヒ雜報附録ハ總テ六ヶ月自一月至六月自間ニ在テ入監入場セシ者假ニ出獄シタル者幽閉
ヲ免セラレタル者ノ現員ヲ掲ケヘシ

一 諸表中比較ノ界内増減ノ區ニ於ル月報ハ前月ト本月ト雜報及ヒ雜報附録ハ前期ト本期トヲ比較
シ其増減ヲ掲ケヘシ

其男女區別ハ男女各別ニ増減ヲ記スヘシ

其男女總計ハ男女ノ合數ニ就テ増減ヲ記スヘシ例ヘハ男五人ヲ増シ女八人ヲ減スレハ減一人ト
記スルノ類ナリ

一 囚徒罪質ノ界内ニハ毎月盡日ノ現員中ニ就キ罪質ヲ差別シテ之ヲ掲ケヘシ

一月報摘要ニハ共月中監獄ノ概要 監獄ニ關スル事變在監入ノ情狀變死ノ額未傳染病ノ狀況 現在
日ヲ寬策シテ摘録スヘシ 監入ヲ他管ニ押送シタル其年月日及ヒ他管ヨリ受取タル其年月

一 他管ニ押送スル未決已決ノ者未タ途中ニ在ルトキハ其人員ト共事由ヲ月報摘要ニ掲ケヘシ
(別冊檢索略ス)

○丙第一號 (二月十四日)

(本文ハ熊本縣下日本形船一艘所在不知ノ件略ス)

○丙第二號 (二月十九日)

- 沿海府縣 熊本縣
- 石川縣 岡山縣 兵庫縣
- 山口縣 和歌山縣

太政官第二十六號
達

其縣下官林事務之備ハ當省山林局出張所ニ而取扱候得共官林内火災風損蟲害盜伐其他都テ官林之
利害ニ付而ハ郡區長戸長等ニ於テモ平常注意可致ハ勿論ニ付右等發見候節ハ速ニ山林局出張所へ
申報シ且差置難キ場合ニ於テハ直ニ防禦取締方ニ從事シ一層保護取締上注意可致旨兼テ郡區長戸
長等へ相達置可申候此旨相達候事

右同文 郡區ノ區ノ字除之

○丙第三號 (二月二十八日)

(本文ハ沖繩縣下琉球形小船一艘所在不知ノ件略ス)

○丙第四號 (二月一日)

(本文ハ島根縣下漁船一艘并日本形商船一艘所在不知ノ件略ス)

○丙第五號 (二月七日)

(本文ハ京都府下漁船一艘所在不知ノ件略ス)

○丙第六號 (二月二十六日)

(本文ハ福島縣下小廻船一艘沖繩縣下琉球形商船一艘所在不知ノ件略ス)

○丙第七號 (三月二日)

(本文ハ静岡縣下漁船一艘所在不知ノ件略ス)

○丙第八號 (三月八日)

(本文ハ神奈川縣下日本形商船榮福丸所在不知ノ件略ス)

- 茨城縣 秋田縣 青森縣
- 長野縣 岐阜縣 静岡縣
- 大分縣
- 沿海府縣 沖繩縣
- 沿海府縣 島根縣
- 沿海府縣 京都府
- 沿海府縣 福島縣
- 沿海府縣 静岡縣
- 沿海府縣 神奈川縣

明治十四年一月三日 内務省 達 丙第三號 丙第四號 丙第五號 丙第六號 丙第七號

申出此旨相違候事

十七年内務省成第
二號達ニ依リ消滅

神佛各管長

○戊第一號 (二月四日 輪原附)
説教所ノ儀自今社寺外へ設置ノ向ハ七年教部省乙第三十八號達ニ照準當省へ出願候儀ト相心得此旨教導職へ可相違事
但人家等借受一時執行候ハ此限ニアラス

十七年内務省成第
止テ以テ教導職廢

○戊第二號 (八月十五日 輪原附)

佛道各宗派管長

僧侶托鉢解禁之儀今般別紙第八號布達候ニ付テハ自今左ノ條件遵守各宗派僧侶(教導職、試補、以上)ノ内托鉢ヲ爲サント欲スルモノ免許方法及取締規約取調可伺出此旨相違候事(別紙ハ上ニ載ス)

托鉢免許方并托鉢者心得

一 托鉢ヲ免許セントキハ左ノ離形ニ照シ免許證ヲ交附シ共都府廳者所在ノ地方廳へ通知シ東京ハ警視廳へモ通知スヘシ

一 托鉢ヲ行フハ午前第七時ヨリ同第十一時迄ヲ限リトス

但遠路往返ノ爲メ時間ヲ遷延スルハ非此限

一 托鉢者ハ如法ノ行裝ニテ免許證ヲ携帶シ行乞スルヲ常トス施者ノ請フアルニアラサレハ人家ニ接近シ濫リニ歩ヲ駐ムヘカラス且施物ハ施者ノ意ニ任セ敢テ餘物ヲ乞フ許サス

一 托鉢者ハ一列三人以上十八人以下マルヘシ且公衆來往ノ便ヲ妨メヘカラス

一 免許證ハ何時タリトモ警察官等ノ檢閱ニ供スヘキモノトス

標牌離形

木製

縦六寸 横四寸

第何號

表

何宗派 管長印
托鉢免許之證

裏

何府縣郡區 何寺社 何等徒 教導職名 試補
何 某
年月日
年月日生

○戊第三號 (十月三日 輪原附)

神道總裁
神佛各管長

教院教會所説教所等ニ於テ葬祭ヲ執行シ或ハ平素衆庶ニ參拜セシムル等神社寺院ノ所爲ニ做フモノ有之候テハ不都合候條心得違無之様可爲致此旨相違候事

○番外 (七月八日)

神宮並官國幣社神官

本年暑中休暇之儀總テ十一年七月當省番外達之通可心得此旨相違候事

○番外 (七月二十三日 輪原附)

警視廳 府縣

拙者儘今般 御巡幸供奉御先發被仰付本日出發候ニ付留守中土方大輔省務代理候條此旨相違候事

○番外 (十月六日 輪原附)

警視廳 府縣

拙者 御巡幸供奉御先發中内務大輔土方久元代理候處今般歸京ニ付本日ヨリ省務取扱候條此旨相違候事(内務卿松方正義)

十月六日 番外達ニ
依リ消滅

十七年内務省成第
止テ以テ教導職廢

十五年内務省成第
一號達者

○番外 (十月二十二日 檢附)

警視廳 府縣 東京府

今般被 仰出候 勅諭文中國會御開設期限ノ備誤解ノ向キ不少ニ付爲念伺出候處別紙ノ通御指令有之候ニ付其旨可相心得依テ其府下發行ノ諸新聞雜誌等右ニ抵觸セル旨趣ヲ以テ掲載セルモノハ已往ニ遡リ嚴重ニ正誤可爲致此旨相達候事

(別紙)

國會御開設期限ノ備ニ付伺

過ル十二日 勅諭ヲ以テ明治二十三年ヲ期シ議員ヲ召シ國會ヲ開キ云々被 仰出候ハ二十三年ヲ待チ初メテ國會御開設可相成旨ニ可有之處民間或ハ解釋ヲ異ニシ二十三年マテノ内ニモ御開設可相成御旨趣誤ニ誤解ノ向有之新聞ニモ掲載致シ不都合ニ付兼テ地方官へ爲心得相達置度候處右ハ勅諭ニ關シ候儀ニ付謹テ相伺候也

明治十四年十月二十日

內務卿松方正義

太政大臣三條實美殿

朱書

詔書ノ御趣意ハ伺ノ通ニ候條心得違無之様地方官へ可示置事

明治十四年十月二十二日

警視廳 府縣 東京府

○番外 (十一月二十一日 檢附) 本年八月第七拾七號公達中主務ノ省トアルハ內務司法兩省ヲ指稱シタル儀ニ候條爲心得此旨相達候事

告示

○甲第一號 (十二月二十二日 檢附)

明治十四年七月ヨリ同九月ニ至ルマテ版權授與并版權返納別冊之通候條此旨告示候事、別冊略ス

大藏省 布達

○甲第一號 (二月十日)

(本文ハ兵庫縣下川西善右衛門所有起業公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第二號 (二月十日)

(本文ハ静岡縣土族佐藤義雄山口縣土族田村昆輔記名金祿公債證書所在不分明并紛失ノ件略ス)

○甲第三號 (二月十五日)

(本文ハ静岡縣土族大堀包次郎鹿兒島縣土族与前藤作外三名記名金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第四號 (二月十五日)

(本文ハ山形縣土族荻野勝彬外一名所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第五號 (二月十八日)

(本文ハ大分縣土族大島信久所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第六號 (二月二十日)

(本文ハ福島縣下寶槻直市岡山縣下井上小四郎所有起業公債證書紛失并盜難ノ件略ス)

○甲第七號 (二月二十二日)

(本文ハ德島縣土族中山甲子郎所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第八號 (二月二十二日)

(本文ハ茨城縣土族中山昌生鹿兒島縣土族木田作太郎東京府下志賀二郎德島縣土族青山道次郎

明治十四年一月 大藏省 布達 甲第一號 甲第二號 甲第三號 甲第四號 甲第五號 甲第六號 四六一

山形縣士族內村真藏外一名記名金祿公債證書所在不明并紛失盜難ノ件略ス

○甲第九號 (二月二十六日)

(本文ハ東京府士族小出英保所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第十號 (二月二十六日)

(本文ハ静岡縣士族內藤忠順所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第十一號 (二月二十七日)

客年二月第五號ヲ以布告相成候改造壹圓紙幣ヲ以當今流通ノ壹圓貳圓兩種ノ紙幣ト漸次交換候條此旨布達候事

○甲第十二號 (二月三日)

(本文ハ東京府士族鈴木信所有金祿公債證書所在不明ノ件略ス)

○甲第十三號 (二月四日)

(本文ハ滋賀縣下淵田次郎左衛門外一名所有起業公債證書紛失并遺失ノ件略ス)

○甲第十四號 (二月七日)

(本文ハ岡山縣士族小倉高嘉靜岡縣士族佐藤雄鹿兒島縣士族弓削藤作外三名記名金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第十五號 (二月七日)

(本文ハ山口縣士族渡邊淺之助所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第十六號 (二月八日)

(本文ハ秋田縣下吉田兵吉所有金祿公債證書所在不明ノ件略ス)

○甲第十七號 (二月十二日)

(本文ハ石川縣下勝守清四郎所有秩祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第十八號 (二月十五日)

(本文ハ兵庫縣下川崎源八郎所有新公債證書金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第十九號 (二月十五日)

(本文ハ秋田縣士族柿崎政信鹿兒島縣士族長野珠城徳島縣士族中山甲子郎所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第二十號 (二月十五日)

(本文ハ東京府士族鈴木重光外二名所有金祿公債證書所在不明ノ件略ス)

○甲第二十一號 (二月十六日)

(本文ハ石川縣下豐川玄洲記名舊公債證書發見ノ件略ス)

○甲第二十二號 (二月二十二日)

(本文ハ兵庫縣下川崎源八郎所有起業公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第二十三號 (二月二十二日)

(本文ハ東京府下高野ノ比靜岡縣士族齋藤英太記名金祿公債證書盜難并紛失ノ件略ス)

○甲第二十四號 (二月二十二日)

(本文ハ鹿兒島縣下新名仁吉記名舊公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第二十五號 (二月二十二日)

(本文ハ群馬縣下岡崎茂十郎所有起業公債證書發見ノ件略ス)

○甲第二十六號 (二月三日)

(本文ハ山口縣士族渡邊淺之助石川縣士族堀江親木所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

明治十四年三月 大藏省 布達 甲第二十七號 甲第二十八號 甲第二十九號 甲第三十號 甲第三十一號 甲第三十二號 甲第三十三號 甲第三十四號 甲第三十五號 甲第三十六號 四六六

十七年第七號布達
ニ依リ消滅

○甲第二十七號 (三月三日)
(本文ハ東京府士族鈴木信親所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第二十八號 (三月三日 輪原地)
地價修正ニ際シ若シ檢査員ノ鑑定ニ服セサル者アルトキハ其年ヨリ三ヶ年間坪割ヲ以テ登量ヲ試驗シ其平均額ニ據テ地價ヲ定ムヘシ但試驗年間ハ從前ノ地價ニ據テ收稅スヘシ此旨布達候事

○甲第二十九號 (三月五日)
(本文ハ東京府士族根岸定齋所有秩祿金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第三十號 (三月七日)
(本文ハ兵庫縣下川崎源八郎所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第三十一號 (三月十一日)
(本文ハ岐阜縣士族宮田久馬福爾縣士族弓削孫平記名金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第三十二號 (三月十一日)
(本文ハ山口縣士族米原治兵衛所有金祿公債證書遺失ノ件略ス)

○甲第三十三號 (三月十六日)
(本文ハ熊本縣士族松原素一東京府下石野榮次郎記名金祿公債證書被欺取ノ件略ス)

○甲第三十四號 (三月十六日)
(本文ハ東京府士族池田亭太郎外一名同府下池田健作所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第三十五號 (三月二十二日)
(本文ハ京都府士族田村友尾所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第三十六號 (三月二十二日)

○甲第二十七號 (三月二十二日)
(本文ハ大阪府下金場融治山口縣士族齋藤義三所有金祿公債證書紛失所在不分明ノ件略ス)

○甲第二十八號 (三月二十二日)
(本文ハ鹿兒島縣士族安田徹藏ハ下付スヘキ新公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第二十九號 (三月二十二日 内務部選擇)
(本文ハ滋賀縣平民木本利兵衛記名新公債證書所在不分明ノ件略ス)

明治十三年六月第三十號公布ニ據リ十四年度備荒儲蓄金配付額別紙ノ通候條此旨布達候事
但大阪府及滋賀石川福井ノ三縣ハ追テ相違可申候事
(別紙)

備荒儲蓄補助金配付高

一金壹萬千九百七拾貳圓	東京府
內 金五千九百八拾六圓	東京府
內 金五千九百八拾六圓	東京府
一金壹萬六千七百三拾壹圓	京都府
內 金八千三百六拾五圓	京都府
內 金八千三百六拾六圓	京都府
一金壹萬六千四百六拾貳圓	神奈川縣
內 金八千貳百三拾貳圓	神奈川縣
內 金八千貳百三拾貳圓	神奈川縣
一金四萬四千三百八拾九圓	兵庫縣
內 金貳萬貳千九百九拾五圓	兵庫縣
內 金貳萬貳千九百九拾四圓	兵庫縣
一金貳萬六千八百八拾二圓	長崎縣
內 金壹萬三千九拾貳圓	長崎縣
內 金壹萬三千九拾貳圓	長崎縣

十四年七月號ノ分
十五年一月號ノ分

明治十四年三月 大藏省 布達 甲第二十七號 甲第二十八號 甲第二十九號 四六七

一金三萬五千七百八拾五圓	內	金壹萬七千八百九拾三圓	同同	新
一金三萬四千四拾八圓	內	金壹萬五千五百貳拾四圓	同同	濶
一金貳萬七千七百三拾七圓	內	金壹萬三千八百六拾九圓	同同	縣
一金貳萬四千五百五拾壹圓	內	金壹萬二千八百六拾九圓	同同	嶺
一金壹萬六千七百五拾壹圓	內	金八千三百七拾五圓	同同	玉
一金壹萬六千五百六拾五圓	內	金八千三百七拾六圓	同同	縣
一金三萬三千三百九拾八圓	內	金八千貳百八拾貳圓	同同	茨
一金三萬八千八百七拾貳圓	內	金壹萬九千四百三拾六圓	同同	城
一金貳萬五千四百三拾六圓	內	金壹萬九千四百三拾六圓	同同	千
一金九千七拾貳圓	內	金四五千五百三拾六圓	同同	葉
				縣
				嶺
				馬
				縣
				群
				縣
				橡
				木
				縣
				三
				重
				縣
				愛
				知
				縣
				靜
				岡
				縣
				山
				梨
				縣

一金貳萬三千五百六拾壹圓	內	金壹萬五千五百八拾壹圓	同同	岐
一金貳萬二千五百八拾壹圓	內	金壹萬七千九拾貳圓	同同	阜
一金壹萬貳千九百貳拾七圓	內	金六千四百六拾四圓	同同	長
一金貳萬貳千四百九拾九圓	內	金五千五百三拾三圓	同同	野
一金壹萬二千八拾四圓	內	金四千九百七拾八圓	同同	縣
一金九千九百五拾六圓	內	金四千九百七拾八圓	同同	宮
一金壹萬八千四百七圓	內	金九千貳百三圓	同同	城
一金壹萬四千九百四拾圓	內	金七千四百七拾圓	同同	島
一金貳萬七千五百八圓	內	金七千四百七拾圓	同同	縣
一金三萬貳千五百四拾四圓	內	金壹萬六千貳百七拾貳圓	同同	秋
				田
				縣
				山
				形
				縣
				青
				森
				縣
				岩
				手
				縣
				福
				島
				縣
				宮
				城
				縣
				長
				野
				縣
				岐
				阜
				縣

一金貳萬八千貳拾七圓	同	廣島縣
內 金壹萬四千拾圓		
金壹萬四千拾圓		
一金壹萬貳千貳百九拾貳圓	同	山口縣
內 金六千四百拾六圓		
金六千四百拾六圓		
一金壹萬六千九百五圓	同	和歌山縣
內 金八千四百五拾貳圓		
金八千四百五拾貳圓		
一金壹萬三千八百八拾七圓	同	德島縣
內 金六千五百九拾四圓		
金六千五百九拾四圓		
一金三萬七千八百八拾貳圓	同	愛媛縣
內 金壹萬五千八百九拾壹圓		
金壹萬五千八百九拾壹圓		
一金壹萬貳千八百九拾三圓	同	高知縣
內 金六千四百四拾六圓		
金六千四百四拾六圓		
一金三萬九百七拾三圓	同	福岡縣
內 金壹萬五千四百八拾七圓		
金壹萬五千四百八拾七圓		
一金壹萬五千六百貳拾六圓	同	大分縣
內 金七千八百拾三圓		
金七千八百拾三圓		
一金貳萬貳千四百五拾三圓	同	熊本縣
內 金壹萬貳千貳百貳拾七圓		
金壹萬貳千貳百貳拾七圓		
一金貳萬六千六百六拾六圓	同	鹿兒島縣
內 金壹萬三千三百三拾三圓		
金壹萬三千三百三拾三圓		

一金拾貳萬貳千四百拾壹圓	同	大坂府及滋賀縣分
內 金六萬千七百拾圓		
金六萬千七百拾圓		
計金九拾萬圓	十四年七月渡ノ分	
內 金四拾五萬圓	十五年一月渡ノ分	
金四拾五萬圓		
外		
金三拾萬圓		中央儲蓄金 大藏省管掌ノ分
○甲第四十號 (三月二十五日)		
(本文ハ滋賀縣下池原所有起業公債證書紛失ノ件略ス)		
○甲第四十一號 (三月二十五日)		
(本文ハ長崎縣士族稻垣良東京府士族根岸定符記名秩祿公債證書金祿公債證書發見ノ件略ス)		
○甲第四十二號 (三月二十五日)		
(本文ハ鹿兒島縣士族柳勘兵衛外十名愛知縣士族松田濱治郎記名金祿公債證書盜難并所在不分明ノ件略ス)		
○甲第四十三號 (三月三十一日)		
(本文ハ熊本縣士族衣笠十九郎所有金祿公債證書遺失ノ件略ス)		
○甲第四十四號 (三月三十一日)		
(本文ハ東京府下高野ノ記名金祿公債證書發見ノ件略ス)		
○甲第四十五號 (四月二日)		
(本文ハ山口縣士族田村小八所有金祿公債證書遺失ノ件略ス)		
○甲第四十六號 (四月九日)		

○甲第四十七號 (四月九日)
(本文ハ福岡縣士族白石初外一名所有金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第四十八號 (四月十一日)
(本文ハ徳島縣士族林半八所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第四十九號 (四月十四日)
(本文ハ茨城縣士族高階知訓所有金祿公債證書遺失ノ件略ス)

○甲第五十號 (四月十四日)
(本文ハ東京府下藤井島吉山口縣下吉末仁助山形縣士族渡部宣貴記名金祿公債證書紛失并盜難ノ件略ス)

○甲第五十一號 (四月二十二日)
秩祿及日新公債舊神官配當祿公債證書ノ元金發行條例ノ旨趣ニ遵ヒ十三年度可拂戻秩祿公債ハ金額百三拾壹萬九百圓鐵ノ數三拾貳木内五本當リ鐵新公債ハ金額拾萬四百五拾圓鐵ノ數百拾壹木内壹本當リ鐵配當祿公債ハ金額三萬三千百圓鐵ノ數拾木内壹本當リ鐵ト定メ目今證書ノ所轉高最多キ東京府ハ本月十八日主務ノ官員出張限下第一國立銀行ヲ始メ證書所持高巨額ナル者三拾餘名ヲ撰テ全國證書所持人ノ總代トシ一同ノ眼前ニ於テ抽籤施行候處鐵當左記ノ通(當籤書略ス)
右前書總代人ヨリ方法ノ公平正實ナルコトヲ保証ノ上確定候條此段可相心得就テハ此番記號ノ證書所持ノ者ハ速ニ管廳ヘ可申出管廳於テハ該證書ノ番記號種類金高枚數共詳細調査シテ合計表ヲ製シ元金領取方往復ヲ除クノ外十日限當省ヘ可申出此旨布達候事
但本年分利子ハ四月分迄拂渡ニ付壹人ニテ數種ノ證書所持ノ者ハ元金合計シテ月割利子算出シ

本文合計表へ組入可差出且此布達管廳へ到達以後ハ鐵當リノ證書更ニ讓渡買賣停止候事

○甲第五十二號 (四月二十三日)

(本文ハ福岡縣士族三坂千代吉記名秩祿公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第五十三號 (四月二十五日)

(本文ハ東京府士族小澤鉄次郎所有金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第五十四號 (四月二十五日)

(本文ハ滋賀縣士族栗林傳次外二名記名金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第五十五號 (四月二十五日)

(本文ハ大坂府下大河萬丈所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第五十六號 (四月二十九日)

(本文ハ高知縣士族永野久義所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第五十七號 (五月三日)

(本文ハ鹿兒島縣士族椎原丈次郎外二名記名金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第五十八號 (五月三日)

(本文ハ熊本縣士族衣笠十九郎所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第五十九號 (五月三日)

(本文ハ大坂府下大河萬丈所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第六十號 (五月五日)

(本文ハ東京府士族七澤運同府下成瀬長左衛門外一名記名金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第六十一號 (五月七日)

○甲第六十二號 (五月七日)
(本文ハ秋田縣士族永井茂政所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第六十三號 (五月十日)
(本文ハ大坂府士族上田美濃三郎所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第六十四號 (五月十日)
(本文ハ福岡縣士族太田卯三太所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第六十五號 (五月十日)
(本文ハ德島縣士族兼子辨五郎所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第六十六號 (五月十一日)
(本文ハ東京府士族伊藤昭徳京都府士族武山助右衛門記名金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第六十七號 (五月十二日 内務部連署)
(本文ハ京都府下池坊專正外一名所有起業公債證書盜難并燒失ノ件略ス)

大坂府及滋賀石川福井ノ三縣分十四年度備荒儲蓄金配付額別紙ノ通候條此旨布達候事
(別紙)

備荒儲蓄補助金配付高	
一金四萬五千六百三拾六圓	大 阪 府
內 金貳萬貳千八百拾八圓	
內 金貳萬貳千八百拾八圓	十四年七月渡之分
內 金貳萬貳千五百拾三圓	十五年一月渡之分
內 金貳萬三千五百拾四圓	同 同
內 金貳萬三千五百拾四圓	同 同
內 金貳萬四千六百拾六圓	福 井 縣

內 金七千三百八圓
內 金七千三百八圓
同 同
石 川 縣

一金三萬五千五百八拾貳圓
 內 金貳萬七千七百九拾陸圓
 內 金貳萬七千七百九拾陸圓
計金拾貳萬貳千四百拾陸圓
 內 金六萬七千七百拾圓
 內 金六萬七千七百拾圓

○甲第六十八號 (五月十七日)
(本文ハ長崎縣士族武富定七所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第六十九號 (五月十七日)
(本文ハ茨城縣士族高階知訓山口縣士族齋藤義三埼玉縣士族内田辰雌京都府士族田村友尾所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第七十號 (五月十七日)
(本文ハ山口縣下井關治右衛門所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第七十一號 (五月十九日)
(本文ハ東京府士族齋藤長久所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第七十二號 (五月十九日)
(本文ハ静岡縣士族小野正三郎所有金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第七十三號 (五月二十四日)
(本文ハ岐阜縣士族宮田久馬所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第七十四號 (五月二十四日)
(本文ハ東京府士族小澤鉄次郎所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

乙部二十號通商
十七年大藏省第四
十一號告示ヲ以テ
改正

○甲第七十五號 (五月二十四日 諭旨)
客年二月第五號ヲ以テ布告相成候交換新紙幣壞裂ノ節ハ別紙交換規則ニ照準引換方可取計此旨布達候
事

(別紙)

損紙幣交換規則

水火災或ハ鼠喰出喰等ノ爲メ毀損セシモノヲ交換スルトキハ毀損ノ原因ヲ取札シ左ノケ條ニ照準
交換スヘシ

第一條 小破或ハ二ツ切レ三ツ切レ等幾片ニ細斷スルトモ中央ノ數位(二三)及ヒ大藏卿出納局長
ノ印章記録局長ノ割印上下ノ番記號(四ケ)マテ接續スルモノ又全部所々破損スルトモ中央ノ數
位(二三)ヲ認メ大藏卿出納局長ノ印章記録局長ノ割印ノ内壹個上下番號記號四ケ所ノ内二ケ所
(記號一ケ所番號一ケ所又ハ番號一ケ所番號一ケ所)存在スルモノハ全額ヲ以テ交換ニ付スヘシ
但全紙接續スルトモ左右ノ番記號同シカラサルモノ又ハ彩紋等不他ノ紙幣ヲ以テ接續スルト
認ムルモノハ交換ニ附セス

第二條 縦又ハ横斜等半片ハ消滅シ残り半片ノ紙幣ハ中央ノ數位(二三)一字ヲ存在シ大藏卿印章
或ハ出納局長ノ印章記録局長割印ノ内一個上下番記號ノ内一個ヲ認ルモノ及ヒ數位二字トモ各
半存セシハ半額ヲ以テ交換ニ付スヘシ

第三條 大藏卿及ヒ其他ノ印章番記號トモ全存スルト雖モ中央ノ對章及ヒ數位(二三)ヲ認サルモ
ノ中央ノ對章及ヒ數位(二三)存在スルトモ各印章及ヒ番記號ヲ不認モノハ交換ニ付スヘカラス
○甲第七十六號 (五月二十四日)
(本文ハ高知縣士族別役要所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第七十七號 (五月二十七日)
(本文ハ東京府下石野榮次郎所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第七十八號 (六月一日 諭旨附)
岐阜縣下美濃國加納第百三拾壹國立銀行ノ備本年七月一日ヨリ大坂第三拾貳國立銀行へ合併營業
致度旨願出開屆候流テハ第百三拾壹銀行ヨリ發行セシ紙幣ハ従前ノ通用セシメ右引換方等ノ備
ハ第三拾貳銀行本店ニ於テ爲取扱候條聊無疑念授受可致此旨布達候事

○甲第七十九號 (六月二日)
(本文ハ岡山縣下池上達治記名新公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第八十號 (六月七日)
(本文ハ東京府士族植原義保福井縣士族皆崎勉所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第八十一號 (六月七日)
(本文ハ鹿兒島縣士族椎原丈次郎外二名記名金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第八十二號 (六月八日)
(本文ハ長野縣士族駒澤潤登所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第八十三號 (六月九日)
(本文ハ鹿兒島縣下根井玄洋所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第八十四號 (六月十一日)
(本文ハ石川縣士族早川時敏所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第八十五號 (六月十一日)
(本文ハ静岡縣士族小野正三郎所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

明治十四年五月 大藏省 右連 甲第七十七號 甲第七十八號 甲第七十九號 甲第八十號 甲第八十一號 甲第八十二號 甲第八十三號 甲第八十四號 甲第八十五號 四七七

明治十四年六月 大藏省 布達 甲第八十六號 甲第八十七號 甲第八十八號 甲第八十九號 甲第九十號 甲第九十一號 甲第九十二號 甲第九十三號 甲第九十四號 甲第九十五號 四七八

○甲第八十六號 (六月十六日)

(本文ハ岡山縣下木南覺次郎所有起業公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第八十七號 (六月十六日)

(本文ハ滋賀縣士族栗林傳次所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第八十八號 (六月二十四日)

(本文ハ兵庫縣下川西善右衛門所有起業公債證書發見ノ件略ス)

○甲第八十九號 (六月二十四日)

(本文ハ島根縣下大原郡人民共有起業公債證書燒失ノ件略ス)

○甲第九十號 (六月二十七日)

(本文ハ静岡縣士族關田繁吉愛知縣士族眞野房次郎記名金祿公債證書發見并所在不明ノ件略ス)

○甲第九十一號 (六月二十七日)

(本文ハ愛媛縣士族谷本孫六所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第九十二號 (七月二日)

(本文ハ大阪府下吉田芳兵衛所有金祿起業公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第九十三號 (七月二日)

(本文ハ滋賀縣下高木助次郎所有秩祿公債證書所在不明ノ件略ス)

○甲第九十四號 (七月六日)

(本文ハ東京府下伊藤佐兵衛所有舊公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第九十五號 (七月九日)

(本文ハ石川縣士族早川時敏所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第九十六號 (七月二十三日)

(本文ハ山口縣士族伴朝平京都府下岡本潤次郎所有起業公債證書紛失并遺失ノ件略ス)

○甲第九十七號 (七月二十五日)

(本文ハ静岡縣士族山本道太郎記名金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第九十八號 (七月二十五日)

(本文ハ長野縣下柳澤次郎兵衛所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第九十九號 (七月二十五日)

(本文ハ東京府士族植原義保外一名南知縣士族川役要所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第一百號 (七月二十八日)

(本文ハ石川縣士族西村丈夫所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第一百一號 (八月一日)

(本文ハ東京府士族大塚敏行記名金祿公債證書所在不明ノ件略ス)

○甲第一百二號 (八月四日)

(本文ハ東京府士族田中義利所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第一百三號 (八月四日)

(本文ハ滋賀縣下安原權兵衛所有金祿公債證書所在不明ノ件略ス)

○甲第一百四號 (八月十六日)

(本文ハ静岡縣士族伊東敬治所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

明治十四年七月 大藏省 布達 甲第九十六號 甲第九十七號 甲第九十八號 甲第九十九號 甲第一百號 甲第一百一號 甲第一百二號 甲第一百三號 甲第一百四號 甲第一百五號 四七九

○甲第百八號 (九月二日)
 (本文ハ京都府下松田伍兵衛所有舊公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第百九號 (九月二日)
 (本文ハ岡山縣土族岡本雄美所有金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第百十號 (九月五日)
 (本文ハ滋賀縣下小西平左衛門所有金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第百十一號 (九月五日)
 (本文ハ東京府土族田中義利所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第百十二號 (九月六日)
 (本文ハ鹿兒島縣土族柳勘兵衛外十名記名金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第百十三號 (九月九日)
 (本文ハ長野縣柳澤次郎兵衛愛知縣土族横井朋泰熊本縣土族柳井應傳滋賀縣土族林友次郎福岡縣土族中西三二郎石川縣土族黒田義次静岡縣土族石野正長記名新公債證書金祿公債證書盜難并紛失等ノ件略ス)

○甲第百十四號 (九月九日)
 (本文ハ静岡縣土族雨宮仙司東京府土族龍崎文太記名金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第百十五號 (九月九日)
 (本文ハ静岡縣土族池田嘉和所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第百十六號 (九月十二日)
 (本文ハ山口縣土族上村右一所有金祿公債證書遺失ノ件略ス)

○甲第百十七號 (九月十七日)
 (本文ハ愛知縣土族川口熊吉所有金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第百十八號 (九月十九日)
 (本文ハ福岡縣土族林田義泰所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第百十九號 (九月十九日)
 (本文ハ滋賀縣下西川基以所有新公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第百二十號 (九月二十二日)
 (本文ハ東京府下山際照大坂府下植田彌平次外一名所有起業公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第百二十一號 (九月二十六日)
 (本文ハ島根縣下島谷忠之助京都府下頼又二郎所有起業公債證書盜難并甲第四十號布達中正誤ノ件略ス)

○甲第百二十二號 (九月二十八日)
 (本文ハ静岡縣土族大堀包次郎岡山縣土族岡本雄美所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

- 甲第百二十四號 (十月四日)
(本文ハ東京府士族池田鈴藏所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)
- 甲第百二十五號 (十月四日)
(本文ハ新潟縣下南半之助所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)
- 甲第百二十六號 (十月四日)
(本文ハ静岡縣士族雨宮仙司東京府士族龍崎文太記名金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第百二十七號 (十月七日)
(本文ハ山口縣士族富永清水所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)
- 甲第百二十八號 (十月七日)
(本文ハ滋賀縣下山元治三郎山元善三郎共有起業公債證書所在不明ノ件略ス)
- 甲第百二十九號 (十月八日)
(本文ハ滋賀縣下木木利兵衛外一名所有新公債秩祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第百三十號 (十月八日)
(本文ハ東京府士族大塚教行記名金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第百三十一號 (十月十二日)
(本文ハ神奈川縣士族高室茂廣外一名記名金祿公債證書所在不明ノ件略ス)
- 甲第百三十二號 (十月十三日)
(本文ハ長崎縣士族笹木休滋所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)
- 甲第百三十三號 (十月十四日)
(本文ハ大阪府下加納仲記名舊公債證書所在不明ノ件略ス)

- 甲第百三十四號 (十月十四日)
(本文ハ愛知縣士族川口熊吉所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第百三十五號 (十月十五日)
(本文ハ愛知縣士族辻可一所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)
- 甲第百三十六號 (十月十八日)
(本文ハ滋賀縣下安原權兵衛所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第百三十七號 (十月十九日)
(本文ハ東京府士族池田鈴藏所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第百三十八號 (十月二十四日)
(本文ハ和歌山縣下井邊繼記名金祿公債證書盜難ノ件略ス)
- 甲第百三十九號 (十月二十四日)
(本文ハ静岡縣士族石野正長東京府士族榎木常親所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第百四十號 (十月二十五日)
(本文ハ徳島縣士族青山道次郎東京府士族鈴木重光所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第百四十一號 (十月二十七日)
(本文ハ山形縣士族内村良藏外一名記名金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第百四十二號 (十月二十九日)
(本文ハ兵庫縣下川西善右衛門所有起業公債證書發見ノ件略ス)

○甲第百四十三號 (十月二十九日)

(本文ハ廣島縣士族梶山精一所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第百四十四號 (十一月二十九日)

(本文ハ神奈川縣士族高室茂廣外一名記名金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第百四十五號 (十一月四日)

(本文ハ京都府士族中井正居大坂府下石田宇三郎記名金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第百四十六號 (十一月五日)

(本文ハ長崎縣士族津田春耕外十一名同縣下古賀吉藏外一名山口縣士族矢島作郎記名金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第百四十七號 (十一月五日 續前)

千葉縣下總國銚子第百四拾貳國立銀行ノ儲本年本月一日ヨリ大坂第三拾貳國立銀行へ合併營業致度官願出開居候就テハ第百四拾貳銀行ヨリ發行セシ紙幣ハ従前ノ通通用セシメ右引換方等ノ儀ハ第三拾貳銀行本店ニ於テ爲取扱候條無疑念授受可致此旨布達候事

○甲第百四十八號 (十一月五日)

(本文ハ兵庫縣下川西善右衛門所有起業公債證書發見ノ件略ス)

○甲第百四十九號 (十一月七日)

(本文ハ滋賀縣士族岡部常所有金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第百五十號 (十一月七日)

(本文ハ兵庫縣士族八木恒吉所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第百五十一號 (十一月九日)
(本文ハ滋賀縣下井狩彌左衛門所有起業公債證書所在不分明ノ件略ス)
○甲第百五十二號 (十一月九日)
(本文ハ大坂府下金坊繼治記名金祿公債證書紛失取消ノ件略ス)
○甲第百五十三號 (十一月九日)
(本文ハ和歌山縣下南方平助所有起業公債證書被欺取ノ件略ス)
○甲第百五十四號 (十一月九日)
(本文ハ京都府下渡邊ツヤ同府士族村田勇七記名金祿公債證書盜難并所在不分明ノ件略ス)
○甲第百五十五號 (十一月九日)
(本文ハ滋賀縣士族林友次郎所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
○甲第百五十六號 (十一月十一日)
(本文ハ滋賀縣下西川系い所有新公債證書發見ノ件略ス)
○甲第百五十七號 (十一月十六日)
(本文ハ大坂府下加納仲記名舊公債證書發見ノ件略ス)
○甲第百五十八號 (十一月十八日)
(本文ハ滋賀縣士族岡部常所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○乙第一號 (二月二十七日)

本年甲第拾壹號布達ノ旨ニ依リ壹圓貳圓兩種ノ紙幣各大藏省爲換方ニ於テ收入ノ分出納局ヨリ相

治十四年四月一日ヨリ右ニ照準シ取計可申此旨相違候事

諸公債證書取扱順序

- 第一條 諸公債證書管外へ轉出及ロ管外ヨリ轉入ノ節ハ別紙第一號雜形ニ照準シ出入兩様ニ取調差出スヘク尤甲縣ヨリ轉出ノ證書乙縣へ轉入翌月ニ涉ルルハ甲縣ノ送達書ニ記載セル月日ニ基キ該月ノ追加轉入トシテ整理シ経過ストモ各月別冊ニ取調ヘキ事
- 但明治十四年三月以前甲縣轉出ニテ十四年四月以降乙縣へ轉入ノ分モ木文ノ通取計フヘキ事
- 第二條 盜難紛失等ニテ代リ證書ヲ交付スト雖モ枚數金員ニ差違無之ニ付以來ハ轉出入表ニ掲載スルニ不及尤増減越前表ハ從前ノ通差出スヘキ事
- 第三條 利金賦金トモ交付濟ノ小札ハ別紙第二號雜形ノ通仕譯表ヲ添へ相當渡月ノ翌月二十日迄ニ調濟ノ分ヨリ逐次還納スヘシ尤當時事故アリテ交付シ難キモノハ相當渡月ヨリ三ヶ月ノ間ニ交付シ共交付濟ノ分ハ每一ヶ月取總翌月五日ヲ限リ前文同様取扱フヘキ事
- 但木文期限中交付ニ至ラサル分ハ更ニ二ヶ月ヲ期シ都合五ヶ月間ニ交付スヘシ當時尙ホ交付ニ至ラサル分ハ該利金一旦國債局へ還納スヘシ
- 第四條 前條ノ如ク利金賦金トモ交付濟ノ上ハ別紙第三號雜形ノ通勘定帳ヲ調製シ相當渡月ノ翌月二十五日ヲ限リ國債局へ送致スヘシ尤事故アリテ交付方遷延セシ分ハ未決算ト爲シ置キ追テ實際之ヲ交付シタルル追算勘定帳ヲ調製シ共翌月十日ヲ限リ國債局へ送致スヘキ事
- 第五條 事故アリ利賦金交付シ難キヲ以テ一旦國債局へ還納決算ヲ了シタル後事故相解ケ交付ノ順序ニ至リタルルハ更ニ其事由ヲ具シ同局へ該金ヲ請求スヘシ尤勘定帳決算等ノ手續ハ前條ニ準スヘキ事
- 第六條 諸公債證書當管ノ節差出スヘキ合計表ハ以來別紙第四號雜形ニ準シ調製可致尤償却濟ノ

一十五年大藏省第十條修正

一十五年大藏省第十條修正

證書ヲ送達スルルハ利賦金還納仕譯表第二號雜形ニ準シ種類枚數金員ノミ記載シテ差出スヘシ且元利金仕拂濟ノ上ハ賦金受拂勘定帳第三號雜形ニ準シ勘定帳ヲ調製シテ差出ヘク其差出期限等ハ第三四條ノ通タルヘキ事

但利子ノ計算ハ證書每一枚ノ利子ヲ月割ニナシ端數アレハ四捨五入限止ムヘキ事

(別紙別冊略ス)

〇乙第八號 (五月十三日 檢閱)

府 縣

一十八年大藏省第三條修正

諸貸下金取扱方之備別紙之通知正候條明治十四年四月一日ヨリ右ニ照準シ取扱ヘシ就テハ同日へ越貸在高ヲ以テ會計年度ニ據リ各年度ノ返納額ヲ區分シ別紙第一號雜形ノ書式ニ據リ證書相認メ此達到達ノ日ヨリ三十日間ニ國債局へ差出シ從前ノ證書ト交換ヲ請フヘシ此旨相違候事

但十四年三月三十一日迄ニ本納濟ノ金額ヲ差引十四年四月一日へ越未納高ヲ國債局ヨリ通達ニ及フヘキ管ニ付當時納方順序中ニテ未タ本納ニ至ラサル分ハ總テ四月以降ノ計算ト爲スヘシ尤國債局ヨリ通達シタル未納額ヲ其屬ノ臺帳ヨリ差引タル未納額ノ分ト對照シ若シ過不足アルルハ速ニ同局へ申出ヘシ且木文ノ通相違候ニ付テハ明治十三年當管乙第十一號達ハ以來相違候事

(別紙)

諸貸下金取扱順序

- 第一條 貸下金科目ハ救助貸物業貸以上二種從來通當貸付外國債代償從來通當貸付外國債雜貸從來貸付下種七種ニ分ル
- 第二條 貸下金證書ハ別紙第一號雜形ノ通會計年度ニ據リ各年度ノ返納額ヲ區分調製スヘシ
- 第三條 貸下金ノ内年賦延身代限又ハ棄捐取消等ノ處分ニ係リ各年度返納額ニ異動ヲ生スルモ證書ハ其時々交換ヲ要セス就テハ右等ノ事故ニ係ル増減ハ勿論通當返納金トモ別紙第二號雜形ノ書式ニ據ヒ貸在高増減追調表ヲ調製シ每期勘定帳ト共ニ差出シ而シテ翌年度七月一日ノ未納額

ニ基テ新證書ヲ認メ最前ノ分ト交換ヲ請フヘシ

第四條 受拂勘定帳ハ其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ四期ニ區分シ每期別紙第三號雛形書式ニ照シ該期中ニ於テ納金本納濟領收證書收稅委員ノ領收證書ト交換濟ノ分ヲ以テ調整シ翌月十日限り各廳ヲ發遣スヘシ若シ事故アリテ六月迄ニ徵收方不行届七月以後ニ涉ル分ハ十一月ヲ以テ打切徵年度相當ノ返納額ニ限ルヘシ既往年度滞納ノ分該年度ノ追補勘定ト爲シ七八九ノ三ヶ月ヲ初ニテ七月以降納入ノ分ハ翌年度ノ決算ナルヘシ該年度ノ追補勘定ト爲シ明トシ十一月ノ二ヶ月ヲ次兩度ニ割製スヘシ尤次期二ヶ月ノ分ニ於テ該年度ノ完結ヲ爲スモノニ付右次期迄ニ屬スル本納濟領收證書收稅委員ノ領收證書ト悉皆交換濟ノ後日數十日限りニ調整シ各廳ヲ發遣スヘシ

但勸業貸下金ニ限リ納入金毎株明細書ヲ作り每期勘定帳ニ添ヘ差出スヘシ

第五條 前條十一月末日迄皆納ニ至ラサルモノアレハ其未納額ハ何年度滞納トシ總テ翌年度勘定組ト爲シ其事由金員等詳細具狀シ處分方ヲ伺出ヘシ

第六條 各負債主ト所轄廳トノ間ニ於テ約定及ヒ取扱方トモ總テ從前ノ通タルヘシ

第七條 負債主逃亡絶家或ハ貧困其他ノ事故ニ依リ返納金棄捐又ハ年賦割換返納納額等ヲ願出タルハハ總テ從前ノ通タルヘシ尤右等上市ノ節ハ貸下高及ヒ分借高并返納濟何年分内納未濟等ノ金員又ハ從前ノ年賦割其他貸下金種類ノ區別等詳細掲記スヘシ

第八條 利引ニ關セズ繰上ケ一時納及ヒ舊藩々貸下金利引一時納又ハ身代限之者分配金上納等ノ類都テ各年度ノ納額ニ異同ヲ生スル分ハ第七條ニ準シ排切高利引高利引割合取立年月等詳細掲記其時々届出ヘシ

第九條 諸貸下返納金ヲ收稅委員へ送納ノ際該金額ニ係ル種類ノ科目及納入年度ノ區別ヲ立別紙第四號雛形書式ニ倣ヒ返納證書ヲ作り同時ニ國債局へ送附スヘシ

乙第二十七號達案

但返納金收稅委員へ送納ノ節同員へ宛差出來タル納證及ヒ授受ノ手續ハ從前ノ通タルヘシ

(別紙雛形略ス)

○乙第九號 (五月十三日)

府 縣

今般當省乙第八號達ヲ以諸貸下金取扱方改正候ニ付テハ明治十四年三月三十一日迄ニ係ル勘定任上ハ早々取調決算ヲ受ケヘシ尤右期節迄ノ勘定帳未タ整頓不致向ハ新貸下追加處分棄捐取消及ヒ負債主轉籍等ノ外ハ内譯ノ口數ト人名トヲ省キ返納ノ部ハ領收證書ノ號ヲ内譯ニ掲ケ合計ヲ以テ勘定任上取計不背候條此旨相達候事

○乙第十號 (五月十三日 輪原傳)

今般第拾五號公布ノ趣ニ據リ明治十二年三月乙第拾七號ヲ以相達候國稅金領收順序附錄別紙ノ通更正候條此旨相達候事

十七年大藏省第四十一號達ヲ以テ廢止

國稅金領收順序附錄

(別紙)

一 納稅期限ニ至リ若シ稅金皆納シ能ハサル者アルトキハ別紙納稅切符第一雛形ノ如ク戶長ニ於テ其納金額ノ傍ヘ現ニ上納スル金額ヲ内書ニシ不納金額ヲ外書ニシ成規ノ順序ヲ經テ郡區役所ヘ上納シ別紙納稅切符第一雛形トハ國稅領收順序中ニ示セル甲乙納稅切符ト知ルヘシ且其不納者ノ住所姓名事由ヲ詳記シテ郡區長ニ告知ス可シ郡區長ハ之ヲ得テ先ツ其不納金額ヲ別紙第三雛形ノ通不納額帳ニ登記シ之ト別紙第一雛形ノ甲切符ノ右側ニ(イ)印ノ如ク割印ヲ捺シ而シテ其現納金額ヲ納額元帳ニ記入シ其納稅切符ノ納金額ニ對シ領收ノ證印ヲ捺シ甲切符ハ戶長ニ付與シ乙切符ハ收稅委員ニ送付スヘシ

一 其不納者ノ處分ヲ爲シテ徵收シタル稅金ハ戶長ニ於テ別紙第二雛形ノ通り切符ヲ作り其金額ヲ大藏省爲換方ヘ相預ケ預リノ證印ヲ受ケテ郡區役所ヘ上納ス可シ郡區長ハ之ヲ得テ其金額ヲ不納額帳ニ照合シテ領收證書ヲ交付シ切符ハ收稅委員ニ送付ス可シ

乙第三十號達及十六年大藏省第五十八號達ヲ以テ附錄中更正

明治十四年五月 大藏省 令 乙第九號 乙第十號

第三種形

明治何年何月何日

第何期納何年何月何日限

金百圓

内 納

外 金九拾圓

之 納

何月何日納

何那何村

何之誰

納

何那何村

何之誰

右現金何月何日大藏省爲換方... 何那何村

何之誰

明治何年何月何日

第何期納何年何月何日限

高金百圓ノ内

金九拾圓

何月何日納

何那何村

何之誰分

何月何日不納處分濟收ノ分

右現金何月何日大藏省爲換方... 何那何村

何之誰

明治何年何月何日

第何期納何年何月何日限

金百圓

内 納

外 金九拾圓

之 納

何月何日納

何那何村

何之誰

右現金何月何日大藏省爲換方... 何那何村

何之誰

明治何年何月何日

第三種形

明治何年
何稅不納額帳

何
區郡

(紙表)

此帳簿ハ各稅納期ヲ過キ不納金額ヲ掲ケルモノナリ
公費處分等ニテ不納金額ヲ徵收セントキハ會員ノ傍ヘ何月何日處分濟收入ト記入ス
若シ處分濟ノ上ニ不納金額ニ不足ヲ生セントキハ内書ニ徵收ノ員額ヲ掲ケ其下ヘ何月何日處分濟收入ト
記入シ差引不足ノ金額ヲ傍ヘ掲ケ其姓名事由等ヲ但書ニ詳記ス

(納稅切符イ印ト割印)

一金何程

但何々(事由記載)

何月何日處分濟收入

何
區郡

何
村町

何之誰分

○乙第十一號 (六月二十三日)

明治十三年九月第四拾號及第四拾壹號公布酒造并賣廻營業免許鑑札見本相渡候條此旨相違候事

○乙第十二號 (七月二日 檢原附)

府 縣

十五年大藏省第六
號達案并

明治十四年六月七月 大藏省 達 乙第十一號 乙第十二號

明治十四年七月 大藏省 達 乙第十三號 乙第十四號 乙第十五號 乙第十六號 乙第十七號 乙第十八號 四九四

常省國債局大坂支局ノ備明治十四年六月三十日限相廢條爲心得此旨相違候事

十八年六月三十日
地租改正事務

○乙第十三號 (七月四日 輪附) 府 縣

十八年大藏省第六
十五號達ニ依リ消滅

地租改正事務局廢務ノ備ハ租稅局ニ於テ取扱候條此旨相違候事

十八年大藏省第六
十四號達ニ依リ消滅

○乙第十四號 (七月五日 輪附) 府 縣

今般第五拾六號ヲ以度量衡取締條例第十二條改正ノ備公達相成候ニ付テハ十四年度以降稅表別冊

離形ノ通相定候條每半期分調製各翌月二十日限該地ヲ發シ當省へ可差出此旨相違候事(別冊略ス)

但十三年度稅表ニ別冊離形ニ準シ全年分合算本年七月三十一日限リ差立ヘシ

○乙第十五號 (七月八日 輪附) 府 縣

外國品調度掛并客歲乙第拾號ヲ以達置候外國品購求取扱手續共相廢殘務ノ備ハ當省報告課ニ於テ

取扱候條此旨相違候事

○乙第十六號 (七月十四日 輪附) 府 縣

明治十三年五月當省番外達諸稅郡區總計表ノ內米商會所以下五種ノ分本年一月以降差出ニ不及候條

此旨相違候事

○乙第十七號 (七月十六日 輪附) 府 縣

酒造遺石稅第三期納ノ分十三年度以降ハ右收納期月相當ノ年度へ組入候條ト可相心得此旨相違候

事

○乙第十八號 (七月十六日 輪附) 府 縣

客歲乙第三拾六號達銀行當坐預金小切手稅印押捺出願者心得方別紙之通更正候條此旨相違候事

(別紙)

一銀行當坐預金小切手ニ稅印押捺ヲ請フトキハ其枚數ヲ詳記スル書面へ小切手ヲ添テ租稅局

東京
高世

十七年大藏省第七
十五號達ニ依リ

消滅

十七年大藏省第七
十六號達ニ依リ消滅

○乙第十九號 (七月二十七日 輪附) 府 縣

明治八年乙第八拾四號ヲ以相達置候地券證印稅帳書式別紙ノ通更正候條明治十四年度以降右ニ做

日測製可差出此旨相違候事(別冊略ス)

○乙第二十號 (八月二日 輪附) 府 縣

當省甲第七拾五號ヲ以損傷新紙幣交換規則布達候ニ付テハ交換濟ノ損札ハ中央菊章并數位番打

拔候條ト可相心得候此旨相違候事

但打拔ノ順序ハ去ル十二年當省番外達ノ通相心得器械ハ大ノ方相用ヒ可申候事

○乙第二十一號 (八月五日 輪附) 府 縣

十四年度以降賞勳年金軍人恩給並徵兵費申請ノ節ハ別紙各書式ニ照準任譯書ヲ製シ請求書へ添付

差出候條ト可相心得此旨相違候事

(別紙)

明治何年白何月賞勳年金任譯書

合金

內譯

監票帶號	助	等	年	金	金	員	官	姓	名
武官	年	金							
小計金									

明治十四年七月八日 大藏省 達 乙第十九號 乙第二十號 乙第二十一號

四九五

△元反別何程 起返丈量増
 内反別何程 起返丈量減
 外反別何程 起返丈量増
 此地價金何程
 此地租金何程
 内
 △元反別何程
 △元地價金何程
 △元地租金何程
 反別何程 明治何年ヨリ何年マテ何ヶ年季
 内反別何程 起返丈量増
 外反別何程 起返丈量減
 此地價金何程 △元反金何程
 此地租金何程 反金何程
 △元反別何程
 △元地價金何程
 △元地租金何程
 反別何程 明治何年ヨリ何年マテ何ヶ年季ノ内
 内反別何程 同上
 外反別何程 同上
 此地價金何程 △元反金何程
 此地租金何程 反金何程
 △元反別何程
 △元地價金何程
 △元地租金何程

乙第二十五號 明治十八年太政官第
十三號 達ニ依リ消

△元地租金何程 明治何年ヨリ何年マテ何ヶ年季
 反別何程 右 同 断
 内反別何程 同上
 外反別何程 同上
 此地價金何程 △元反金何程
 此地租金何程 反金何程
 但年季限リ記載スヘシ
 △元反別何程
 △元地價金何程
 △元地租金何程
 一山反別何程
 但内附其他記載方同上
 右ノ外各種ノ名目有之分ハ名
 目限リ記載スヘシ
 但郡區所轄限リニ取調總計ヲ記載スヘシ
 右之通候也
 年 月 日
 ○乙第二十四號 (八月十九日 輪原附)
 今般第三拾四號ヲ以テ歳入科目被相定候ニ付テハ自今國稅領收順序ニ據リ調製スヘキ納稅切符及
 明治十四年八月 大藏省 達 之第二十四號
 何 府 縣 印
 五〇一

十七年大藏省第四十一號達ヲ以テ廢止

納稅證書ハ右小科目記載候儀ト可相心得此旨相違候事
○乙第二十五號 (八月二十七日 輪原附)
府 縣 沖 編 廳
今般大政官第七拾五號令達ノ趣モ有之候ニ付テハ明治十一年十二月 舊省乙第七拾貳號及ヒ同十二年 月乙第拾號達書別紙ノ通更正本年十月一日ヨリ施行シ同日ヨリ收稅委員出張所相廢シ候條此旨相 違候事

(別紙)

十五年大政官第四十六號達ヲ以テ廢止

國稅金領收順序

第一條 稅金領收ノ順序ハ戶長ニ於テ取纏メタル稅金ヲ戶長ヨリ大藏省爲換方ヘ相渡シ共預リ切符ヲ以テ郡區長ヘ納メ郡區長ハ共預リ切符ヲ租稅局出張所長ヘ宛テ送付スルヲ則トス
第二條 爲換方ナル者ハ大藏省ニ於テ各地方適宜ノ場所ヲ撰ヒ之ヲ命スル者トス
第三條 郡區長ハ別紙第一號ノ通甲乙接續セル納稅切符ヲ製シ各稅每納期(地稅ハ納期初)前週クモ十五日以前ニ各町村納稅元帳ニ據リ共納金額及ヒ納期限ヲ甲乙納稅切符ヘ記入シ第一號甲納稅切符ヘ一印ノ如ク郡區役所ノ印ヲ捺シ且元帳金額ト割印ヲ捺シ之ヲ戶長ニ相違スヘシ尤地券 證印稅新規營業稅ノ類及ヒ其時々收入ノ諸稅等ニテ甲乙接續切符ノ手續ニ據リ難キモノハ戶長ニ於テ一稅毎ニ別紙第二號ノ如ク納稅切符ヲ製シ大藏省爲換方ヘ預ケ入レ共時々郡區役所ヘ上納スヘシ
但本人ヨリ直ニ府縣廳若クハ郡區役所ヘ上納スルモノアラハ同ク第二號納稅切符ヲ用ヒ本人ノ姓名ヲ記シ捺印スルモノトス
第四條 郡區長ハ前條ノ如ク戶長ヘ納稅切符ヲ達シタル后週クモ三日以内ニ該期ノ納稅額ヲ別紙第三號ノ通り調製シテ之ヲ租稅局出張所長ヘ報告スヘシ

十六年大藏省第六十三號達ヲ以テ廢止

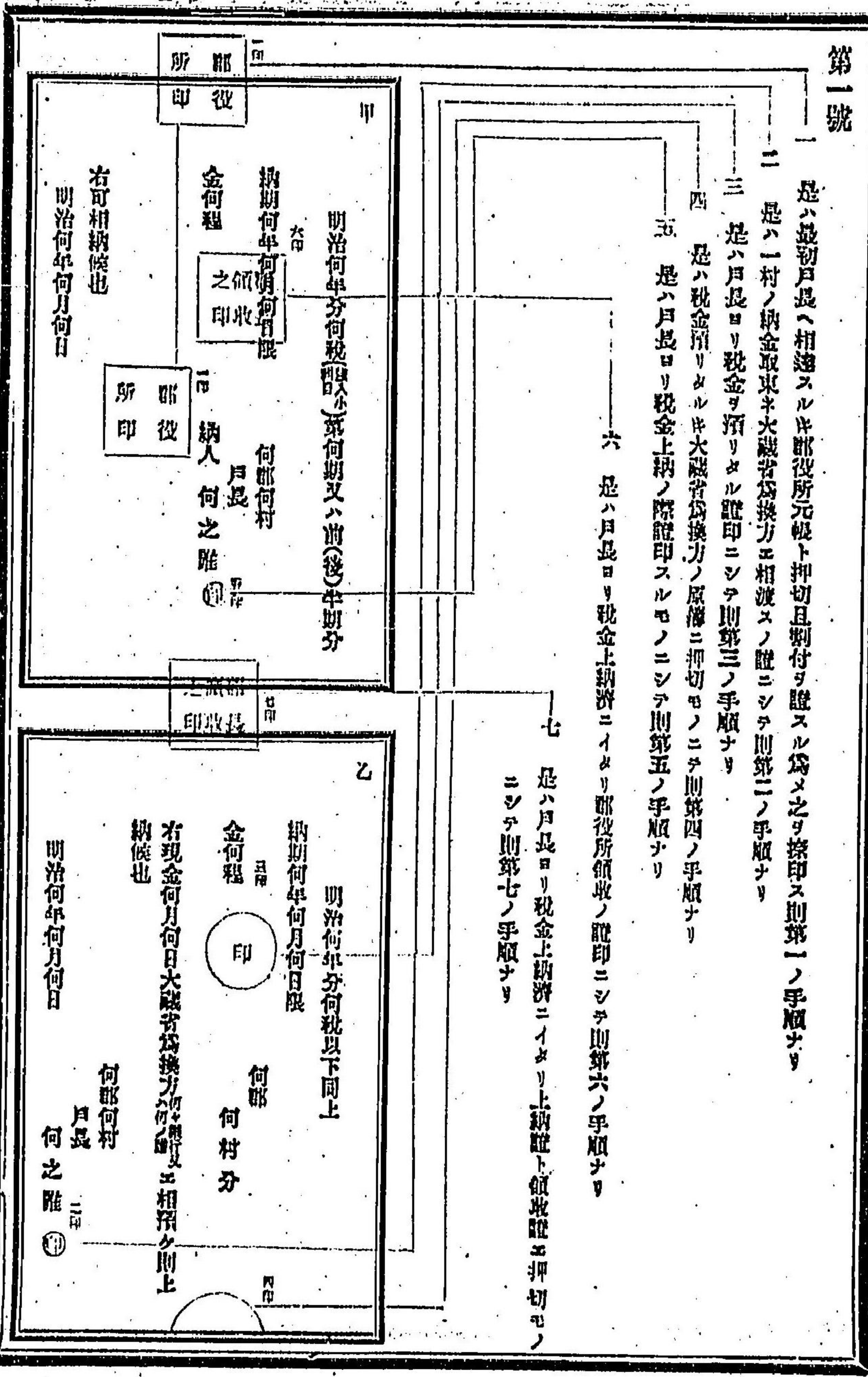
但納額報告后増減ヲ生スルトキハ其時々之ヲ進報スヘシ

第五條 戶長ハ納稅切符ヲ得テ其町村一人別帳ニ據リ納稅者ニ違シ納金額ヲ取纏メ第一號乙納稅切符ヘ二印ノ如ク調印シ共現金ニ添ヘ大藏省爲換方ヘ持參スヘシ
但上納期限前ニ集リタル金額ハ別紙第二號ノ如ク納稅切符ヲ製シ何ケ度ニモ大藏省爲換方ヘ相預ケ預リノ證印ヲ得共郡區役所ヘ上納シ乙納稅切符ハ未納又ハ期限ニ至リ別紙第四號ノ如ク記載シ本文ノ順序ヲナスヘシ
第六條 大藏省爲換方ハ金額ヲ預リタルコトヲ證スル爲メ第一號乙納稅切符金額ノ下ヘ三印ノ如ク證印ヲ捺シ尙ホ預リ金額金額ト第一號乙納稅切符ヘ四印ノ如ク割印ヲ捺シ之ヲ戶長ヘ相渡スヘシ
第七條 戶長ハ第一號甲納稅切符ヘ五印ノ如ク調印シ郡區役所ヘ上納スヘシ
第八條 郡區長ハ各戶長ヨリ上納セル甲乙納稅切符金額ト納稅元帳トヲ照査シ共納濟又ハ内納ノ金額ヲ元帳ヘ記入シテ後第一號甲納稅切符ヘ六印ノ如ク郡區長領收ノ證印ヲ捺シ尙ホ七印ノ如ク甲乙切符接續ノ中央ヘ郡區長ノ印ヲ捺シ而シテ甲乙之ヲ分截シ乙ハ郡區役所ニ留置キ甲ハ戶長ニ付與シ以テ稅金納濟ノ證トスヘシ
但第二號納稅切符ヲ以テ納メ來ルモノハ其時々郡區長名印ノ領收證書ヲ調製付與スヘシ
第九條 郡區長ハ共留置キタル納稅切符ヲ一旬日毎ニ取纏メ週クモ三日以内ニ別紙第五號ノ通郡區長名印ノ納稅證書ヲ添ヘ之ヲ租稅局出張所長ヘ宛テ送付スヘシ
第十條 租稅局出張所長ハ納稅切符ヲ請取タル日ヨリ週クモ三日以内ニ別紙第六號ノ通所長名印ノ領收證書ヲ郡區役所ヘ送付スヘシ
第十一條 地方官廳ハ全管管濟ニ至ラハ各稅大科目毎ニ管濟帳ヲ調製シ大藏卿ヘ差出シ之カ決算ヲ爲スヘシ

乙第三十四號達ヲ以テ第十一條ヲ增補シ第十一條ヲ第十二條ト更正

第一號

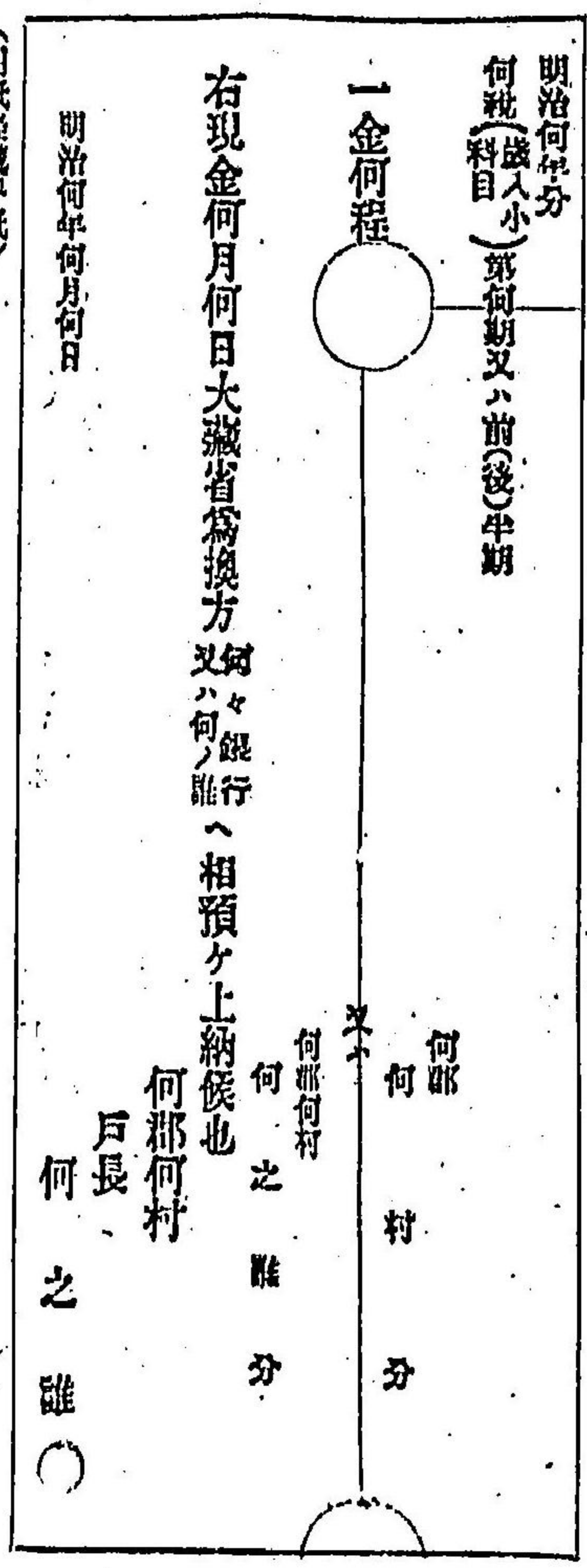
- 一 是ハ最初ノ月長ノ相違ニシテ郡役所元帳ト押切且割付ヲ證スル爲メ之ヲ捺印ス則第一ノ手順ナリ
- 二 是ハ一村ノ納金取束ヲ大藏省爲換方ニ相渡メノ證ニシテ則第二ノ手順ナリ
- 三 是ハ月長ヨリ税金ヲ預リタル證印ニシテ則第三ノ手順ナリ
- 四 是ハ税金預リタル後大藏省爲換方ノ原簿ニ押切モノニテ則第四ノ手順ナリ
- 五 是ハ月長ヨリ税金上納ノ際證印スルモノニシテ則第五ノ手順ナリ
- 六 是ハ月長ヨリ税金上納済ニイタリ郡役所領收ノ證印ニシテ則第六ノ手順ナリ
- 七 是ハ月長ヨリ税金上納済ニイタリ上納證ト領收證ニ押切モノニシテ則第七ノ手順ナリ



第貳號

用紙適宜寸法 縦四寸五分 横三寸三分

大藏省爲換方預リノ證印



第三號

(用紙適宜寸法)

明治何年分

- 一金何程
- 一金何程
- 一金何程
- 合金何程
- 右之通候也
- 年月日

租税局出張所長宛

- 何税(課入小) 第何期
- 何税(前同) 第何期
- 又ハ 何税(前同) 前(後) 半期
- 郡區長姓名印

第四號

大藏省爲換方所リノ證印

明治何年何月何日 納期何年何月何日 何部 何村分

金百圓 眞面ノ通納濟 何月何日納

内 金九拾五圓 何部何村

右現金何月何日大藏省爲換方所リノ證印 何月何日納

明治何年何月何日 何之誰

裏面

金五拾圓 何月何日納

金貳拾圓 何月何日納

金貳拾五圓 何月何日納

小以金九拾五圓

第五號

(用紙美濃原紙)

(此納稅證書ハ一稅(錢入小)限各通ニシメシ但營業稅ノ如キハ豫後又ハ新規ノ文字ヲ記載各通ニシメシ) 證

第何號

一金何程

但何部何村ノ明治何年何稅(錢入小)第何期又ハ前後(半期分)

右ノ上納候也

年 月 日

租稅局出張所長宛

郡區長姓名印

第六號

出張所長領收證

花紋
一金何程
但明治何年何稅
右請取候也
年 月 日
郡區長宛
出張所長官 姓名印

十六年大藏省第六十三號追加

十七年大藏省第四
十九號通令八年同
第六十五號通令以
外更正

○乙第二十六號 (九月九日 輪附)
府 縣 沖繩縣
明治十三年五月舊地租改正事務局乙第三號ヲ以券狀用紙遺拂差出方ノ儀相違シ置候處其定式附用
ノ分ニ限リ十四年度以降ハ更ニ別紙離形ニ做ル半年度毎ニ取調當省(上半年ハ一月三十一日限)
可差出此旨相違候事

(別紙)

(△印ハ朱書)

明治何年度上半季

定式供用券狀用紙受拂明細書

一券狀用紙何枚

前期ヨリ越高

一同 何枚

何月何日受取

外何枚

運搬中損紙換
紙可受取分

合何枚

内

何枚

何枚

何枚

外

何枚

右之通候也

新用紙下付

書 損

現在高

何年度上半季ノ

越高

△裏面區畫中ニテ換
下ク波候分

何府縣

年 月 日

大藏卿宛

長官印

府

縣

廣南縣署丙第十
一號通令十五年大
藏省第二十一號通
十九年開令第三號
ニ依リ消滅

○乙第二十七號 (九月十六日 輪附)
府 縣
雜收入及諸返納金其他經費殘餘ノ還納等納付順序ノ儀ニ付明治十二年乙第貳拾六號同三拾六號同
三拾八號等ヲ以テ追々相違候趣モ有之候處右順序ハ相廢シ候條來ル十月一日ヨリ左ノ通可相心得
此旨相違候事

一納人ハ納金證書ニ本中乙第貳拾五號通令現金ヲ添ヘ大藏省爲換方ヘ預ケ入其領收ノ證印ヲ得テ
管廳ヘ納付シ管廳ニ於テハ此證書ニ納證ヲ添ヘ直チニ本納ノ順序ヲ爲スヘシ
但府縣廳ヨリ直ニ納付スルモノモ本文ニ準ス

一大藏省爲換方ヘ預ケ入ノ後本納以前其金員ノ誤納ヲ發見スルルハ管廳ニ於テ預ケ入ノ月日納
人ノ姓名等ヲ記シ直ニ爲換方ヘ通知シ置ヘシ納人ハ爲換方ノ證印アル證書ヲ持參シ現金ヲ受
取ヘシ

但過納金モ本文ノ手續ニ準スヘシ

一本年乙第八號通令貸下金取扱順序第九條ノ儀モ前項ニ準シ改正候備ト心得ヘシ

十六年大藏省第十
三號通令依リ消滅

○乙第二十八號 (九月十六日 輪附)
府 縣 沖繩縣
營繕營業稅ノ備七月ヨリ九月迄ニ收入ノ分ハ其收納期月相當ノ年度ヘ組入候備ト可相心得此旨相
違候事

○乙第二十九號 (九月十九日 輪附)

租稅豫算帳ノ義明治十五年度以降前年度十一月十日迄ニ該帳ヲ發シ租稅局ヘ送付スヘシ此旨相違
候事

十七年大藏省第四十一號

○乙第二十號 (九月二十日 輪原附) 今般省乙第二十號ヲ以國稅金額收順序更正相違候ニ付テハ本年五月乙第拾號達國稅金額收順序附録中左ノ廉々更正候條此旨相違候事

一本文中「收稅委員」トアルヲ「租稅局出張所長」ト改ム

一第壹號第貳號離形中「地稅」トアルヲ「何稅(科目)」(第何期又ハ前(後)半期分)ト改メ「第何期納」トアルヲ「納期」ト改ム

○乙第三十一號 (九月二十二日)

地租改正費繰替金ニ係ル遞送費ノ備ニ付明治九年十月二日舊地租改正事務局乙第拾五號ヲ以右費額ハ同局ヨリ可相違旨相違置候處本年七月以降ハ驛遞局ヨリ費額及ヒ還納方可及通牒書ニ候條通牒次第證印稅ノ中ヨリ支出シ同局へ還納可取計此旨相違候事

○乙第三十二號 (九月二十二日 輪原附)

八年第貳拾七號布告車稅規則中人力車ノ備置巾内法曲尺式尺未滿ヲ以テ登人乗トシ右以上ヲ以テ

○乙第三十三號 (九月二十七日 輪原附)

舊省租稅局員諸稅監査ノ爲メ巡回候者ハハ自今印章ヲ提携爲致候ニ付テハ右印章參照ノ爲メ租稅局ヨリ相違スヘク候條警察署(東京府ハ郡區役所及ヒ戶長役場)配付シ置ク可シ此旨相違候事

○乙第三十四號 (九月二十八日 輪原附)

本年當省乙第貳拾五號達國稅金額收順序中第拾壹條左ノ通增補シ難ノ拾壹條ヲ拾貳條ト更正候條此旨相違候事

十七年大藏省第四十一號

十七年大藏省第三十六號

乙第四十二號

明治十四年九月 大藏省 達 乙第三十號 乙第三十一號 乙第三十二號 乙第三十三號 乙第三十四號 五一〇

十八年大藏省第七十四號

○乙第三十五號 (十月十日 輪原附) 本年四月第貳拾六號公布ヲ以賣藥行商雜札料被廢候ニ付テハ昨十二年九月當省乙第拾貳號達賣藥稅表離形十四年度以降別紙ノ通更正候條右ニ照準期限通り調製可差出此旨相違候事(別紙略ス)

○乙第三十六號 (十月十九日 輪原附)

昨十三年十一月當省乙第拾號達賣藥稅則取扱心得書中第六號離形別紙ノ通更正候條右ニ照準期限通り調製可差出此旨相違候事(別紙略ス)

○乙第三十七號 (十月二十六日 輪原附)

明治十年五月地租改正事務局長總地稅署乙第六號達第貳條民有ノ山野ヲ宅地ト爲スモノ云云ト有之

○乙第三十八號 (十一月四日)

地券證印稅受拂勘定仕上ノ儀論地等小部分ノ爲メ全體ノ勘定ヲ延滞候テハ不都合ニ付左ノ條項ニ據リ早急勘定完結候條可致此旨相違候事

一 地租改正ノ後新規渡券狀悉皆渡濟候ハ、直ニ證印稅勘定完結可致若シ新規券狀悉皆渡濟ノ際ニ至リ論地等小部分券狀渡方差支候モノ有之トキハ其事務ハ常務ニ編入取扱證印稅勘定ハ右悉皆渡濟ノ際ヲ以テ分界トシ勘定完結可致事

一 新規渡用トシテ換テ渡シ置タル券狀用紙右勘定完結ノ際ニ至リ若シ殘餘アルトキハ直ニ定式用ニ編入シ其員數可届出事

但本文新規渡シ用トシテ渡シ置タル券狀用紙代價ハ總テ改正費ノ内ヲ以還納可致事

○乙第三十九號 (十一月五日 輪原附)

明治十四年十月十一日 大藏省 達 乙第三十五號 乙第三十六號 乙第三十七號 乙第三十八號 乙第三十九號 五一一

十九年大藏省令第五號

軍人恩給並賞勳年金渡方ノ備ハ兼テ成規ノ期限モ有之候處請求方遲延ニ依リ本人へ下付相後候様ニテハ不都合ニ有之候條以來ハ渡期節前月ノ内請求可申出此旨相違候事

府 縣

○乙第四十號 (十一月五日 檢附)

銀行紙幣廢造札撤收札處分方之儀ハ明治九年四月第五拾七號布告及日同年五月當省甲第拾貳號布達同年五月當省乙第四拾號通ニ準據候儀勿論ニ候得共右處分方結了ノ上ハ該札相添銀行局へ可届出儀ト可相心得且又右第五拾七號布告規則第二條等ニ據リ引換フヘキ正紙幣ヲ改入ヨリ差出候トキハ其接近ノ地ニ設立スル國立銀行本支店(其紙幣ヲ發行セシ銀行ニアラサルモ)へ下付シテ交換セシメ代リ金ハ該銀行ヨリ直チニ其改入へ交付可爲致此旨相違候事

府 縣

○乙第四十一號 (十一月九日)

今般第七拾貳號ヲ以テ出納勘定帳書式御達相成候處當省へ可差出勘定帳ニシテ十三年度所屬ノ分迄ハ客歲乙第貳拾七號通ノ通可相心得此旨相違候事

府 縣 沖繩縣

○乙第四十二號 (十一月十一日)

本年九月乙第三拾貳號ヲ以テ人力車登人乘取人乘取別ノ儀相違候ニ付テハ更正ニヨリ税金ニ増減ヲ生スルモ概納ノ分ニ限リ其他據置明治十五年一月ヨリ更正税金徵收候儀ト可心得此旨相違候事

府 縣

○乙第四十三號 (十一月十五日 檢附)

明治十三年當省乙第五號達一月一日現員表相廢シ自今十一月一日現員表別紙離形ノ通調製豫算帳一同可差出此旨相違候事

(別紙)

(某年トハ前年即チ十五年度ヲ指スルハ十四年ヲ云フ)
某年十一月一日現員表
陵墓守及守丁俸給

十八年大藏省第五十九號通ヲ以テ廢止

名	稱	人	員	毎	登	人	月	給	計
説	掌	何	人	金	若	千	金	若	千
説	丁	何	人	金	若	千	金	若	千
説	掌	何	人	金	若	千	金	若	千
説	丁	何	人	金	若	千	金	若	千
守	丁	何	人	金	若	千	金	若	千
合	計	〇		金	〇		金	若	千
<p>招魂社費</p> <p>名 稱 員 數</p> <p>社 數 若 千 (京都市ハ祭料及修繕費ヲ要スル社數ト祭料ノミニノ社數トニ區ニ掲載スヘシ)</p> <p>祭 神 若 千</p> <p>墳 墓 若 千 (修繕費ヲ要スル墳墓數ヲ掲載スヘシ)</p> <p>藥料養育</p> <p>入 員 一人ノ年額 石 數 某年十一月一日下 米平均一石相換</p> <p>何 人 米 若 千 米 若 千 金 若 千 金 若 千</p> <p>窮民恤救</p> <p>名 稱 人 員 一人日額 延日數 一人年額 石 數 某年十一月一日下 米平均一石相換</p> <p>七十歳以上 何 人 〇 〇 米 若 千 米 若 千 〇 〇</p>									

明治十四年十一月六號省 通 之第四十三號

全管平均	何國平均	何々郡	何村	何郡	何町	何月	
						三月	二月

右若府府縣明治何年何月ヨリ何月迄ノ物價平均書面之通候也
 明治何年何月日
 府知事 苗字名
 府 縣
 ○乙第四十六號 (十一月十九日)
 諸公債證書記 管外轉出入表及越高表眉方ノ儀ハ明治八年第九拾五號布告新舊公債條例第二條第七

十九年大藏省訓令
第二十五號ニ依リ
消滅

二十一年勅令第七
十三號施行

十五年大藏省乙第
二十一號ニ依リ
消滅

節ノ通算ケ月分取纏ノ翌月五日迄ニ可届出ノ處差出方通延ノ向不抄右ハ遞送日合モ相掛リ旁延著
 ニ及ビ毎府縣證書現在高確定難相成殊ニ利賦金渡季節ニ臨ミ交付方ニ差響不便ノ次第二付自後ハ
 精々手練致シ成規ニ不違様毎月五日限リ其地ヲ撥遣届出ツヘシ 取調力ノ儀ハ本年五月乙第七號通
 而巳出スヘシ 此旨相違候事
 ○乙第四十七號 (十一月二十六日 陸軍省)
 府 縣
 明治九年管省甲第拾五號同十三年甲第七拾壹號布達ニ據リ舊公債及金祿公債五拾圓以下ノ證書ヲ
 集計五百圓證書ト交換願出開届候證書ハ()年 月五百圓證書ト交換開届済何府縣ト彫刻ノ證
 印ヲ押捺シ外荷物同様ノ質銀ニテ遞送可致此旨相違候事
 但取扱方等ハ明治八年乙第百拾六號及十一年乙第六拾三號達ニ照準可致事
 ○乙第四十八號 (十一月二十九日 陸軍省)
 府 縣
 雜收入金上納證書并仕證書共自今別紙書式ニ倣ヒ調製可差出且豫算増減報告ノ時時右ニ屬スル納付
 期限仕證書ハ無遺漏差出候儀ト可相心得此旨相違候事
 (別紙)
 川雜傳覽詳詳
 一 金 內 證
 內 證 何年度 雜收入金
 內 金 森林收入
 內 金 何年何月可納分
 金 納期無之分

明治十四年十一月 大藏省 乙第四十七號 乙第四十八號